（イ）瓦斯發生器種類、燃料ノ種類、馬力數、箇數
（常用ト豫備トノ別）製造者名
（ロ）洗滌器種類、箇數
製造者名
（ハ）瓦斯溜大サ、箇數、
製造者名
（ニ）機關種類、馬力數、廻轉數、衝程、汽筒ノ徑、箇數（常用ト豫備トノ別）、
製造者名、調速機ノ種類、點火裝置ノ種類、蓄勢輪ノ徑及重量
（ホ）附屬機器種類
箇數

（四）電氣工事

（イ）發電機型、直流、交流ノ別「キロワット」數又ハ「キロヴオルト、アムペア」數（交流ニ在リテハ力率ヲ記載スヘシ）、電壓、相、周波數、廻轉數、結線法、勵磁法箇數（常用ト豫備トノ別）、製造者名、
（ロ）勵磁機「キロワット」數、廻轉數、電壓、勵磁法、箇數、製造者名、
原動機ト接續方法、原動機ノ種類及馬力數
（ハ）變壓器型「キロヴオルトアムペア」數、一次電壓、二次電壓、相、周
波數、結線法、冷却法、箇數（常用ト豫備トノ別）、製造者名
（ニ）電動發電機、回轉變流機、周波數變換機種類、直流交流ノ別、「キロワット」數、電壓（交流ニ在リテハ力率ヲ記載スヘシ）、廻轉數、箇數（常用ト豫備トノ別）、製造者名
（ホ）蓄電池種類、放電時間、放電
容量、箇數、製造者名
（ヘ）保安裝置種類、構造ノ大要（發電機、母線、變壓
器、送電線等ノ保安裝置）、製造者名

（五）圖面

（イ）水路平面圖取入口ヨリ發電所、放水路ニ至ル一覽圖ニシ
テ水路工作物各部ノ位置ヲ記入セルモノ
（ロ）發電所圖建物及同所內機械器具ノ裝置ヲ示セル平面圖、
圖縱斷面圖及配電盤正面圖（寸法ヲ記入スルコト）

三　送電線路工事　一電線路毎ニ記載スヘシ

（一）電氣方式直流、交流、
相、線式

（二）最大電壓
（三）架空電線路ノ構造
（イ）電線線條數、回線數、太サ、電線及被覆絶緣物ノ種類、電線
地表上ノ平均ノ高サ、電線相互ノ間隔撚架ノ方法
（ロ）支持物平均柱間距離、最大柱間距離、木柱（木材ノ種
類別）、鐵柱及鐵塔ノ數竝其ノ構造ノ大要
（ハ）碍子種類大サ、試驗電壓、試
驗時間及製造者名
（ニ）其ノ他構造ノ大要柱間距離ノ大ナル箇所又ハ他ノ工
作物トノ關係上施設シタル工事
電線路亘長ヲ附記スヘシ
（四）地中電線路ノ構造
（イ）電線線條數、種類及構造、被覆絶緣物ノ種
類、心線ノ種類、數及太サ製造者名
（ロ）布設方法暗渠、線溝、直接埋設等ノ別
ニ依ル布設方法ノ大要
（ハ）其ノ他構造ノ大要地中函、接續函等ノ構造竝他ノ工
作物トノ關係上施設シタル工事
電線路ノ亘長ヲ記載スヘシ
（五）保安裝置地線、避雷器等ノ構造大要、保安上必要ナル電話設備（施設
箇所、電線及被覆絶緣物ノ種類、太サ、回線數、撚架ノ方法）

四　送電線路ノ構造ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ說明スヘシ
變電所工事　一變電所毎ニ記載スヘシ

（一）變電所ノ位置及名稱
（二）變電所ノ出力
（三）變電所內設備
（イ）變壓器發電工事（四）
（イ）變壓器ノ（ハ）ニ準ス

（ロ）電動發電機、迴轉變流機、周波數變換機（發電工事（四）ノ（ホ）ニ準ス）

（ハ）蓄電池（發電工事（四）ノ（ホ）ニ準ス）

（ニ）保安裝置　種類、構造ノ大要及製造者名

（四）圖面

（イ）變電所圖（發電工事（五）ノ（ロ）ニ準ス）

（ロ）電線接續圖

五　蓄電所工事（一蓄電所毎ニ記載スヘシ）

（一）蓄電所ノ位置及名稱

（二）蓄電所內設備

（イ）蓄電池（發電工事（四）ノ（ホ）ニ準ス）

（ロ）昇壓機（「キロワット」數、電壓、廻轉數、箇數、製造者名）

（ハ）附屬機器

（ニ）保安裝置　種類、構造ノ大要及製造者名

（三）圖面

（イ）蓄電所圖（發電工事（五）ノ（ロ）ニ準ス）

（ロ）電線接續圖

六　配電工事

（一）電氣方式（直流、交流、相、線式）

（二）電壓

（三）架空電線路ノ構造

（イ）電線（電線及被覆絕緣物ノ種類（高壓及低壓ノ別））

（ロ）支持物（平均柱間距離、木柱（木材ノ種類別）、鐵柱及鐵塔ノ基數）

（ハ）其ノ他構造ノ大要

（四）地中電線路ノ構造

（イ）電線（種類（心線及被覆絕緣物ノ種類、高壓及低壓別）、製造者名）

（ロ）布設方法（暗渠、線渠、直接埋設等ノ別ニ依ル布設方法ノ大要）

（ハ）其他構造ノ大要（變壓函、配電函、接續函及其ノ他地中函ノ構造及圖面）

（五）變壓器（一次電壓、二次電壓、相）

（六）保安裝置（種類及構造ノ大要）

七　電線路ノ構造ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ說明スヘシ

八　他ヨリ供給セラルル電力ノ受電設備工事（一地點毎ニ記載スヘシ）

（一）電力ノ供給ヲ受クル地點ノ位置及名稱（若其ノ地點カ發電所、變電所又ハ蓄電所內ナルトキハ發電所工事又ハ蓄電所內工事ノ項ニ併記スヘシ）

（二）供給電力

（三）送電上ノ責任ノ分界トナルヘキ開閉器又ハ其ノ他ノ設備

（四）保安裝置（種類及構造ノ大要）

電線接續及責任ノ分界ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ說明スヘシ

九　饋電線路（電氣鐵道ノ場合）

（一）電氣方式（直流、交流、相、線式）

（二）電　壓

（三）架空饋電線路ノ構造
（イ）電線（電線及被覆絶縁物ノ種類（高壓及低壓別））
（ロ）支持物（平均柱間距離、木柱（木材ノ種類別）、鐵柱、鐵塔ノ概數）
（ハ）其ノ他構造ノ大要
（四）地中饋電線路ノ構造
（イ）電線（種類、心線及被覆絶縁物ノ種類（高壓及低壓別）、製造者名）
（ロ）布設方法（暗渠線渠、直接埋設等ノ別ニ依ル布設方法ノ大要）
（ハ）其ノ他構造ノ大要（繼壓函、配電函、接續函及其ノ他地中函ノ構造及圖面）
電線路ノ構造ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ說明スヘシ

九　電車線路及軌道

（一）電氣鐵道方式（直流、交流、相、電車線ノ電壓、架空單線式、架空複線式、暗渠單線式、暗渠複線式、第三軌條式、表面接觸式其ノ他方式ノ區別ヲ記載スヘシ）
（二）電車線路及軌道ノ構造
（イ）電車線（架空式ノ場合）（種類、形狀、太サ、亘長、延長、線間距離、電線吊架法、區劃法）
（ロ）支持物（架空式ノ場合）（平均柱間距離、木柱（木材ノ種類別ヘ、鐵柱等ノ概數（側柱中央柱ノ別））
（ハ）軌道（亘長（單複軌道ノ別）、延長、軌間、最大勾配、最小半徑、軌條ノ重量、形狀、接續法、「ボンド」及補助線ノ種類、太サ、施設方法）
（ニ）第三軌條式、暗渠式、表面接觸式ニ在リテハ其ノ施設方法
（ホ）電氣信號裝置（弱電流ニ依ルモノヲ除ク）
電車線路竝軌道ノ構造ハ別ニ局部圖面及縱斷面圖ヲ以テ之ヲ說明スヘシ

十　車輛

（一）電氣機關車（重量、電動機ノ馬力數及箇數、制動機ノ種類、制御器ノ種類、車臺數、製造者名）
（二）電　車
（イ）客車（重量、乘車人員、電動機ノ馬力數及箇數、製造者名、車臺、制動機及制御器ノ種類及製造者名、救難器ノ種類、車臺數（「ボギー」車、四輪車等ノ別））
（ロ）貨車（重量、積載量、電動機ノ馬力數、箇數及製造者名、車臺、制動機、制御器ノ種類及製造者名、車臺數）
（三）附隨車（重量、乘車人員（貨車ナレハ積載量）、車臺數）
車輛ノ構造及電線ノ接續ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ說明スヘシ

○電氣事業法ニ依ル電氣工事規程

明治四十四年九月五日
遞信省令第二六號

電氣事業法ニ依ル電氣工事規程左ノ通之ヲ定ム

電氣工事規程

目　次

第一章　總則
第二節　通則
第二節　機械及器具
一　發電機、電動機其ノ他ノ機械及變壓器
二　配電盤
三　開閉器、自働遮斷器、避雷器其ノ他ノ器具
第三節　電線、電路及附屬設備
一　電線
二　電路
三　保護網、保護線、接地裝置及地線工事
第四節　電線路

一　低壓及高壓架空電線路
二　特別高壓架空電線路
三　地中電線路
第五節　保安通信設備
第二章　電燈及電力
第一節　屋外工事
第二節　屋內工事
一　通則
二　露出工事
三　隱蔽工事
四　線樞工事
五　濕氣ノ充チ易キ場所ニ於ケル工事
六　腐蝕性瓦斯又ハ溶液ノ發散スル場所ニ於ケル工事
七　塵埃ノ充チ易キ場所ニ於ケル工事
八　爆發又ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生、製造若ハ貯藏スル場所ニ於ケル工事
九　劇場內工事
第三節　隧道及坑內工事
第四節　臨時工事
第三章　電氣鐵道
第一節　通則
第二節　架空電車線
第三節　歸線

附　則

電氣工事規程

第一章　總　則

第一節　通　則

第一條　電氣工作物ノ施設及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スルニ必要ナル施設ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

一　發電所トハ發電機、原動機其ノ他機械器具ヲ設備シ電氣ヲ發生スル所ヲ謂フ

二　變電所トハ發電所、蓄電所又ハ他ノ變電所ヨリ送電セラルル電氣ヲ更ニ送電又ハ配電スル爲屋內ニ設備セル機械器具ニ依リ變成スル所ヲ謂フ

三　蓄電所トハ發電所、變電所以外ノ場所ニ於テ蓄電池其ノ他機械器具ヲ設備シ電氣ヲ充電及放電スル所ヲ謂フ

四　開閉所トハ發電所、變電所又ハ蓄電所以外ノ場所ニ於テ送電又ハ配電ノ爲屋內ノ設備ニ依リ電路ヲ開閉スル所ヲ謂フ

五　電線トハ強電流電氣傳送ニ用ウル電氣導體ヲ謂フ

六　電路トハ發電機、大地等ニシテ強電流ノ通スル一全路ヲ謂フ

七　電線路トハ電線及之ヲ支持シ若ハ保藏スル工作物ヲ謂フ

八　送電線路トハ發電所、變電所又ハ蓄電所相互間ヲ連絡スル電線路ヲ謂フ

九　配電線路トハ發電所、變電所又ハ蓄電所ヨリ他ノ發電所、變電所又ハ蓄電所ヲ經過セス需用場所ニ至ル電線路ニシテ引込線以外ノモノヲ謂フ

十　饋電線路トハ發電所、變電所又ハ蓄電所ヨリ他ノ發電所、變電所又ハ蓄電所ヲ經過セスシテ電車線ニ

至ル電線路ヲ謂フ

十一　架空引込線トハ配電幹線ヨリ分岐シ需用場所ノ構外ニ於ケル支持物ヲ經過セスシテ需用場所ニ至ル架空電線ヲ謂フ

十二　地中引込線トハ配電幹線ヨリ分岐シテ直接需用場所ニ至ル地中電線ヲ謂フ

十三　弱電流電線トハ電信線、電話線、電氣信號線其ノ他弱電流ヲ使用スル電氣導體ヲ謂フ

十四　電壓トハ電線相互間若ハ電線ト大地トノ間ニ於ケル電位ノ差ヲ謂フ

十五　低壓トハ直流ニ在リテハ六百「ヴオルト」交流ニ在リテハ三百「ヴオルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

十六　高壓トハ低壓ノ限度ヲ超過シ二千五百「ヴオルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ

十七　特別高壓トハ高壓ノ限度ヲ超過セル電壓ヲ謂フ

十八　地中管路トハ地中ニ施設セル電線路、弱電流電線及之ヲ保藏スル管、瓦斯管、水道管、下水管、空氣管竝之ニ附屬スル地中函及接續函等ヲ謂フ

第三條　電氣事業者ハ五年間本令ノ規定ニ依ル記錄書類ヲ保存スルコトヲ要ス

第二節　機械及器具

第四條　發電機、電動機、電動發電機、迴轉變流機、周波數變換機等ハ全負荷ニ於テ機械ノ溫度一定スルマテ運轉シタル後其ノ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル絶緣耐力試驗ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　低壓又ハ高壓ノモノニ在リテハ其ノ最大使用電壓ノ一倍半ノ電壓ヲ以テ發電子若ハ電動子線輪ト大地トノ間ノ絶緣耐力ヲ試驗シ三十分間以上之ニ耐フルコト但シ試驗電壓ハ百「ヴオルト」以上トス

二　特別高壓ノモノニ在リテハ其ノ最大使用電壓ノ一倍半ノ電壓ヲ以テ發電子若ハ電動子線輪ト大地トノ間ノ絶緣耐力ヲ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト

第五條　變壓器ハ其ノ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル絶緣耐力試驗ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　低壓又ハ高壓ノモノニ在リテハ其ノ一次線輪ト二次線輪鐵心及外函トノ間ノ絶緣耐力ヲ最大使用電壓ノ二倍ノ電壓ヲ以テ試驗シ且低壓線輪ト鐵心及外函トノ間ノ絶緣耐力ヲ交流六百「ヴオルト」ニテ試驗シ各三十分間以上之ニ耐フルコト

二　特別高壓ノモノニ在リテハ左ノ區別ニ依ル試驗電壓ヲ以テ其ノ一次線輪ト二次線輪、鐵心及外函トノ間ノ絶緣耐力ヲ交流六百「ヴオルト」ニテ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト

最大使用電壓　　試驗電壓

（イ）五千「ヴオルト」未滿　最大使用電壓ノ二倍

（ロ）五千「ヴオルト」以上一萬「ヴオルト」未滿　最大使用電壓ニ五千「ヴオルト」ヲ加ヘタルモノ

（ハ）一萬「ヴオルト」以上五萬「ヴオルト」未滿　最大使用電壓ノ一倍半

（ニ）五萬「ヴオルト」以上　最大使用電壓ニ二萬五千「ヴオルト」ヲ加ヘタルモノ

第六條　發電機、電動機、電動發電機、迴轉變流機、周波數變換機等ノ鐵臺竝變壓器ノ外函（外函ナキ場合ニハ鐵心）ハ第一種地線工事（第二十八條）ニ依リ接地スルコトヲ要ス但シ危險ヲ生セシメサル適當ノ施設ヲ爲セル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二　配電盤

第七條　低壓又ハ高壓用ノ器具ヲ取附クル盤ハ不可燃質物又ハ耐水性不易燃質ノ塗料ヲ施シタル堅緻ナル木材ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス

特別高壓用ノ器具ヲ取附クル盤ハ絶緣性耐火質物ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス

第八條　盤ニ取附クル器具及接續電線ハ容易ニ點檢シ得ル樣施設スルコトヲ要ス但シ管内ニ藏メタル電線ハ此ノ限ニ在ラス

盤ノ裏面ニ高壓又ハ特別高壓用器具若ハ接續電線ヲ施設スルトキハ取扱者ニ危險ヲ及ホササル樣盤ノ裏面

ト對壁トノ間ニ充分ナル通路ヲ設クルコトヲ要ス

特別高壓用ノ器具及接續電線ヲ取附クル盤ノ前方ニ取扱者ノ爲適當ナル絶緣臺ヲ設置スルコトヲ要ス

三　開閉器、自働遮斷器、避雷器其ノ他ノ器具

第九條　開閉器、自働遮斷器、避雷器等電路ニ裝置スル器具ハ其ノ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル絶緣耐力試驗ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一　低壓又ハ高壓ノモノニ在リテハ使用電壓ノ一倍半ノ電壓ヲ以テ其ノ電氣ノ通スル部分ト大地トノ間ノ絶緣耐力ヲ試驗シ三十分間以上之ニ耐フルコト但シ試驗電壓ハ百「ヴオルト」以上タルヘシ

二　特別高壓ノモノニ在リテハ左ノ區別ニ依ル試驗電壓ヲ以テ其ノ電氣ノ通スル部分ト大地トノ間ノ絶緣耐力ヲ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト

最大使用電壓	試驗電壓
(イ)五萬「ヴオルト」未滿	最大使用電壓ノ一倍半
(ロ)五萬「ヴオルト」以上	最大使用電壓ニ二萬五千「ヴオルト」ヲ加ヘタルモノ

第十條　開閉器、自働遮斷器、抵抗器其ノ他充電スル導體ニ接スル器具ハ不易燃質物ヲ以テ絶緣シタルモノナルコトヲ要ス

第十一條　開閉器、自働遮斷器、抵抗器其ノ他之ニ類スル器具ニハ其ノ使用電流及電壓ヲ指示スルコトヲ要ス但シ五「アムペア」以下ノ可熔片ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　開閉器ハ電路中ノ必要ナル箇所ニ於テ其ノ各極ニ之ヲ裝置スルコトヲ要ス但シ第九十八條ニ規定スル引込用開閉器ヲ除クノ外六百「ワット」以下ノ低壓電路ニ對シテハ單極ニ裝置セル避雷器、避雷器其ノ他之ニ類シ弧光ヲ發スル器具ハ木製ノ床、壁、天井其ノ他ノ可燃質物ト六尺以上離隔スルコトヲ要ス但シ耐火質物ヲ以テ兩者間ヲ離隔シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　屋內ニ裝置セル特別高壓用開閉器、自働遮斷器、避雷器其ノ他之ニ類シ弧光ヲ發スル器具ハ木製ノ床、壁、天井其ノ他ノ可燃質物ト六尺以上離隔スルコトヲ要ス但シ耐火質物ヲ以テ兩者間ヲ離隔シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　機械器具及電線ヲ保護スルカ爲自働遮斷器ヲ電路ノ各極ニ裝置スルコトヲ要ス但シ第九十八條ニ規定スル引込用開閉器ヲ除クノ外六百「ワット」以下ノ低壓電路ニ對シテハ單極ニ裝置スルコトヲ得

第十五條　軟キ可熔片ニハ硬キ金屬製ノ端片ヲ附著スルコトヲ得

地線竝多線式ノ中性線ニハ自働遮斷器ヲ裝置スルコトヲ得ス

第十六條　檢漏器ハ電路中必要ナル箇所ニ之ヲ裝置スルコトヲ要ス但シ千「ヴオルト」以下ノ電路ニ於テ一時間ニ六百「アムペア」以下ニ使用スル可熔片ハ規定電流ノ二倍ノ電流ニ依リ二分間以內ニテ遮斷スルモノナルコトヲ要ス

檢漏器ハ漏電ヲ自働的ニ常ニ表示スルモノナルコトヲ要ス

第十七條　特別高壓用器械器具ニ附屬スル變壓器及變流器ノ二次線ハ之ヲ接地スルコトヲ要ス

第十八條　避雷器ハ左ニ揭クル箇所ニ之ヲ裝置スルコトヲ要ス

一　發電所、變電所、蓄電所及開閉所ノ架空電線引込口竝引出口

二　特別高壓又ハ高壓架空電線ノ坑內引込口竝地中線トノ接續箇所

三　前各號ノ外電路中ノ必要ナル箇所

避雷器ノ接地ハ第一種地線工事(第二十八條)ニ依リ施設スルコトヲ要ス

特殊ノ事由アル場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ第一項ニ揭クル避雷裝置箇所ヲ省略スルコトヲ得

第三節　電線、電路及附屬設備

一　電線

第十九條　電線ハ使用電流ノ爲攝氏二十度以上ノ溫度ヲ增スコトナク且絕緣物ヲ損セサルモノナルコトヲ要ス

第二十條　絕緣電線ハ左ノ四種トス

一　第一種絕緣電線　電線ヲ木綿其ノ他之ト同等以上ノ物質ヲ以テ編組シ絕緣性耐水質ノ塗料ヲ施シタルモノニシテ其ノ被覆物ノ厚サ二厘五毛以上ノモノ又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノトス

二　第二種絕緣電線　電線ヲ木綿其ノ他之ト同等以上ノ物質ヲ以テ編組シ絕緣性耐水質ノ塗料ヲ施シ其ノ被覆物ノ厚サ五厘以上ノモノ又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノトス

三　第三種絕緣電線　電線ヲ厚サ三厘五毛以上ノ護謨又ハ之ニ相當スル善良ナル絕緣物ヲ以テ被覆シ更ニ厚サ二厘五毛以上ノ木綿又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ編組シ且絕緣性耐水質ノ塗料ヲ施シタルモノニシテ其ノ絕緣抵抗ハ二十四時間浸水ノ後更ニ鹽水ニ浸シ一分間充電ノ後百「ヴオルト」以上ノ電壓ヲ以テ試驗シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ一里四十萬「オーム」以上ノモノ又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノトス

四　第四種絕緣電線　電線ヲ厚サ三厘五毛以上ノ護謨又ハ之ニ相當スル善良ナル絕緣物ヲ以テ被覆シ更ニ二厘五毛以上ノ木綿又ハ之ト同等以上ノ物質ヲ以テ編組シ且絕緣性耐水質ノ塗料ヲ施シタルモノニシテ其ノ絕緣抵抗ハ二十四時間浸水ノ後更ニ鹽水ニ浸シ一分間充電ノ後百「ヴオルト」以上ノ電壓ヲ以テ兩線間ヲ試驗シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ一里十五「メグオーム」以上ノモノ又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノトス

第二十一條　電球線ハ左ノ三種トス

一　第一種電球線　電線ヲ護謨又ハ之ニ相當スル善良ノ絕緣物ヲ以テ被覆シ且外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷ノ虞ナキ外裝ヲ施シタルモノニシテ二十四時間水ニ浸シ一分間充電ノ後百「ヴオルト」以上ノ電壓ヲ以テ兩線間ヲ試驗シ攝氏十五度ノ溫度ニ於テ一里十五「メグオーム」以上ノ絕緣抵抗ヲ有スルモノトス

二　第二種電球線　第一種電球線ノ上部ヲ更ニ强靱ナル絕緣性編組被覆物ヲ以テ保護シタルモノトス

三　第三種電球線　第二種電球線ノ外部ニ耐水質塗料ヲ施シタルモノ若ハ之ト同等以上ノモノトス

二　電　路

第二十二條　電路ハ單線式電氣鐵道ノ場合及第二十三條ノ規定ニ依リ變壓器ノ二次線ヲ接地スル場合ヲ除ク外全部大地ヨリ充分ニ絕緣スルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第二十三條　高壓電路ト低壓電路トノ電氣的接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲變壓器二次線ノ中性點ニ於テ第二種地線工事(第二十八條)ヲ施スカ又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スル他ノ保安裝置ヲ施スコトヲ要ス變壓器ノ構造ニ依リ其ノ中性點ヲ接地シ難キモノナルトキハ二次線ノ電壓二百五十「ヴオルト」以下ノモノニ限リ其ノ一端ヲ接地スルコトヲ得

前二項ニ依ル地線ハ變壓器ノ最大電流ヲ安全ニ通シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二十四條　特別高壓電路ト高壓又ハ低壓電路トノ電氣的接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲左ノ各號ノ一ニ該當スルモノ又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スル他ノ保安裝置ヲ施スコトヲ要ス

一　高壓電路ニ對シテハ其ノ最大使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル電壓ヲ以テ放電スヘキ裝置

最大使用電壓	放電電壓
(イ)千「ヴオルト」未滿	最大使用電壓ノ約二倍以下
(ロ)千「ヴオルト」以上千四百「ヴオルト」未滿	約二千「ヴオルト」以下
(ハ)千四百「ヴオルト」以上	最大使用電壓ノ約一倍半以下

二　低壓電路ニ對シテハ前條ノ規定ニ依ル保安裝置

三　第一種地線工事(第二十八條)ニ依リ接地シタル金屬板ヲ以テ變壓器ノ一次線輪ト二次線輪トヲ離隔スル方法但シ變壓器以外ニ於テ相互ニ電氣的接觸ノ虞アル場合ニハ此ノ方法ニ依ルコトヲ得ス

三　保護網、保護線、接地裝置及地線工事

第二十五條　保護網ハ第二種地線工事（第二十八條）ニ依リ接地セル鐵線製ノ網狀裝置トシ且左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一　縱線ノ太サハ直徑一分三厘以上、縱線相互ノ間隔五尺以下

二　橫線ノ太サハ直徑八厘五毛以上、橫線相互ノ間隔五尺以下

三　保護網カ架空電線ノ外部ニ張出スル幅員ノ割合ハ保護線ト電線トノ上下距離二尺ノ場合ニ於テ一尺以上

第二十六條　保護線ハ第二種地線工事（第二十八條）ニ依リ接地セル二條以上ノ鐵線トシ且左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一　鐵線ノ太サ直徑一分三厘以上

二　鐵線相互ノ間隔二尺五寸以下

三　鐵線カ架空電線ノ外部ニ張出スル幅員ノ割合ハ保護線ト電線トノ上下距離二尺ノ場合ニ於テ一尺以上

第二十七條　接地裝置ハ第二種地線工事（第二十八條）ニ依リ接地シタル堅牢ナル金屬製裝置ニシテ其ノ上部ヲ架渉スル電線ノ切斷セル場合ニ於テハ直ニ其ノ電線ト金屬製裝置トカ完全ナル電氣的接觸ヲ爲スモノナルコトヲ要ス

第二十八條　地線工事ハ左ノ二種トス

第一種地線工事　地線ニハ直徑八厘五毛以上ノ圓形ノ鐵線ヲ用ヰ且埋設金屬體ト大地トノ電氣抵抗ヲ十「オーム」以下ニ保持スルモノ又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノ

第二種地線工事　地線ニハ前號規定以上ノ金屬線ヲ用ヰ且地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ハ地線ト大地トノ間ニ於ケル電壓ヲ百五十「ヴオルト」以下ニ保持スルモノ又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノ人ノ觸ルル虞アル場所ニ地線ヲ施設スル場合ニ於テハ地板ヲ地下五尺以上ノ深サニ埋設シ地板ヨリ地上二尺ニ至ルマテノ地線ハ充分大地ト絕緣シ且地上八尺ノ高サ迄人ノ接觸及他働的損傷ヲ豫防スル爲適當ノ設備ヲ施スコトヲ要ス

地線工事ヲ施スヘキ場合ニ於テ工事上已ムヲ得サルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第四節　電線路

一　低壓及高壓架空電線路

第二十九條　市街地ノ道路ニハ電車線路ヲ除クノ外二箇以上ノ架空電線路ヲ建設スルコトヲ得ス但シ土地ノ狀況ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第三十條　市街地ノ道路ニ建設スル架空電線路ハ左ノ制限ニ依リ止ムヲ得サル場所ニ限リ所轄遞信管理局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一　道路ノ兩側ニ跨ラスシテ其ノ一側ニノミ架設スルコト

二　道路ノ一側ニ架空弱電流電線路アルトキハ他ノ一側ニ架設スルコト

三　一電線路ノ幅員（幅員ニハ支柱、支線ヲ含マス以下之ニ同シ）ハ八尺ヲ超過セシメサルコト

四　電柱（鐵塔ヲ含ム以下之ニ同シ）ハ八十度以下ニ傾斜セシメサルコト

本條ノ規定ハ電車線及其ノ支持物ニ之ヲ適用セス

第三十一條　電柱ニハ事業者ノ記號及電柱ノ番號竝建設年月ヲ表示スルコトヲ要ス

高壓架空電線ヲ支持スル腕木又ハ碍子ハ地上ヨリ甄別シ得ル程度ニ於テ其ノ全部又ハ一部ヲ赤色ト爲スコトヲ要ス

第三十二條　電柱ハ他ノ架空電線路又ハ架空弱電流電線路ヲ貫通シテ之ヲ建設スルコトヲ得ス

電線ハ添架ノ場合ヲ除クノ外他人ノ電柱ヲ挾ミテ之ヲ架渉スルコトヲ得ス

第三十三條　架空電線ノ分岐ハ其ノ電線ノ支持點ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三十四條　架空電線ニハ電車線ヲ除クノ外左ノ強サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ要ス

一　低　壓　直徑八厘五毛ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル電線但シ低壓ノ架空引込線又ハ架空連接引込線ニハ其ノ電線支持點間ノ距離六十尺以下ノ場合ニ限リ直徑六厘五毛ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ得

二　高　壓　直徑一分三厘ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル電線

第三十五條　架空電線ニハ其ノ使用電壓ニ從ヒ左ニ掲クル絶緣電線ヲ使用スルコトヲ要ス但シ電車線其ノ他本令ニ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

使用電壓	絶緣電線ノ種類
一　三百「ヴオルト」未滿	第一種絶緣電線（第二十條）
二　三百「ヴオルト」以上ノ低壓	第二種絶緣電線（第二十條）
三　高　壓	第三種絶緣電線（第二十條）

第三十六條　高壓又ハ三百「ヴオルト」以上ノ低壓架空電線路ニシテ左ノ各號ニ依リ施設スル場合ニハ前條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

一　切斷面積一平方寸ニ付六千貫以上ノ扯斷力ヲ有スル直徑一分六厘以上ノ圓形ノ銅線若ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル電線ヲ使用スルコト

二　架空電線カ架空弱電流電線ノ下部ニ於テ四十五度以下ノ角度ヲ以テ交叉シ又ハ相互間ノ水平距離八尺以下ナルトキハ架空電線ノ上部ニ保護網（第二十五條）ヲ施設スルコト但シ水平距離四尺以上垂直距離其ノ一倍半以下ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

三　架空電線カ架空弱電流電線ト其ノ下部ニ於テ四十五度ヲ超ユル角度ヲ以テ交叉スルトキハ架空電線ノ上部ニ保護網（第二十六條）ヲ施設スルコト

四　保護網及保護線ト架空電線トノ上下距離竝保護網及保護線ト架空弱電流電線トノ上下距離ハ二尺以上トス但シ保護網及保護線ト架空電線トノ距離ハ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ一尺マテニ又保護網及保護線ト架空弱電流電線トノ上下距離當ハ該弱電流電線管理者ノ承諾ヲ得テ一尺マテニ短縮スルコトヲ得

第三十七條　市街地以外ニ於テ低壓又ハ高壓架空電線ヲ道路（交通頻繁ナラサル里道又ハ私道ヲ除ク以下之ニ同シ）鐵道、軌道他ノ架空電線、架空弱電流電線又ハ建造物（人ノ住居又ハ看守スル邸宅、建造物ヲ謂フ以下之ニ同シ）ヨリ其ノ架空電線ニ使用スル電柱地表上ノ高サ以上ノ水平距離ヲ離隔シテ架設スル場合ニ於テハ裸電線ヲ使用スルコトヲ得

土地ノ狀況ニ依リ又ハ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ前項ノ距離ヲ短縮スルコトヲ得

第三十八條　架空電線ノ地表上ノ高サ及造營物トノ間隔ハ電車線ヲ除クノ外左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ場合ニハ所轄遞信管理局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一　道路ヲ横斷スル場所ニ於テハ地表上二十尺以上

二　前號以外ノ場所ニ於テハ地表上十六尺以上

三　造營物ノ側面ニ於テハ造營物ト電線トノ距離四尺以上

四　造營物ノ上部ニ於テハ造營物ト電線トノ距離六尺以上

第三十九條　同一支持物ニ架設スル高壓架空電線ト低壓架空電線トハ一尺五寸以上離隔スルコトヲ要ス

第四十條　支持物ヲ異ニスル低壓又ハ高壓架空電線相互間ノ交叉又ハ接近距離ハ三尺以上トス但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ所轄遞信管理局長ノ認可ヲ得テ此ノ距離ヲ一尺五寸マテニ短縮スルコトヲ得

低壓又ハ高壓架空電線ト他ノ電線路ノ電柱、腕木又ハ竹木其ノ他ノ植物トノ間隔ハ一尺以上トス但シ接觸ノ虞ナキ樣施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四十一條　高壓架空電線ト架空弱電流電線トノ交叉部分ニ於テハ工事上已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外高壓電線ヲ上部ト爲スコトヲ要ス

第四十二條　高壓架空電線路ト道路、鐵道、軌道、他ノ架空電線路又ハ架空弱電流電線路トノ交叉部分ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一　電柱間ノ距離ハ百二十尺以下トス但シ土地ノ狀況ニ依リ又ハ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ所轄遞信管理局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

二　電線ノ弛度ハ其ノ地方ノ最低溫度ニ於テ安全係數ヲ五以上トシ電線ノ重量ヲ支持シ得ル樣計算シタルモノトス

三　電柱ノ强サハ風壓ヲ人家連檐ノ場所ニ在リテハ一平方尺ニ付二貫四百匁、其ノ他ノ場所ニ在リテハ四貫八百匁、安全係數ヲ三以上トシテ計算シタルモノトス但シ支線若ハ支柱ヲ有セサル杉材ノ單柱ニ在リテハ其ノ末口ヲ左ノ公式ニ依リ計算シタルモノトス

$D^3 \geqq 2Sdh + 0{,}1h^2$（人家連檐ノ場所ニ建設スル場合）

$D^3 \geqq 4Sdh + 0{,}2h^2$（人家連檐セサル場所ニ建設スル場合）

Dハ電柱ノ末口（寸ヲ以テ單位トス）

Sハ電柱間ノ距離（百尺ヲ以テ單位トス）

dハ電線直徑ノ和（寸ヲ以テ單位トス）

hハ電線地表上ノ平均ノ高サ（尺ヲ以テ單位トス）

四　道路ト交叉スル部分ノ電柱間ニ電線ノ接續點ヲ設ケサルコト

第四十三條　架空電線ト架空弱電流電線トノ交叉又ハ接近距離ハ三尺以上ト爲スコトヲ要ス但シ當該弱電流電線管理者ノ承諾ヲ得タルトキ及架空引込線、架空連接引込線ニシテ工事上已ムヲ得サルモノニ限リ此ノ距離ヲ二尺マテニ短縮スルコトヲ得

第四十四條　架空電線路ハ左ノ絶緣抵抗及絶緣耐力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

一　低壓電線路ノ絶緣部分ト大地トノ間ノ絶緣抵抗（屋內電路ヲ含有スルト否トニ拘ハラス）ハ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ千分ノ一ヲ超過セシメサル樣保持スルコト

二　高壓電線路（電柱上ノ變壓器ヲ含ム）ト大地トノ間ノ絶緣耐力ハ使用電壓ノ一倍半ノ電壓ヲ以テ試驗シ三十分間以上之ニ耐フルコト但シ電纜ヲ架設スル場合ニハ電纜（接續部分ヲ含ム）ノ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶緣耐力ヲ試驗スルモノトス

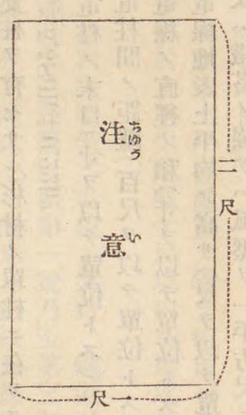
第四十五條　架空電線又ハ架空弱電流電線カ相互ニ交叉シ又ハ八尺以內ノ距離ニ接近シテ架設セムトスルトキハ其ノ工事著手ノ前日マテニ建設ノ場所及日時ヲ關係管理者ニ通知シ立會ヲ求ムヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理若ハ撤去セムトスル場合亦同シ但シ關係管理者ニ於テ豫定ノ日時ニ立會ヲ爲ササルトキハ直ニ工事ヲ施行スルコトヲ得

二　特別高壓架空電線路

第四十六條　特別高壓架空電線路ハ市街地其ノ他人家ノ稠密ナル地ニ建設スルコトヲ得ス但シ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第四十七條　特別高壓電線ヲ支持スル電柱ハ地表上八尺以上ノ高サニ於テ縱幅一尺以上ノ外部ヲ赤色ト爲シ且電柱ニハ事業者ノ記號及電柱ノ番號竝建設年月ヲ表示スルコトヲ要ス

建造物、道路、鐵道、軌道、架空電線路及架空弱電流電線路ト近接セル電柱ニハ左ノ揭示ヲ爲スコトヲ要ス



第四十八條　特別高壓架空電線ニハ切斷面積一平方寸ニ付六千貫以上ノ扯斷力ヲ有スル直徑一分六厘ノ圓形ノ銅線若ハ之ト同等以上ノ强サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ要ス

第四十九條　特別高壓架空電線ニハ電纜ヲ使用スル場合ヲ除クノ外裸電線ヲ使用スルコトヲ要ス

第五十條　特別高壓架空電線ノ地表上ノ高サハ二十尺以上トス但シ特殊ノ場所ニ限リ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十一條　特別高壓架空電線路ハ第五十二條及第五十三條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外左ノ各號ニ依リ施

設スルコトヲ要ス

一　電柱間ノ距離ハ百五十尺以下トス但シ鐵柱又ハ鐵塔ヲ使用スルカ又ハ特ニ堅牢ナル建設方法ニ依リ木柱ヲ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二　電線ノ弛度ハ其ノ地方ノ最低溫度ニ於テ安全係數ヲ五以上トシ電線ノ重量ヲ支持シ得ル樣計算シタルモノトス

三　木柱ノ强サハ風壓ヲ一平方尺ニ付四貫八百匁、安全係數ヲ四以上トシテ計算シタルモノトス但シ支線若ハ支柱ヲ有セサル杉材ノ單柱ニ在リテハ其ノ末口ハ左ノ公式ニ依リ計算シタルモノトス

$$D^3 \geqq 5{,}5Sdh + 0{,}22h^3$$

Dハ電柱ノ末口（寸ヲ以テ單位トス）

Sハ電柱間ノ距離（百尺ヲ以テ單位トス）

dハ電線ノ直徑ノ和（寸ヲ以テ單位トス）

hハ電線地表上平均ノ高サ（尺ヲ以テ單位トス）

四　鐵柱又ハ鐵塔ノ强サハ風壓ヲ一平方尺ニ付四貫八百匁、安全係數ヲ二以上トシテ計算シタルモノトス

五　木柱根入ハ「コンクリート」又ハ之ニ準スル基礎ヲ有スル場合ヲ除クノ外左表ニ依ルモノトス

木柱ノ全長	根入
四十八尺未滿	木柱全長ノ六分ノ一以上
四十八尺以上	八尺以上

六　木柱ニハ四本目以下毎ニ直徑一分三厘以上ノ圓形ノ鐵線三條以上ヨリ成ル支線ヲ電線路ト直角ノ方向ニ於テ其ノ兩側ニ設クルカ又ハ之ト同等以上ノ强サヲ有スル支柱ヲ設クルモノトス

七　木柱ニハ電柱十本目以下毎ニ直徑一分三厘以上ノ圓形ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線ヲ電線路ノ方向ニ於テ其ノ兩側ニ設クルモノトス

第五十二條　工事上已ムヲ得サル場合ニ於テ特別高壓架空電線ト建造物、道路、鐵道、軌道他ノ架空電線、

架空弱電流電線トカ其ノ特別高壓電線ヲ支持スル電柱ノ地表上ノ高サニ相當スル水平距離以內ニ接近スルトキハ第五十一條第二號、第四號、第五號、第七號及左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一　電柱間ノ距離ハ百二十尺以下トス但シ鐵柱又ハ鐵塔ヲ使用スルカ又ハ特ニ堅牢ナル建設方法ニ依リ木柱ヲ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二　電線ニハ之ト同等以上ノ强サヲ有スル補助吊架線ヲ設クルカ若ハ六本以上ヨリ成ル撚線ヲ使用スルモノトス但シ撚線ノ使用ハ之カ爲特ニ接續點ヲ增加セサル場合ニ限ル

三　木柱ニハ第五十一條第三號ニ依リ計算シタル末口ヲ有スル木材二箇以上ヲ使用スルカ又ハ第五十一條第三號ニ依リ計算シタル末口ヲ有スル木材ヲ使用スルモノトス

四　木柱ニハ直徑一分三厘以上ノ圓形ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線又ハ之ト同等以上ノ强サヲ有スル支柱ヲ設クルモノトス

五　腕木ニハ堅牢ナル金屬製ノ物ヲ使用シ且之ヲ接地スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ水平距離十尺以內ニ接近スルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ得タル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第五十三條　特別高壓架空電線ト道路、鐵道又ハ軌道ト交叉スル箇所ニ於テハ第五十一條第二號、第四號及第五號竝第五十二條第一項第一號乃至第三號及第五號ニ依リ施設シ且電線路ノ方向ニ於テ電柱（鐵塔ヲ除ク）ニ直徑一分三厘以上ノ圓形ノ鐵線五條以上ヨリ成ル支線ヲ設クルコトヲ要ス

特別高壓架空電線カ他ノ特別高壓架空電線ト交叉スル箇所ニ於テハ上部ノ電線路ハ前項ノ工事方法ニ依ルコトヲ要ス

第五十四條　特別高壓架空電線ト低壓又ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ特別高壓電線ヲ他ノ上部トシ前條ノ工事方法ニ依リ施設シ且電線相互ノ接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲其ノ電線相互間ニ完全ニ接地シタル二條以上ノ金屬線ヲ施設スルコトヲ要ス

前項ノ金屬線ハ六本以上ヨリ成ル撚線ニシテ直徑一分六厘以上ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ强サヲ有

スルモノヲ使用シ之ヲ特別高壓架空電線ノ兩外線ノ直下部ニ架設シ他ノ架空電線又ハ架空弱電流電線ト二尺以上ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス

第五十五條　特別高壓架空電線カ同一電氣事業者ニ屬スル左ノ架空電線又ハ架空電話線ト交叉又ハ接近スル場合ニハ第五十二條及前條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一　電路ノ一部ヲ接地セル低壓又ハ高壓電線

二　特別高壓架空電線路ニ添架セル電話線及直接之ト接續セル電話線

特別高壓架空電線カ同一電氣事業者ニ屬スル鐵道又ハ軌道ト交叉又ハ接近スル場合ニハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ第五十二條及第五十三條ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十六條　特別高壓電線ト低壓又ハ高壓電線トハ同一支持物ニ添架スルコトヲ得ス但シ特殊ノ設計ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ得タル場合又ハ電氣鐵道事業專用ノ特別高壓電線ト其ノ同一電源ヨリ送電セラレ且電路ノ一部ヲ完全ニ接地シタル低壓又ハ高壓電線トヲ添架セムトスル場合ハ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十七條　特別高壓架空電線ト竹木其ノ他ノ植物トノ間隔ハ風雪其ノ他如何ナル場合ニ於テモ左ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス

一　六萬「ヴオルト」以下ノモノハ六尺以上

二　六萬「ヴオルト」ヲ超過スルモノハ一萬「ヴオルト」及其ノ端數ヲ加フル毎ニ一尺ヲ加フ

第五十八條　特別高壓架空電線路ト大地トノ間ノ絶緣耐力ハ使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルモノナルコトヲ要ス但シ電纜ヲ架設スル場合ニハ電纜（接續部分ヲ含ム）ノ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶緣耐力ヲ試驗スルモノトス

使用電壓	試驗電壓
五萬「ヴオルト」未滿	最大使用電壓ノ一倍半
五萬「ヴオルト」以上	最大使用電壓ニ二萬五千「ヴオルト」ヲ加ヘタルモノ

第五十九條　使用電壓七千「ヴオルト」以下ノ特別高壓架空電線路ハ第四十七條乃至第五十五條ノ規定ニ依ラス其ノ各條項ニ定ムル場合ニ相當スヘキ高壓架空電線路ノ規定ニ準シ施設スルコトヲ得

第六十條　第五十一條第一號但書又ハ第五十二條第一項第二號ニ掲クル補助吊架線ニ關スル設計ハ電氣事業法施行規則ニ依ル工事施行認可申請ノ場合ニ於テ之ヲ詳具スルコトヲ要ス

第六十一條　架空電線又ハ架空弱電流電線カ相互ニ交叉シテ架設セムトスルトキ竝其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理若ハ撤去セムトスル場合ニハ第四十五條ノ規定ヲ準用ス

三　地中電線路

第六十二條　地中電線ヲ藏ムル暗渠、管、樋、電線接續函及地中函等ハ堅牢ニシテ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力ニ耐ヘ且容易ニ瓦斯又ハ水ノ浸入セサル樣築造スルコトヲ要ス

第六十三條　電線ヲ直接地中ニ埋設スル場合ニハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一　堅牢ニ鎧裝シタル電線ヲ使用スルコト但シ道路ヲ橫斷セサル低壓引込線ニハ鉛被線ヲ使用スルコトヲ得

二　堅牢ナル石又ハ木板ノ類ヲ以テ電線ニ及ホス他働的損傷ヲ豫防スルコト

第六十四條　地中電線路ハ漏洩電流又ハ誘導作用ニ因リ既設地中弱電流電線ニ對シ通信上ノ障害ヲ及ホササル樣離隔スルカ又ハ其ノ他ノ適當ナル豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

第六十五條　地中電線ト地中弱電流電線トノ交叉又ハ接近距離一尺以下ナルトキハ成ルヘク其ノ部分ヲ短縮シ且相互間ニ堅牢ナル耐火質ノ隔壁ヲ設クルコトヲ要ス

第六十六條　特別高壓地中電線ト低壓又ハ高壓地中電線トハ一尺以上ヲ離隔スルカ又ハ相互間ニ堅牢ナル耐火質ノ隔壁ヲ設クルコトヲ要ス

第六十七條　高壓地中電線ト低壓地中電線トハ一尺以上ヲ離隔スルカ又ハ相互間ニ堅牢ナル耐火質ノ隔壁ヲ設クルコトヲ要ス但シ地中函內ニ於ケルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六十八條　地中電線ヲ藏ムル金屬製ノ暗渠、管、樋、電線接續函及地中電線ノ被覆ニ用フル金屬體等ハ電氣

的接續ヲ爲シ且第一種地線工事（第二十八條）ニ依リ接地スルコトヲ要ス

第六十九條　地中函ハ電氣事業專用ノモノトシ且二箇以上ノ事業者ニ於テ之ヲ共用スルコトヲ得ス但シ特殊ノ設計ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七十條　地中函ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一　地中函ノ蓋ハ當業者ノ外容易ニ開披シ能ハサル設備ヲ施スコト

二　地中函ノ蓋ニハ事業者ノ記號ヲ表示スルコト

三　地中函ハ水ノ浸入ヲ防止スルノ裝置ヲ施スカ又ハ函内ノ瀦水ヲ排除スルノ裝置ヲ施スコト

四　爆發性又ハ燃燒性瓦斯ノ浸入スル虞アル場所ニ設ケル地中函ハ時々點檢シ若瓦斯ノ存在ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ放散セシムヘキ通風其ノ他ノ裝置ヲ施スコト

知スルコトヲ要ス

第七十一條　地中電線路ハ左ノ絶緣抵抗又ハ絶緣耐力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

一　低壓電線路ノ絶緣部分ト大地トノ間ノ絶緣抵抗（屋内電路ヲ含有スルト否トニ拘ハラス）ハ漏洩電流カ最大供給電流ノ千分ノ一ヲ超過セサル樣保持スルコト

二　高壓電線路（接續部分ヲ含ム）ノ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶緣耐力ハ使用電壓ノ一倍半ノ電壓ヲ以テ試驗シ三十分間以上之ニ耐フルコト

三　特別高壓電線路（接續部分ヲ含ム）ノ心線相互間及心線ト大地トノ間ノ絶緣耐力ハ使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル電壓ヲ以テ試驗シ十分間以上之ニ耐フルコト

使用電壓　試驗電壓

五萬「ヴオルト」未滿　最大使用電壓ノ一倍半

五萬「ヴオルト」以上　最大使用電壓ニ二萬五千「ヴオルト」ヲ加ヘタルモノ

第七十二條　地中電線路又ハ地中管路ト相互ニ交叉シ又ハ六尺以内ノ距離ニ接近シテ施設セムトスルトキ竝其ノ既ニ施設シタルモノヲ修理又ハ撤去セムトスル場合ニハ第四十五條ノ規定ヲ準用ス

第七十三條　第六十二條及第六十三條ノ設計、第六十五條乃至第六十七條ノ隔壁、第六十九條但書及第七十條第一項第三號及第四號ノ設計ハ電氣事業法施行規則ニ依ル工事施行認可申請ノ場合ニ於テ之ヲ詳具スルコトヲ要ス

第五節　保安通信設備

第七十四條　送電ノ連絡ヲ有スル發電所、變電所及蓄電所相互間ニハ電話ヲ施設スルコトヲ要ス

特別高壓架空電線路ニ依リ送電スル場合ニ在リテハ携帶電話機ニ依リ通話スルノ設備ヲ爲シ且電話線ヲ架空電線路ニ添架スル場合ニハ電線路ノ亘長約一里毎ニ携帶電話機接續箇所又ハ電話機設置箇所ヲ設クルコトヲ要ス

第七十五條　架空電線路ニ添架スル電話線ニハ直徑八厘五毛ノ圓形ノ鐵線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル線條ヲ使用スルコトヲ要ス

第七十六條　電話線ヲ架空電線路ニ添架スルトキハ其ノ架空電線ノ下部ニ架設シ電線ト電話線トノ間隔ハ左ノ制限ニ依ルコトヲ要ス

一　架空電線カ特別高壓電線ナルトキハ四尺以上

二　架空電線カ低壓又ハ高壓電線ナルトキハ二尺以上

第七十七條　特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線ノ地表上ノ高サハ十六尺以上トス

第七十八條　特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線ハ特殊ノ設計ニ依ルモノヲ除クノ外市街地ニ引込ミ又ハ市街地ヲ通過スル電話線ト接續ヲ爲スコトヲ得ス

第七十九條　特別高壓架空電線路ニ添架スル電話線ハ道路、鐵道、軌道、他ノ架空電線又ハ他ノ架空弱電流電線ト交叉スル箇所ニ於テハ高壓架空電線ニ準シ之ヲ施設スルコトヲ要ス但シ電話線ノ地表上ノ高サハ第七十七條ノ規定ニ依ル

第八十條　架空電線路ニ添架スル電話線及之ニ接續スル電話線ニ於ケル屋内ノ電話機設置箇所ニ對シテハ其

ノ架空電線ノ使用電壓ニ從ヒ左ノ區別ニ依ル保安裝置ヲ施スコトヲ要ス

一　架空電線カ低壓又ハ高壓電線ナルトキハ電話機ニ近ク電話線ノ各極ニ二百五十「ミリアムペア」以下ニテ働作スル熱線輪、三百「ヴオルト」ニテ放電スル避雷器及五「アムペア」以下ニテ熔解スル可熔遮斷器ヲ設備スルコト

二　架空電線カ特別高壓電線ナルトキハ左ニ揭クル甲種又ハ乙種保安裝置ヲ施スコト

甲種保安裝置

（イ）電話機使用者ノ踏臺トシテ三千「ヴオルト」ノ電壓ニ耐フル絕緣臺ヲ設備スルコト

（ロ）各電話線ト大地トノ間ニ千「ヴオルト」ニテ放電スル避雷裝置ヲ設備スルコト

（ハ）電話機ト避雷裝置トノ中間ニ於テ電話線ノ兩線間ニ三百「ヴオルト」ニテ放電スル空隙ヲ存スルコト

（ニ）避雷器ト空隙トノ中間ニ於テ各線ニ一「アムペア」包裝可熔遮斷器ヲ設備スルコト

（ホ）電話機ト（ハ）ニ揭クル空隙トノ中間ニ於テ各線ニ二百五十「ミリアムペア」以下ニテ働作スル熱線輪ヲ設備スルコト

乙種保安裝置

（イ）一次二次回線間ノ絕緣力三千「ヴオルト」ノ電壓ニ耐フル中繼線輪ヲ通シテ電話機ヲ接續スルコト

（ロ）中繼線輪ノ一次線ニ於テ各電話線ト大地トノ間ニ千「ヴオルト」ニテ放電スル避雷器ヲ設備スルコト

（ハ）中繼線輪ノ一次線ニハ二「アムペア」包裝可熔遮斷器ヲ設備スルコト

（ニ）中繼線輪ノ二次線ヲ接地スルコト

二萬五千「ヴオルト」以上ノ特別高壓電線路ニ添架スル電話線ニ於ケル屋外電話機接續箇所ニハ前項ニ規定スル甲種保安裝置中（イ）ニ揭クル絕緣臺ヲ設備スルコトヲ要ス

第二章　電燈及電力

第一節　屋外工事

第八十一條　低壓又ハ高壓架空電線ト架空弱電流電線ト並行スル場合ニ於ケル相互間ノ距離ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一　電線ト電信線又ハ電氣信號線トノ並行部分ハ六尺以上

二　往復線竝架ノ直流式電燈線ト電話線トノ並行部分ハ六尺以上

三　電力線若ハ交流式電燈線ト電話線トノ並行部分ハ十二尺以上

當該架空弱電流電線管理者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ架空引込線、架空連接引込線ニシテ工事上已ムヲ得サルモノニ限リ前項ノ距離ヲ二尺マテニ短縮スルコトヲ得

第八十二條　弧光電燈用ノ架空電線ハ往復線ヲ同一電柱ニ竝行シテ架設スルコトヲ要ス但シ他ニ障害ヲ及ホスノ虞ナキ場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十三條　高壓架空電線路ニハ其ノ亘長十町以下毎ニ開閉器ヲ設置シ電路ヲ遮斷スルニ便ナラシムルコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ所轄遞信管理局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

前項ノ開閉器ヲ設置セル場所ニハ之ニ接近シ且之ヲ取扱フニ便ナラシムル樣適當ナル設備ヲ施スコトヲ要ス

第八十四條　屋外ニ設置スル變壓器ハ耐火耐水質ノ函内ニ藏メ且地中ニ設置スルモノヲ除クノ外電柱ニ取附クルコトヲ要ス但シ人ノ觸ルル虞ナキ場所ニ限リ石造、煉瓦造及土藏造ノ建物ノ外部ニ之ヲ取附クルコトヲ得

前項ノ取附場所ノ高サハ地表上十六尺以上トス

危險ノ虞ナキ場合ニ於テハ所轄遞信管理局長ノ認可ヲ得テ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十五條　架空引込線又ハ屋内電線ニ接續ヲ有スル低壓架空電線ト高壓架空電線トカ交叉、接近、添架又ハ竝行スル場合ニハ低壓電線ヲ高壓電線ノ下部ト爲スコトヲ要ス但シ引込線又ハ低壓電線ノ支持物ニ第四十二條第三號ニ適合スルモノヲ使用シテ建設方法ヲ特ニ堅牢ナラシメ且左ノ各號ノ一ニ該當スル電線ヲ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　直徑一分三厘ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル第三種絕緣電線（第二十條）

二　直徑一分六厘ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル第一種絕緣電線（第二十條）

前項ノ電線支持點間ノ距離六十尺以下ナルトキハ前項第一號ノ場合ニハ直徑一分、第二號ノ場合ニハ直徑一分三厘ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ得

第八十六條　架空連接引込線ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ施設スルコトヲ要ス

一　道路ヲ橫斷セサルコト

二　引込線ヨリ分岐スル點ヨリ三十間以內ノ區域內ナルコト

三　屋內ヲ通過セス且人ノ容易ニ觸レサル樣取附クルコト

第八十七條　檐下其ノ他家屋ノ外面ニ沿ヒ低壓電線ヲ施設スル場合ニハ直徑五厘ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル電線ヲ使用シ且左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一　雨露ニ曝露セサル場所ニ施設スル場合ニハ第二種絕緣電線（第二十條）ヲ使用シ電線相互間二寸以上、電線ト造營材トノ間一寸以上ヲ離隔スルカ又ハ第四種絕緣電線（第二十條）ヲ使用シ電線相互間一寸以上、電線ト造營材トノ間二分以上ヲ離隔スルコト

二　雨露ニ曝露スル場所ニ施設スル場合ニハ第二種絕緣電線（第二十條）ヲ使用シ「カップ」碍子ヲ以テ取附ケ電線相互間五寸以上、電線ト造營材トノ間三寸以上ヲ離隔スルコト

第二節　屋內工事

一　通　則

第八十八條　屋內ニ施設スル電線相互間及電線ト大地トノ間ノ絕緣抵抗ハ機械器具及附屬物ヲ合セ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ一萬分ノ一ヲ超過セシメサルコトヲ要ス

前項ノ絕緣抵抗ハ每年一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スルコトヲ要ス

第八十九條　屋內ニ送電スル電壓ハ直流ニ在リテハ二百五十「ヴオルト」、交流ニ在リテハ五百「ヴオルト」以下トス但シ特殊ノ設計ニ依リ所轄逓信管理局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十條　同一ノ屋內ニ施設スル二箇以上ノ電路カ之ニ供給スル電氣事業者ヲ異ニスルトキハ各電路相互間

ノ距離ヲ左ノ區別ニ依リ離隔スルコトヲ要ス

一　隔壁アル場合

（イ）各電路カ隱蔽工事ナル場合　四尺以上

（ロ）各電路カ露出工事ナル場合　五寸以上

（ハ）隱蔽工事ニ依ル電路ト露出工事ニ依ル電路トノ場合　五寸以上

二　隔壁ナキ場合

（イ）各電路カ隱蔽工事ナル場合　四尺以上

（ロ）各電路カ露出工事ナル場合　一尺以上

第九十一條　屋內ニ施設スル電線ニハ被覆電線ヲ使用スルコトヲ要ス但シ工場等ニ於テ技術上已ムヲ得サル爲特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ逓信大臣ノ認可ヲ得テ裸電線ヲ使用スルコトヲ得

第九十二條　屋內ニ施設スル鎧裝電線、鉛被電線竝金屬管內ニ藏ムル電線ニハ第四種絕緣電線（第二十條）ヲ使用スルコトヲ要ス

第九十三條　屋內ニ施設スル電線ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一　電球線以外ノ電線ハ直徑五厘ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スルモノタルコト

二　電球線ハ直徑三厘二毛ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スルモノニシテ十八本以上ノ撚線ヨリ成ル可撓紐線タルコト但シ床上六尺以下ニ垂下セサル電球線ニハ七本以上ノ撚線ヨリ成ル電線ヲ使用スルコトヲ得

電燈吊管其ノ他之ニ類スル管內ニ藏ムル電線ハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第九十四條　電球線ニハ其ノ施設場所又ハ使用方法ノ種類ニ從ヒ左ニ揭クル電線ヲ使用スルコトヲ要ス

一　濕氣ノ充チ易キ場所ニ施設スルモノ　第三種電球線（第二十一條）

二　移動シテ使用スルモノ　第二種又ハ第三種電球線（第二十一條）

三　第一號以外ノ場所ニ施設スルモノ又ハ前號以外ノ使用方法ニ依ルモノ　第一種、第二種又ハ第三種電球線（第二十一條）

第九十五條　屋内ニ施設スル電線ハ耐火耐水質ノ碍子ヲ使用シ且容易ニ人ノ觸レサル樣取附クルコトヲ要ス

第九十六條　電球線ト屋内幹線トノ接續點ニ於テハ電燈球及其ノ附屬器具ノ重量ヲ支持セシメサルコトヲ要ス

第九十七條　屋内ニ於テ電線ノ造營物ヲ貫通スル部分ハ之ヲ碍管内ニ藏ムルカ又ハ特殊ノ施設ヲ爲スコトヲ要ス

屋内ニ於テ電線ト弱電流電線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ト交叉又ハ接近スルトキハ相互間ヲ五寸以上離隔スルカ又ハ特殊ノ施設ヲ爲スコトヲ要ス

碍管ハ其ノ端口ノ爲電線ノ被覆ヲ損傷セサル樣施設スルコトヲ要ス

第九十八條　屋内ニ施設スル電線ニハ引込口ニ近キ場所ニ開閉器及自働遮斷器ヲ各極ニ裝置シ且開閉器ハ容易ニ電路ヲ遮斷シ得ル樣施設スルコトヲ要ス

屋内ニ施設スル電燈用電線ハ二「キロワット」以下毎ニ分岐シ且各線ニ開閉器及自働遮斷器ヲ裝置スルコトヲ要ス

第九十九條　第八十八條乃至第九十一條、第九十三條、第九十五條、第九十七條、第九十八條及第百條乃至第百九條ノ規定ハ發電所、變電所、蓄電所及開閉所内ノ工事ニ之ヲ適用セス

二　露出工事

第百條　屋内ニ於テ露出工事ニ依リ施設スル電線ニハ第二種絶緣電線（第二十條）ヲ使用シ且電線相互間一寸以上又電線ト造營材トノ間（碍管ヲ通過スル部分ヲ除ク）ハ二分以上離隔スルコトヲ要ス

工事上已ムヲ得ス人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ハ第四種絶緣電線（第二十條）ヲ使用スルコトヲ要ス

三　隱蔽工事

第百一條　屋内ニ於テ隱蔽工事ニ依リ施設スル電線ニハ第四種絶緣電線ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス但シ第百二條第二號ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第百二條　屋内ニ於テ點檢シ得ル隱蔽工事ハ工事上已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外造營材ノ側面又ハ下面ニ取附ケ且左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一　第四種絶緣電線（第二十條）ヲ使用シテ造營材ニ取附クルトキハ電線相互間ノ距離二寸以上、電線ト造營材トノ距離一寸以上ヲ離隔スルコト

二　第二種絶緣電線（第二十條）ヲ使用シテ造營材ノ側面又ハ下面ニ取附クルトキハ電線相互間ノ距離四寸以上、電線ト造營材トノ距離一寸以上又造營材ノ上部ニ取附クルトキハ電線相互間ノ距離四寸以上、電線ト造營材トノ距離五寸以上ヲ離隔スルコト

三　造營材ニ沿フテ取附クルトキハ電線支持點間ノ距離ヲ二尺以下ト爲スコト

第百三條　屋内ニ於テ點檢シ能ハサル隱蔽工事ニ依リ施設スル場合ニハ電線ヲ堅牢ナル金屬管内ニ納ムルカ又ハ鎧裝電線ヲ使用スルコトヲ要ス但シ外物ノ爲損傷ノ虞ナキ場所ニ限リ鉛管ニ藏メタル電線ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ金屬管、鎧裝及鉛管ハ總テ之ヲ接地スルコトヲ要ス

點檢シ能ハサル隱蔽工事ト雖乾燥シタル場所ニ於テハ前條第一號ニ依リ施設スルコトヲ得

四　線樋工事

第百四條　線樋ハ點檢容易ニシテ且乾燥セル場所ニ限リ之ヲ使用スルコトヲ得

線樋内ノ電線ニハ第四種絶緣電線（第二十條）ヲ使用スルコトヲ要ス

木製線樋ハ乾燥シタル堅緻ノ木材ヲ以テ製作シ其ノ内外面ニ耐水質ノ塗料ヲ施シ且蓋ヲ以テ電線ヲ押壓セサル樣溝ノ大サヲ充分ナラシムルコトヲ要ス

木製線樋工事ハ左ノ間隔ヲ保テ施設スルコトヲ要ス

一　電線ト線樋ヲ取附クル造營材トノ距離二分以上

二　線樋ヲ取附クル金屬製捻子ト電線トノ距離二分以上

三　電線相互間ノ距離四分以上

五　濕氣ノ充チ易キ場所ニ於ケル工事

第百五條　濕氣ノ充チ易キ場所ニ施設スル電氣工作物ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一　開閉器、自働遮斷器、電球承口其ノ他ノ器具ニハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

二　第四種絕緣電線（第二十條）ヲ使用スルコト

三　電線相互間二寸以上電線ト造營材トノ間一寸以上ヲ離隔スルコト

特殊ノ設計ニ依ル場合ニハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ前項第二號又ハ第三號ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

六　腐蝕性瓦斯又ハ溶液ノ發散スル場所ニ於ケル工事

第百六條　腐蝕性瓦斯又ハ溶液ノ發散スル場所ニ施設スル電氣工作物ハ瓦斯又ハ溶液ノ爲ニ侵サレサル樣適當ノ豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

絕緣物ヲ害スル瓦斯若ハ溶液ノ發散スル場所ニ於テハ操業者ノ外容易ニ人ノ觸ルル虞ナキ露出工事ニ依ルモノニ限リ裸電線ヲ使用スルコトヲ得

七　塵埃ノ充チ易キ場所ニ於ケル工事

第百七條　塵埃ノ充チ易キ場所ニ施設スル電氣工作物ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一　自働遮斷器ハ外函内ニ之ヲ藏ムルコト

二　前號ノ外函ハ其ノ内部ニ塵埃ノ侵入セサル樣裝置シ且不可燃質物ヲ以テ製作スルカ又ハ不可燃質物ヲ函ノ内面全部ニ貼リタルモノヲ使用スルコト

三　紐線吊ハ其ノ内部ニ塵埃ノ侵入セサル樣裝置シ且其ノ蓋ハ堅牢ナル絕緣性不可燃質物ヲ使用シ震動ニ因リ弛緩セサル樣堅固ニ取附クルコト

四　前號ノ方法ニ依ラサル場合ニハ紐線吊ニ可熔片ヲ用キス直ニ電球線ノ終端ト屋内幹線トヲ電氣的完全ニ接續シ且電路中別ニ電球線ヲ保護スル自働遮斷器ヲ設クルコト

五　開閉器ハ塵埃ノ侵入セサル樣裝置シタル函内ニ藏ムルコト

六　點滅器附電球承口ヲ使用セサルコト

八　爆發又ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生、製造若ハ貯藏スル場所ニ於ケル工事

第百八條　爆發又ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生、製造若ハ貯藏スル場所ニ施設スル電氣工作物ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一　電線ニハ第四種絕緣電線（第二十條）ヲ使用シ之ヲ鎧裝スルカ又ハ之ヲ堅牢ナル管若ハ樋内ニ藏ムルコト

二　電線ニハ七本以上ヨリ成ル撚線ヲ使用スルコト但シ電燈吊管其ノ他之ニ類スル管内ニ藏ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三　電線及電氣機械器具相互ノ接合ハ電氣的完全ナラシメ且震動ノ爲弛緩セサル樣堅固ニ取附クルコト

四　電燈球ニハ氣密ニシテ且堅牢ナル外裝ヲ施スコト

五　電動機ノ火花ヲ發スル部分ニハ特ニ保安裝置ヲ施スカ又ハ濕度過昇ノ虞アル器具ハ之ヲ場内ニ施設セサルコト

六　自働遮斷器、開閉器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ温度ノ昇ル虞アル器具ハ之ヲ場内ニ施設セサルコト但シ堅牢ナル氣密函又ハ油液中ニ藏ムル等ノ方法ニ依リ保安裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第百九條　火藥ヲ製造スル室内ニ於ケル電氣工作物ハ遞信大臣ノ認可ヲ得タル特殊ノ設計ニ依リ施設スルコトヲ要ス

九　劇場内工事

第百十條　劇場内ニ施設スル電氣工作物ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一　道具類又ハ人ノ觸ルル虞アル場所及舞臺ニ施設スル電線ニハ第四種絕緣電線（第二十條）ヲ使用シ且外物ノ接觸ニ因ル損傷ヲ豫防スルノ裝置ヲ施スコト

二　舞臺ニ於テ移動シ得ル電線ニハ七本以上ノ撚線ヨリ成ル第四種絕緣電線（第二十條）ヲ使用シ且外物ノ接觸ニ因ル損傷ヲ豫防スル爲皮革又ハ「ゾツク」ヲ以テ之レヲ外裝スルコト

三　舞臺ニ於ケル電球線ニハ第三種電球線（第二十一條）ヲ使用スルコト

四　舞臺ニ於ケル屋内幹線ニハ專用ノ開閉器及自働遮斷器ヲ裝置スルコト

五　電燈球、電球線其ノ他ノ機械器具ハ可燃質物ト容易ニ接觸セサル樣適當ニ施設スルコト

劇場内ニ施設セル電線相互間及各線ト大地トノ間ノ絶縁抵抗ハ機械器具及附屬物ヲ合セ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ二萬分ノ一ヲ超過セシメサルコトヲ要ス

前項ノ絶縁抵抗ハ毎年四回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スルコトヲ要ス

第三節　隧道及坑内工事

第百十一條　隧道、坑内其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スル低壓又ハ高壓電線路ノ絶縁抵抗及絶縁耐力ニ關シテハ第四十四條ノ規定ヲ準用ス

第百十二條　人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル低壓又ハ高壓電線(電車線ヲ除ク)ニハ第三種絶縁電線(第二十條)ヲ使用シ且之ヲ鎧裝スルカ又ハ堅牢ナル管若ハ樋内ニ藏ムルコトヲ要ス

人ノ觸レサル樣施設スル電線又ハ常ニ人ノ通行セサル坑内若ハ路面上高サ八尺以上ノ箇所ニ施設スル電線ニハ第三十五條ノ規定ニ準シ其ノ使用電壓ニ相當スル絶縁電線ヲ使用スルコトヲ要ス

第百十三條　電球線ニハ第三種電球線(第二十一條)ヲ使用スルコトヲ要ス

第百十四條　坑内引込口ニハ開閉器ヲ設置スルコトヲ要ス

第四節　臨時工事

第百十五條　臨時電灯工事ニシテ施設後二週間内ヲ限リ使用スルモノハ左ノ施設ヲ爲スコトヲ得

一　乾燥セル屋内ニ於テ露出工事ニ依リ第三種絶縁電線(第二十條)ヲ使用シテ施設スル電氣工作物ハ使用電壓二百五十「ヴォルト」以下ノモノニ限リ電線相互間及其ノ電線ト造營材トノ間ヲ離隔セスシテ施設スルコト但シ特ニ電線ヲ損傷スルノ虞ナカラシメ且燃燒シ易キ物ニ接觸セシメサルコトヲ要ス

二　檐下其ノ他家屋ノ外面ニ低壓電線ヲ取附クル場合ニハ電線相互間竝電線ト造營材トノ間ノ距離ハ其電線ノ種類ニ從ヒ左ノ區別ニ依リ離隔スルコト

(一)電線相互間ノ距離

(イ)第二種絶縁電線(第二十條)ヲ使用スル場合　三寸以上

(ロ)第三種絶縁電線(第二十條)ヲ使用スル場合　一寸以上

(二)電線ト造營材トノ距離

(イ)第二種絶縁電線(第二十條)ヲ使用スル場合　一寸以上

(ロ)第三種絶縁電線(第二十條)ヲ使用スル場合　四分以上

(ハ)第四種絶縁電線(第二十條)ヲ使用スル場合　一分以上

三　樹木、電柱、綠門其ノ他之ニ類スル物ニ取附クル低壓電線ニハ第三種絶縁電線(第二十條)ヲ使用シ且電線相互間及其ノ電線ト之ヲ取附クル物トノ間ヲ離隔セスシテ施設スルコト但シ樹木ノ如キ動搖ノ爲電線ヲ損傷スルノ虞アル物ニ取附クル場合ニハ其ノ損傷ヲ豫防スル爲適當ノ施設ヲ爲スコト

前項ニ依リ施設セル工作物ハ其ノ使用ヲ廢止シタル後一月内ニ之ヲ撤去スルコトヲ要ス

第百十六條　前條ノ場合ヲ除クノ外短期間ヲ限リ使用スル目的ヲ以テ臨時ニ施設スル電氣工作物ニ關シテハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ本令ニ規定スル施設制限ヲ輕減スルコトヲ得

第三章　電氣鐵道

第一節　通則

第百十七條　電車線ニ使用スル電壓ハ低壓トス但シ特殊ノ設計ニ依ル場合ニハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ高壓又ハ特別高壓ヲ使用スルコトヲ得

第百十八條　電氣鐵道用架空電線路ハ既設架空弱電流電線路及磁力觀測所ニ對シ通信又ハ觀測上ノ障害ヲ及ホササル樣離隔スルカ又ハ其ノ他ノ適當ナル豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

第二節　架空電車線

第百十九條　道路ニ施設スル電車線ハ其ノ亘長十町以下毎ニ之ヲ區劃シ各區劃部分ニ對スル送電ヲ遮斷シ得ルノ施設ヲ爲スコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ所轄遞信管理局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十條　架空電車線ニハ一平方寸ニ付七千五百貫ノ扯斷力ヲ有スル直徑二分四厘ノ圓形ノ硬銅線若ハ之

ト同等以上ノ強サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ場合ニハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十一條　道路ニ施設スル架空電車線ノ支持點間ノ距離ハ百二十尺以下トス但シ土地ノ狀況ニ依リ所轄遞信管理局長ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十二條　架空電車線ノ地表上ノ高サハ十六尺以上トス但シ隧道內、橋梁ノ下部其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スルモノハ工事上已ムヲ得サル場合ニ限リ十二尺マテニ短縮スルコトヲ得

土地ノ狀況其ノ他特殊ノ事由アル場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十三條　架空電車線ト架空弱電流電線ト交叉又ハ接近スル部分ニ於テハ相互ノ電氣的接觸ヨリ生スル危險ヲ豫防スル爲電氣事業者ニ於テ左ノ各號ノ施設ヲ爲スコトヲ要ス

一　電車線ト弱電流電線トカ四十五度以下ノ角度ヲ以テ交叉スルトキハ電車線ノ上部ニ保護網（第二十五條）ヲ設クルコト但シ水平距離四尺以上、垂直距離其ノ一倍半以下ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

二　電車線ト弱電流電線トノ交叉角度カ四十五度以上ナルトキハ電車線ノ上部ニ保護線（第二十六條）ヲ設クルコト

三　保護網ト保護線ト電車線トノ上下距離及保護網又ハ保護線ト弱電流電線トノ上下距離ハ該弱電流電線管理者ノ承諾ヲ得テ一尺マテニ短縮スルコトヲ得

弱電流電線ニ第四種絕緣電線（第二十條）又ハ一平方寸ニ付六千貫ノ扯斷力ヲ有スル直徑一分六厘ノ圓形ノ銅線又ハ之ト同等以上ノ強サヲ有スル電線ヲ使用スルトキハ前項ノ裝置ヲ省略スルコトヲ得

第百二十四條　饋電幹線ヨリ分岐シテ架空電車線ニ達スル電線ハ之ヲ接地スルコトヲ要ス

架空電車線ヲ吊架スル金屬線ハ電車線間及電車線ヨリ一尺以內ニ在ル部分ヲ除クノ外之ヲ接地スルコトヲ要ス

市街地以外ニ於テ電車線路ニ接近シテ弱電流電線ノ架設シアラサル場所ニ在リテハ其ノ架設セラルルマテ前二項ノ施設ヲ省略スルコトヲ得

第百二十五條　電車線及之ニ接續セル電路中絕緣部分ノ絕緣抵抗ハ其ノ漏洩電流カ軌道一里ニ對シ一「アムペア」ノ三十分ノ一ヲ超過セサル樣保持スルコトヲ要ス

前項ノ漏洩電流カ軌道一里ニ對シ一「アムペア」ヲ超過シ二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサルトキハ電車ノ運轉ヲ繼續スルコトヲ得ス

第一項ノ絕緣抵抗ハ每日一回以上送電前最大使用電壓ヲ以テ試驗シ之ヲ記錄スルコトヲ要ス

第三節　歸　線

第百二十六條　歸線（單線式電氣鐵道ノ軌條又ハ其ノ軌條ニ接續スル電線ヲ謂フ以下之ニ同シ）ハ軌道又ハ軌道ノ外側一尺以內ニ敷設スル部分ヲ除クノ外絕緣シテ之ヲ大地ヨリ絕緣スルコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第百二十七條　直流單線式電氣鐵道ノ軌道ト金屬製地中管路トノ間ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中六尺以上ヲ通スル爲左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一　歸線ノ不絕緣部分ト地中管路トノ距離ハ六尺以上トスルコト但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ其ノ部分ト地中管路トノ間ニ不導體ノ離隔物ヲ設ケ電流ヲシテ地中六尺以上ヲ通スルニ非サレハ兩者間ヲ流通スルコト能ハサラシムルノ設備ヲ爲シ兩者間ノ距離ヲ短縮スルコトヲ得

二　歸線ハ隔日ニ其ノ極ヲ轉換スルカ又ハ發電機ノ陰極ニ接續スルコト

三　軌條ハ完全ナル電氣的接續ヲ爲スコト

四　軌道ニハ軌條ノ外一平方寸ノ千分ノ五十五以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル補助線ヲ敷設スルコト但シ特殊ノ方法ニ依リ接續シタル軌條ヲ使用スル場合ハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

五　補助線ハ軌條ノ接續點二箇以下毎ニ一平方寸ノ千分ノ五十五以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル物ヲ以テ軌條ト接續スルコト

六　歸線ノ不絕緣部分ニ其ノ一年間ノ平均電流ヲ通スルトキ起ル電位ノ差ハ二「ヴオルト」ヲ超過セシメサルコト

七　歸線ノ不絕緣部分ニ生スル最大電位ノ差ヲ常ニ自働的ニ記錄スル裝置ヲ施スコト

前項第六號ノ電位ノ差ハ毎日之ヲ記錄スルコトヲ要ス

地中管路ノ種類ニ依リ遞信大臣ノ認可ヲ得タルトキ又ハ地中管路所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ第一項ノ施設ヲ省略スルコトヲ得

第一項第二號乃至第七號ニ依ル施設ハ金屬製地中管路カ電氣鐵道專用敷地內ニ敷設シタルモノニシテ軌條及之ニ接續スル於テ之ヲ爲スヘシ

第百二十八條　前條ノ場合ニ於テ電氣鐵道ノ軌道カ專用敷地內ニ敷設シタルモノニシテ軌條及之ニ接續スル電氣導體ト大地トノ間ヲ砂利枕木等ヲ以テ充分ニ離隔シ且軌條ノ接續點五箇以下毎ニ一回ノ割合ヲ以テ兩軌條ヲ一平方寸ノ千分ノ五十五以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スルモノヲ以テ接續スルトキハ前條第一項第四號乃至第六號ノ施設ヲ省略スルコトヲ得

第百二十九條　歸線ハ其ノ不絕緣部分竝之ト大地トノ間ニ生スル最大電位ノ差ニ因リ踏切其ノ他公衆ノ通行スル場所ニ於テ人畜ニ危險ヲ及ホササル樣施設スルコトヲ要ス

第百三十條　地中管路所有者ノ承諾アリタルトキハ遞信大臣ノ認可ヲ得テ歸線ト地中管路トノ電氣的接續ヲ爲スコトヲ得

前項ニ依リ電氣的接續ヲ爲シタルトキハ二月毎ニ一回以上其ノ接續點ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スルコトヲ要ス

第四節　電　車

第百三十一條　電車內ノ電路ト大地トノ間ニ於ケル絕緣抵抗ハ漏洩電流ヲシテ規定電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシメサル樣保持スルコトヲ要ス

前項ノ絕緣抵抗ハ毎月一回以上使用最大電壓ヲ以テ試驗シ之ヲ記錄スルコトヲ要ス

第百三十二條　電車ニハ一箇以上ノ電磁的若ハ之ニ相當スル自働遮斷器ヲ備ヘ且運轉臺ニ於テ容易ニ開閉シ得ルノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス但シ貨物用電車ハ此ノ限ニ在ラス

車輛內ニ於テ電流ノ通スル部分ハ操業者ノ外容易ニ人ノ觸ルル虞ナキ樣施設スルコトヲ要ス

第百三十三條　電氣鐵道ノ運轉車輛數及其ノ走行哩數ハ毎日之ヲ記錄スルコトヲ要ス

車輛ノ運轉ニ使用スル電流及電壓ハ發電所、變電所及蓄電所ニ於テ少クトモ三十分間毎ニ之ヲ記錄スルコトヲ要ス

附　則

第百三十四條　本令ハ電氣事業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特別高壓電氣工作物施設規程及電氣事業用地中電線路施設規程ハ之ヲ廢止ス

第百三十五條　電氣事業法施行規則第十二條、第十八條又ハ第十九條ニ依リ遞信大臣ニ認可ヲ申請スル場合ニ於テ其申請事項中本令ニ依リ遞信大臣又ハ遞信管理局長ノ認可ヲ得ルニ非サレハ施設シ得サル事項又ハ之ニ關係スルモノアルトキハ其ノ申請書中ニ特ニ其ノ旨ヲ明記スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ本令ニ依リ別ニ認可ヲ受クルコトヲ要セス

第百三十六條　本令ニ依リ遞信大臣又ハ遞信管理局長ノ認可ヲ得ムトスルトキハ其ノ事由及工事方法竝關係圖面ヲ具シ申請スルコトヲ要ス但シ遞信大臣ニ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ其ノ副本ヲ所轄遞信管理局長ニ提出スヘシ

第百三十七條　本令施行ノ際現ニ使用シ又ハ使用シ得ヘキ電氣工作物ニシテ本令ノ規定ニ牴觸スルモノハ本令施行ノ日ヨリ三年內ニ本令ノ規定ニ依リ改修スルコトヲ要ス

本令ノ規定ニ依リ施設スルコトヲ要スハ本令施行前ニ於テ工事施行ノ認可ヲ得タルモノハ本令ノ規定ニ依リ難キ已ムヲ得サル事由アルモノニ限リ更ニ遞信大臣ノ認可ヲ得テ曩ニ認可ヲ得タル工事方法ニ依リ電氣工作物ヲ施設スルコトヲ得但シ其ノ電氣

工作物ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

○電氣事業法第九條ニ依ル使用許可竝使用料決定申請規則

明治四十四年九月二十八日
遞信省令第二九號

第一條　電氣事業法第九條第一項ニ依リ河川、橋梁、溝渠、道路、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セラレタル土地使用ノ許可ヲ受ケムトスル電氣事業者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ當該管理者ニ提出スヘシ

一　電氣事業者名
二　使用ノ範圍（圖面添附）
三　電線路ノ種類及構造（圖面添附）
四　使用期間
五　工事ノ著手及落成期限

第二條　電氣事業法第九條第三項ニ依ル使用許可又ハ使用料決定ノ申請書ハ內務大臣及遞信大臣宛トシ地方長官ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ具備スヘシ

一　地方行政廳ニ提出セル申請書及其ノ指令書ノ謄本
二　使用ノ許可ヲ受ケムトスル場合ハ其ノ拒否處分ヲ不當トスル理由書
三　使用料ノ決定ヲ受ケムトスル場合ハ地方行政廳ノ指定シタル使用料ノ額ヲ記載セル書面竝之ヲ不當トスル理由書

本條ノ申請書ハ地方行政廳ニ於テ使用許可ノ拒否處分ヲ爲シ又ハ使用料ノ決定ヲ受ケムトスル場合ハ地方行政廳ノ指定シタル使用料ノ額ヲ指定シタル日ヨリ三月內ニ之ヲ提出スヘシ

○電氣事業法施行規則第六十五條ニ依ル電氣事故届出規程

明治四十四年九月二十八日
遞信省令第三二號

第一條　電氣工作物ノ故障及其ノ運轉使用ニ關スル事故ヲ生シタル場合ニ於テハ別記樣式ニ依リ一箇月分ヲ取纏メ翌月十日限リ所轄遞信管理局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ届出ツヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ卽時電報又ハ電話其ノ他ノ方法ヲ以テ別ニ其ノ大要ヲ届出テ同時ニ所轄警察官署ニモ届出ツヘシ

一　電氣工作物ノ損壞又ハ漏電其ノ他ノ電氣的故障ニ因リ人畜ニ死傷ヲ生シタルトキ又ハ火災其ノ他ノ災害ヲ生シタルトキ
二　發電所、變電所、水路、電線路等ニ故障ヲ生シ其ノ送電ノ停止二十四時間以上ニ亘ルトキ又ハ送電ノ大部分ヲ停止セルトキ
三　前各號ノ外重大ナル事故ヲ生シタルトキ

自家用電氣工作物施設規則ニ依ル電氣工作物ノ事故ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス但シ前項第二號ノ場合ニハ前項但書ノ規定ヲ準用セス

第二條　水路ニ於ケル流水量ノ減少ニ因リ發電力ヲ減シタル場合ニ於テハ其ノ減水期間內ニ於ケル發電日誌ノ寫ヲ作成シ每月一回所轄遞信管理局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ届出ツヘシ其ノ發電力ヲ著シク減シタル場合ニ於テハ遲滯ナク流水量其ノ他ノ關係事實ヲ詳具シ届出ツヘシ

（別記）

（電氣事故届出樣式）

（期間內ニ取調ヲ了セサルトキハ結了次第届出ツヘキモノトス）

（一）事故ノ種類	
（二）發生ノ日時及天候	
（三）事故ノ場所	
（四）事故ノ狀況	
（五）事故繼續時間	
（六）事故發生ノ際ニ於ケル各部保安裝置ノ指示又ハ狀況	
（七）事故ノ原因	
（八）事故發生前ニ於ケル關係工作物ノ狀態	
（九）應急處置	
（十）復舊ノ日時又ハ其ノ見込	
（十一）損害ノ概算高	
（十二）備考	

注意

一　(四)事故ノ狀況欄ニハ事故ノ程度及範圍、損害ノ有無、死傷者アルトキハ其ノ員數、公衆又ハ操業者ノ別、致死又ハ負傷ノ原因等ヲモ詳記シ且感電死傷者ニ對スル醫師ノ診斷書又ハ檢案書ノ寫ヲ添附スヘシ

二　電線ノ切斷セル場合ニハ其ノ電線ノ種類、太サ、電線支持點間ノ距離及斷線ノ直接原因等ヲモ各相當欄ニ記載スヘシ

三　電線ノ混觸又ハ他ノ工作物トノ接觸ヲ生シタルトキハ電線ノ種類、太サ、電線支持點間ノ距離及兩電線間又ハ電線ト工作物間ノ距離等ヲモ各相當欄ニ記載スヘシ

四　說明上必要アル場合ニ於テハ圖面ヲ添附スヘシ

五　(七)事故ノ原因ノ欄ニハ機械器具其ノ他材料ノ不良又ハ施設方法ノ不完全ナルニ因ルヤ否、操業者又ハ其ノ他ノ者ノ過失若ハ故意、天災其ノ他不可抗力ニ因ルヤ否等ヲモ記載スヘシ

○電氣事業法ヲ準用スル事業ニ關スル件

明治四十四年八月二十九日　勅令第二三七號

重要ナル產業又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲電氣ヲ供給又ハ使用スル事業ニシテ遞信大臣ノ認定ヲ受ケタルモノニ關シテハ電氣事業法第三條、第五條及第六條ノ規定ヲ除クノ外同法ヲ準用ス

遞信大臣ニ於テ前項ノ認定ヲ爲シタルトキハ事業者、事業ノ種類及事業地ヲ公告スヘシ

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○電氣事業法ヲ準用スル事業ニ關スル手續

明治四十四年九月二十八日　遞信省令第三〇號

明治四十四年勅令第二百三十七號ニ依リ電氣事業法ヲ準用スヘキ事業ノ認定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書類及圖面ヲ具シテ申請スヘシ

一　重要ナル產業又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業タルコトノ事由ヲ記載シタル書面

二　事業計畫書（電氣事業法施行規則第一條乃至第四條ニ準スル事項ヲ具備スヘシ）

本令ニ依リ認定ヲ受ケタル事業ニ關シテハ電氣事業法施行規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○官廳施設電氣事業規則

明治四十四年十月十六日　遞信省令第三六號

明治四十四年勅令第二百三十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○官廳ニ於テ電氣事業ヲ營ム場合ニ關スル件

明治四十四年八月二十九日　勅令第二三六號

官廳ニ於テ電氣事業ヲ營ムトスルトキハ遞信大臣ノ定ムル所ニ依リ承認ヲ受クヘシ

附　則

本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○官廳施設電氣事業規則

明治四十四年十月十六日　遞信省令第三六號

第一條　官廳ニ於テ電氣事業法第一條第一號ノ電氣事業ヲ營マムトスルトキハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス

一　設計書（電氣事業法施行規則第二條第二號、第三號、第四條第一號乃至第八號、第十三條第三號及第四號、第十四條ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス）

二　圖面（同規則第十六條第一項第一號及第二號ニ準シ作成スルコトヲ要ス）

第二條　官廳ニ於テ電氣事業法第一條第二號ノ電氣事業ヲ營マムトスルトキハ遞信大臣ニ其ノ旨ヲ報告スルコトヲ要ス

一　鐵道構內ニ電氣工作物ヲ施設セムトスルトキハ遞信大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

(一)設計書（電氣事業法施行規則第三條第二號第三號、第四條第一號乃至第八號、第十三條第三號及第四號、第十五條ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス）

(二)圖面（同規則第十六條第一項第一號及第三號ニ準シ作成スルコトヲ要ス）

二　前號ノ場合ト雖直流低壓以外ノ電氣工作物ヲ施設セムトスルトキハ遞信大臣ニ其ノ旨ヲ報告スルコトヲ要ス

本號ニ依リ承認ヲ受クルヲ要セサル部分ト雖承認ヲ受クヘキ電氣工作物ニ直接關係アル必要部分ハ之ヲ前

記ノ書類圖面中ニ表示スルコトヲ要ス

第三條　第一條各號又ハ第二條第二號ニ掲クル書類圖面中ノ主要事項ヲ變更セムトスルトキハ關係書類圖面ヲ具シテ更ニ遞信大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第四條　前三條ニ依リ承認ヲ得タル工事落成シタルトキハ其ノ電氣工作物使用前其ノ旨ヲ遞信大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第五條　官廳ニ於テ第一條又ハ第二條ニ依ル以外ノ強電流電氣工作物ヲ施設セムトスルトキハ工事施行前自家用電氣工作物施設規則第一條但書ノ各號ニ該當スル電氣工作物施設規則第四條ニ掲クル書類圖面ヲ具シ其ノ旨ヲ遞信大臣ニ報告スルコトヲ要ス但シ自家用電氣工作物ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ電氣工作物カ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルトキハ前項ニ準シタル書類圖面ヲ具シテ遞信大臣ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

一　特別高壓電氣ヲ使用スルモノ

二　構外ニ亘リ施設スルモノ

第六條　前條ニ依リ施設スル工事落成シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ遞信大臣ニ報告スルコトヲ要ス

落成シタル電氣工作物ハ自家用電氣工作物施設規則第二條ニ掲クル第一種ニ該當スルモノヲ除クノ外遞信大臣ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第七條　前二條ニ依ル電氣工作物ニ關シテハ自家用電氣工作物施設規則第五條乃至第七條、第十一條第二項ノ規定ヲ準用ス

第八條　官廳ニ於テ電氣工作物ノ使用ヲ廢止シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ遞信大臣ニ報告スルコトヲ要ス

附　則

官廳施設電氣事業取締規程ハ之ヲ廢止ス

○官廳施設電氣事業規則ニ據ル事務處理方ノ件

明治四十四年十一月二十八日
鐵電第二五七六號

電氣課長照會（明治四十四年十一月二十八日鐵電第二五七六號）遞信省電氣局長宛

官廳施設電氣事業取締規程ニ依リ貴省ニ提出スル書類ニ關シテハ豫テ御協議ノ上所轄遞信管理局ヲ經由セス直接提出致居候處過般御發令ノ官廳施設電氣事業規則實施後モ尚從來ノ例ニ據リ處理致度

遞信省電氣局長回答（明治四十四年十二月二十一日電監乙一第二〇三九號）

客月二十八日附鐵電第二五七六號ヲ以テ照會ニ係ル官廳施設電氣事業取締規程ニ依ル書類ハ直接提出相成支障無之候條右了知相成度

○自家用電氣工作物施設規則

明治四十四年九月二十八日
遞信省令第三一號

第一條　本令ハ電氣事業法ニ依ルモノヲ除クノ外強電流電氣工作物ヲ施設スルモノニ之ヲ適用ス但シ左ニ掲クルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　電壓十「ヴオルト」以下ノ電氣ヲ使用スルモノ

二　電車線其ノ他架空又ハ地中電線路ヲ施設セスシテ車輛又ハ船舶ニ電氣ヲ使用スルモノ

第二條　電氣工作物ヲ分チテ左ノ二種トス

第一種

一　邸宅又ハ一構内ニ施設スル電氣工作物ニシテ其ノ使用電壓直流五百「ヴオルト」交流二百五十「ヴオルト」未滿ノモノ但シ左ニ掲クル場所ニ施設スルモノハ之ヲ除ク

（イ）爆發又ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生、製造若ハ貯藏スル場所

（ロ）劇場、公會堂其ノ他公衆ノ來集ヲ目的トスル場屋

第二種

第一種以外ノ電氣工作物

第三條　第一種電氣工作物ヲ施設セムトスル者ハ工事著手前其ノ施設地ヲ管轄スル遞信管理局長ニ届出ツヘシ

第二種電氣工作物ヲ施設セムトスル者ハ其ノ施設地ヲ管轄スル遞信管理局長ヲ經由シテ遞信大臣ニ認可ヲ

申請スヘシ

第四條　前條ニ依ル屆出又ハ申請ニハ左ノ書類及圖面ヲ具備スヘシ

一　計畫書（左ノ事項ヲ記載スヘシ）

（イ）目的（電燈、電熱、電動力、電氣分解其ノ他電氣使用ノ目的ヲ記載スヘシ）

（ロ）使用區域（邸宅、工場其ノ他使用場所ノ名稱及所在地名、專用電氣鐵道ニ在リテハ其ノ中心線、電氣鐵道ニ在リテハ其ノ敷設ノ場所ヲ記載スヘシ）平面圖（使用區域ノ境界、專用電氣鐵道ニ在リテハ其ノ中心線、所在地名、道路、山川、鐵道、軌道、要塞地等ヲ記載スヘシ）ヲ添附スヘシ

（ハ）發電所、變電所、蓄電所ノ位置

他ヨリ供給セラルル電力ヲ使用セムトスルモノニ在リテハ其ノ供給者名及供給ヲ受クル地點

（ニ）發電所、變電所、蓄電所相互間ヲ連絡スル電線路及發電所、變電所、蓄電所ヨリ使用區域ニ達スル電線路ノ經過地名（道府縣郡市區町村名ヲ記載スヘシ）

（ホ）「キロワット」數、最大電壓及原動力ノ種類

二　工事設計明細書（電氣使用ノ目的ニ從ヒ電氣事業法施行規則第十四條又ハ第十五條ニ準シ調製スヘシ但シ同一圖面ヲ以テ表示シ得ル場合ニハ適宜ニ併合省略スルコトヲ得）

三　實測平面圖（電氣事業法施行規則第十六條ニ準シ調製スヘシ）

四　工事落成期限書（屆出ノ場合ニハ添附スルコトヲ要セス）

五　水力ヲ原動力ニ使用セムトスルモノニ在リテハ發電水力ノ使用ニ關スル當該官廳ノ許可書及命令書ノ謄本、未タ其ノ許可ヲ得サルモノハ其ノ願書ヲ當該官廳ニ提出シタルコトヲ證明セル書面

六　他ヨリ供給セラルル電力ヲ使用セムトスルモノニ在リテハ其ノ供給者トノ契約書（供給地點、送電ノ責任分界點、供給電力其ノ他供給上ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス）ノ謄本

第五條　第三條ニ依リ屆出ヲ爲シ又ハ認可ヲ得タル後計畫書中ノ事項又ハ工事設計明細書中ノ主要事項（電氣事業法施行規則第十八條第一項ニ揭ケタルモノニ準ス）ヲ變更セムトスルトキハ關係書類圖面ヲ具シ第三條ノ規定ニ準シ當該官廳ニ屆出又ハ認可ヲ申請スヘシ

前條第四號乃至第六號ノ事項又ハ前項ニ依ルノ外工事設計明細書中ノ事項ヲ變更シタルトキハ第三條ノ規定ニ準シ當該官廳ニ屆出ツヘシ

第六條　電氣工作物施設ノ認可ヲ得タル後邸宅構外ニ施設スル電線路（引込線ヲ除ク）又ハ軌道ヲ延長、增設若ハ短縮シ又ハ其ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ前條ノ規定ニ準シ認可ヲ申請スヘシ但シ送電開始後同一地域內ニ於ケル低壓若ハ高壓電線路ニ關スル場合ニシテ前條ニ依リ認可ヲ受クヘキ變更ヲ生セサルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ電氣工作物施設者ハ工事著手前關係圖面ヲ具シ所轄遞信管理局長ニ屆出ツヘシ

第七條　認可ヲ得テ施設シタル電氣工作物ヲ滅失又ハ損壞シタルトキハ其ノ復舊工事ハ認可ヲ得スシテ著手スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ發電所、變電所又ハ蓄電所內ニ於ケル復舊工事ニ關スルトキハ工事設計明細書中ノ主要事項ヲ變更スル場合ト雖認可ヲ得スシテ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得

第八條　電氣工作物施設者ハ工事著手前ニ主任技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

第二種電氣工作物ノ場合ニ於ケル主任技術者ハ電氣事業主任技術者資格檢定規則ニ依リ資格ヲ有スル者ニ就キ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ選任スヘシ

電氣事業主任技術者資格檢定規則ニ依ル資格ノ等級　本令ニ依リ主任技術者タルコトヲ得ヘキ電氣工作物ノ種類

第一級又ハ第二級　各種ノ電氣工作物

第三級　使用電壓一萬五千「ヴオルト」以下ノ電氣工作物

第四級又ハ第五級　低壓又ハ高壓ノ電氣工作物

前各項ノ外主任技術者、代務者及擔當技術者ニ關シテハ電氣事業法施行規則第三十八條第二項、第四十條乃至第四十三條及電氣事業主任技術者資格檢定規則第十三條第一項ノ規定ヲ準用ス

第九條　本令ニ依リ施設スル電氣工作物ノ工事ニ關シテハ電氣工事規程ヲ準用ス

第十條　第三條第二項、第五條又ハ第六條第一項ニ依リ認可ヲ得タル工事及第六條第二項又ハ第七條第三項ニ依リ屆出ヲ爲シタル工事落成シタルトキハ電氣工作物施設者ハ遲滯ナク其ノ認可ヲ與ヘ又ハ屆出ヲ爲シタル官廳ニ其ノ旨屆出ツヘシ

前項ノ屆出ハ電報、電話又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

電氣工事規程ニ依リ認可ヲ得テ施設スヘキ工事落成シタルトキハ遲滯ナク其ノ認可ヲ與ヘタル官廳ニ其ノ旨屆出ツヘシ

本條ニ依リ遞信大臣ニ屆出ツヘキ場合ニ於テハ同時ニ其ノ副本ヲ所轄遞信管理局長ニ提出スヘシ

第十一條　前條第一項ノ屆出アリタル場合ハ電氣事業法施行規則第四十六條及第四十七條ノ規定ヲ準用ス但シ第六條第二項及第七條第一項ニ依ル工事ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ外本令ニ依ル電氣工作物ニ關シテハ電氣事業法施行規則第五十六條、第五十九條乃至第六十三條、第六十五條、第六十八條、第六十九條、第七十二條ノ規定ヲ準用ス

第十二條　電氣工作物施設者及代表者其ノ名義ヲ變更シタルトキ又ハ電氣ノ使用ヲ開始、休止若ハ廢止シタルトキハ遲滯ナク第三條ノ規定ニ準シ當該官廳ニ屆出ツヘシ

第十三條　左ニ揭クル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　認可ヲ受ケスシテ認可ヲ受クヘキ工事ニ著手シタル者

二　第六條第二項及第七條第一項ニ依ル場合ヲ除クノ外第十條第一項ニ依ル屆出ヲ要スル電氣工作物ヲ使用認可證又ハ假使用認可證ヲ受ケスシテ使用シタル者

三　本令ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シ又ハ故ナク監査ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者

第十四條　本令ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リタル者ハ科料ニ處ス

第十五條　前二條ノ罰則ハ刑法第三十九條及第四十一條ノ規定ニ依リ其ノ者ノ行爲ヲ罰セサル場合ニ在リテハ其ノ法定代理人ニ適用シ商事會社其ノ他ノ法人ノ場合ニ在リテハ其ノ代表者ニ適用ス

附　則

第十六條　本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　認可ノ申請其ノ他書類圖面ノ提出ニ關シテハ電氣事業法施行規則第七十七條及第七十九條ノ規定ヲ準用ス

第十八條　本令施行前ニ於テ電氣事業取締規則ニ依リ工事施行ノ認可ヲ得又ハ屆出ヲ爲シタルモノハ本令ニ依リ第三條ノ區別ニ準シ認可ヲ得又ハ屆出ヲ爲シタルモノト看做ス

○電氣測定法 明治四十三年三月二十五日法律第二六號

第一條　電氣ノ測定ニ於テハ電氣抵抗ハ「オーム」、電流ハ「アムペア」、電壓ハ「ヴオルト」、電力ハ「ワット」ヲ以テ單位トス

第二條　「オーム」ハ氷ノ融解溫度ニ於テ質量一四、四五二一「グラム」長サ一〇六、三〇〇「センチメートル」ニシテ均一ナル切斷面積ヲ有スル水銀柱ノ不變電流ニ對スル電氣抵抗ヲ謂フ

第三條　「アムペア」ハ硝酸銀ノ水溶液ヲ通過シ毎秒〇、〇〇一一一八〇〇「グラム」ノ銀ヲ分離スル不變電流ヲ謂フ

第四條　「ヴオルト」ハ一「オーム」ノ電氣抵抗ヲ有スル導體ニ一「アムペア」ノ不變電流ヲ發生セシムル爲要スル不變電壓ヲ謂フ

第五條　「ワット」ハ一「ヴオルト」ノ電壓ニ於テ一「アムペア」ノ不變電流ニ依リ毎秒費サルル電氣勢力ヲ以テ表示スル電力ヲ謂フ

第六條　本法ニ依ル電氣單位ハ主務官廳ニ保管スル標準器ニ依リ之ヲ現示ス

第七條　電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ハ檢定ヲ受クヘシ

電氣計器ノ公差及檢定ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル電氣計器ヲ電氣ノ取引ニ使用シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ

罰金ニ處ス

一　檢定ヲ受ケサルモノ

二　檢定ニ合格セサルモノ

三　檢定ノ效力ヲ失ヒタルモノ

第九條　電氣ノ取引ニ於テ其ノ計量ヲ詐ルノ目的ヲ以テ不正ニ電氣計器ヲ使用シタル者ハ罰前條ニ同シ

第十條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第十一條　電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱、不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法竝第一條ニ揭ケタル以外ノ電氣單位ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本法ハ第七條及第八條ヲ除クノ外明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條及第八條ノ施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條及第八條施行前ヨリ引續キ電氣ノ取引ニ使用スル電氣計器ニ付テハ別ニ勅令ヲ以テ定ムル期間第八條ノ規定ヲ適用セス

第七條及第八條施行前ニ於テ命令ノ定ムル所ニ依リ主務官廳ノ試驗ニ合格シタル電氣計器ハ本法ノ檢定ニ合格シタルモノト看做ス

○電氣測定法第七條及第八條ノ施行期日竝附則第三項ノ期間ニ關スル件

（明治四十四年十二月二十七日勅令第二九五號）

電氣測定法第七條及第八條ノ規定ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

電氣測定法附則第三項ノ期間ハ前項ノ日ヨリ三年トス

○電氣計器試驗規則

（明治四十三年十二月二十七日遞信省令第一一六號）

第一條　電氣測定法附則第四項ノ電氣計器ノ試驗ハ本令ニ依リ之ヲ行フ

第二條　前條ノ試驗ヲ受ケムトスル者ハ其ノ電氣計器ノ型式ニ付豫メ試驗ヲ受ケ承認ヲ經ルコトヲ要ス但シ遞信大臣ノ既ニ承認セル型式ノモノハ此ノ限ニ在ラス

遞信大臣ノ承認セル電氣計器ノ型式ハ之ヲ告示ス

第三條　電氣計器ノ試驗ヲ受ケムトスルモノハ第一號又ハ第二號書式ニ依ル申請書ニ電氣計器ヲ添ヘ之ヲ電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ但シ型式ノ試驗ヲ受ケムトスルモノハ同種ノ計器五箇竝其ノ說明書及構造明細圖ヲ提出スヘシ

第四條　前條ノ電氣計器ニハ其ノ外函其ノ他適當ノ箇所ニ製造者名、製造番號、電流ノ種類、電氣方式、電壓及容量（又ハ電流）竝交流ノ場合ニ在リテハ周波數ヲ表示スヘシ

第五條　第一條ノ試驗ノ爲提出スル電氣計器ハ鉛ヲ以テ封印シ得ル樣裝置シタルモノタルヘシ

セスシテ電路ニ接續シ得ル構造ヲ有スル外函ヲ具備シ且封印ヲ剝離

第六條　第一條ノ試驗ニ於テ電氣計器ノ公差ハ百分ノ四ヲ限度トス

第七條　第一條ノ試驗ニ合格セル電氣計器ニハ封印ヲ爲シ其ノ申請者ニ合格證明書ヲ交付ス

第八條　前條ノ試驗合格ノ有效期間ハ證明書發行ノ日ヨリ五年トス

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ期間內ト雖試驗合格ハ其ノ效力ヲ失フ

一　封印ヲ失ヒ又ハ毀損シタルトキ

二　公差ノ限度ヲ超過シタルトキ

第十條　合格證明書ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ其ノ複本ノ下付ヲ申請スルコトヲ得

第十一條　電氣計器ノ試驗手數料及試驗合格證明書ノ複本作製手數料ハ左ノ區別ニ依リ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

一　電氣計器ノ試驗手數料

基本手數料　計器一箇ニ付

金三圓

計器ノ最大電流ニ依リ一箇ニ付左ノ手數料ヲ附加ス

五「アムペア」未滿	金一圓
五「アムペア」以上十「アムペア」未滿	金一圓五十錢
十「アムペア」以上二十「アムペア」未滿	金二圓
二十「アムペア」以上五十「アムペア」未滿	金三圓
五十「アムペア」以上百「アムペア」未滿	金四圓
百「アムペア」以上	金五圓
二　型式ノ試驗手數料	金七十五圓
三　試驗合格證明書ノ複本作製手數料	金二十五錢

第十二條　電氣計器ノ運搬及荷造ニ要スル費用ハ試驗申請者ノ負擔トス

附　則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式

電氣計器試驗申請書

收入印紙

貼付シタル收入印紙ノ額　金何圓何十錢

一、計器ノ型（電動機型、誘導型其ノ他ノ區別）竝製造者ノ型ノ記號

二、計器ノ種類（積算電力計、積算電量計等ノ區別、直流交流ノ區別、單相式多相式ノ區別、二線式三線式ノ區別、電壓、容量（又ハ電流）、周波數）

三、計器ノ定數

四、計器ノ製造者名

五、計器ノ製造番號

六、計器ノ箇數

右試驗申請候也

住所

年月日　氏名　印（或ハ會社名）

遞信大臣宛

第二號書式

電氣計器型式試驗申請書

收入印紙

貼付シタル收入印紙ノ額　金何圓何十錢

一、計器ノ型（電動機型、誘導型其ノ他ノ區別）竝製造者ノ型ノ記號

二、計器ノ種類（積算電力計、積算電量計等ノ區別、直流交流ノ區別、單相式多相式ノ區別、二線式三線式ノ區別、電壓、容量（又ハ電流）、周波數）

三、計器ノ定數

四、計器ノ製造者名

五、計器ノ製造番號

六、計器ノ箇數

右試驗申請候也

住所

年月日　氏名　印（或ハ會社名）

遞信大臣宛

○電氣計器ノ公差、檢定及檢定手數料ニ關スル件

明治四十四年十二月二十七日勅令第二九六號

第一條　電氣計器ノ公差ハ百分ノ四トス

第二條　檢定ヲ行ヒタル電氣計器左ノ各號ニ該當スルトキハ之ヲ合格トス

一　公差ヲ超エサルモノ

二　主務大臣ノ承認シタル型式ニ適合スルモノ

三　主務大臣ノ定ムル裝置及動作ニ關スル規定ニ適合スルモノ

特別ノ事由アル場合ニ於テハ前項第二號ニ適合セサル電氣計器ト雖特殊ノ試驗ヲ行ヒ之ヲ合格ト爲スコトヲ得

第三條　主務大臣電氣計器ノ型式ヲ承認シタルトキハ之ヲ告示ス

第四條　檢定ニ合格シタル電氣計器ニハ封印ヲ爲シ其ノ檢定申請者ニ檢定合格證書ヲ交付ス

第五條　檢定ノ有效期間ハ檢定合格證書ノ日附ヨリ五年トス

第六條　電氣計器左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ檢定ハ其ノ效力ヲ失フ

一　封印ノ破損シタルトキ

二　第二條第一號又ハ第三號ニ該當セサルニ至リタルトキ

第七條　電氣計器ノ型式承認又ハ檢定ノ申請ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　型式承認ノ申請ヲ爲ストキ

甲　積算電氣計器　一件ニ付　金七十五圓

乙　最大負荷表示器　一件ニ付　金二十圓

二　承認シタル型式ノ主要部分ニ非サル部分ヲ變更シテ更ニ型式承認ノ申請ヲ爲ストキ

甲　積算電氣計器　一件ニ付　金二十五圓

乙　最大負荷表示器　一件ニ付　金十圓

三　第二條第一項ノ檢定ノ申請ヲ爲ストキ

甲　積算電氣計器

イ　基本手數料　一箇ニ付　金二圓

ロ　電氣計器ノ規定電流及電壓ニ依リ左ノ手數料ヲ附加ス

規定電流ニ依ル附加手數料

十「アムペア」以下　金一圓

二十「アムペア」以下　金二圓

五十「アムペア」以下　金三圓

百「アムペア」以下　金四圓

三百「アムペア」以下　金六圓

五百「アムペア」以下　金八圓

千「アムペア」以下　金十二圓

二千「アムペア」以下　金十七圓

三千「アムペア」以下　金二十二圓

規定電壓ニ依ル附加手數料

規定電壓三百「ヴオルト」ヲ超過スルモノニ在リテハ千「ヴオルト」以下ヲ增ス毎ニ金一圓

乙　最大負荷表示器

甲號ノ手數料ノ四分ノ一

四　第二條第二項ノ檢定ノ申請ヲ爲ストキ

前號ノ手數料ノ二倍

五　承認シタル型式ニ適合スル積算電氣計器ニシテ主務大臣ノ定ムル誤差ノ檢定ニ關スル規定又ハ始動電流ニ關スル規定ニ適合セサル爲不合格ト爲リタルモノヲ修繕又ハ調整ヲ爲シタル後更ニ檢定ノ申請ヲ

爲ストキ　百「アムペア」以下　金一圓
千「アムペア」以下　金二圓
三千「アムペア」以下　金四圓
電氣計器ノ檢定ノ有效期間内ニ於テ再封印ノ申請ヲ爲ス者ハ前項第五號ノ場合ト同額ノ手數料ヲ納付スヘシ
第一項ニ揭ケサル型式承認及檢定ノ申請手數料ハ第一項ノ規定ニ準シ主務大臣之ヲ定ム
第八條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ

附　則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行前主務大臣ノ告示シタル電氣計器ノ型式ノ承認ハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

○電氣計器檢定規則

明治四十四年十二月二十八日　遞信省令第五〇號

第一條　電氣計器型式ノ承認ヲ受ケムトスル者ハ申請書第一號書式ニ同一ノ型式及容量ノ計器（附屬器具共）五箇竝其ノ說明書及圖面ヲ添ヘ遞信省電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ
第二條　前條ノ說明書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　計器ノ構造及働作
（甲）電動機型又ハ誘導型電氣計器ニ在リテハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
（イ）電壓及電流（配置、材料、捲數、大サ及抵抗）捲線（直流ノ場合ニ在リテハ電動子、刷子及附屬物ノ構造ヲモ）
（ロ）磁路（配置及材料）
（ハ）廻轉圓板（配置、材料及構造）
（ニ）車軸及軸承（材料及構造）
（ホ）制動磁石（配置方法、材料及取附）
（ヘ）相ノ調整裝置、重負荷及輕負荷ノ調整裝置竝「クリーピング」防禦裝置（配置、材料及調整方法）
（ト）「キロワット」時數又ハ「アムペア」時數指示裝置（配置、構造及齒車裝置ノ係數）
（チ）外函及端子函（形狀及材料）
（リ）可動部分ノ緊束裝置（配置及構造）
（ヌ）前記各部ノ動作ノ大要
（乙）前記以外ノ計器ニ在リテハ（イ）乃至（ヌ）ニ準シ記載スヘシ
二　同一型式計器ノ測定範圍（同一型式計器ニ規定スル電壓、電流、周波數及電氣方式竝負荷ノ性質、變壓器、變流器其ノ他附屬器具ノ有無等）
三　計器取扱上ノ注意
四　前各號以外ニ於テ特徵ト認ムヘキ事項
前條ノ圖面ハ左ノ二種トシ用紙ニハ原圖紙（長サ約七寸五分幅約五寸）ヲ用ウヘシ
一　計器電線接續圖（縮尺四分ノ一乃至二分ノ一）
二　計器構造圖
第三條　承認ヲ經タル型式ノ一部分ヲ變更スル場合ト雖遞信大臣ニ於テ其ノ變更カ型式ノ主要部分ニ非スト認ムルモノニ限リ其ノ繼續承認ヲ受クルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ申請書第二號書式ニ計器（附屬器具共）一箇竝其ノ變更事項ヲ記載セル書類及圖面ヲ添ヘ遞信省電氣局電氣試驗所ニ提出スヘシ
遞信大臣ニ於テ型式ノ試驗ヲ必要ト認メ其ノ旨申請者ニ指示シタルトキハ申請者ハ前項ノ申請書ニ同一ノ型式及容量ノ計器（附屬器具共）二箇ヲ添附スヘシ
第四條　電氣計器ノ檢定ヲ受ケムトスル者ハ申請書第三號書式ニ計器（附屬器具共）ヲ添ヘ遞信省電氣局電氣試驗所ニ提出

スヘシ

明治四十四年勅令第二百九十六號第二條第二項ニ依リ電氣計器ノ特殊試驗檢定ヲ受ケムトスル者ハ申請書（第四號書式ニ計器附屬器具共）竝第二條ニ準シ調製セル說明書及圖面ヲ添ヘ遞信省電氣試驗所ニ提出スヘシ

第五條　積算電氣計器ノ誤差ノ試驗ハ左ノ方法ニ依ル

一　規定電壓ニ於テ（交流ノ場合ニ在リテハ規定電壓、規定周波數及無誘導負荷ニ於テ）規定電流竝其ノ二分ノ一及其ノ十分ノ一ヲ以テ試驗ス

二　規定電壓、規定電流及規定周波數ニ於テ力率二分ノ一ヲ以テ試驗ス但シ特ニ無誘導負荷ニ限リ使用スル計器ニ在リテハ本號ノ試驗ヲ省略ス

第六條　第四條ニ依リ提出セル積算電氣計器ノ始動電流ハ規定電壓ニ於テ（交流ノ場合ニ在リテハ規定電壓、規定周波數及無誘導負荷ニ於テ）規定電流ニ「アムペア」以下ノモノニ在リテハ規定電流ノ百分ノ三以下又規定電流三「アムペア」ヲ超過スルモノニ在リテハ規定電流ノ百分ノ二以下タルヘシ

第七條　電氣計器ニハ其ノ外函其ノ他適當ノ箇所ニ製造者名、番號、型ノ記號、電氣方式、電壓及容量（又ハ電流）竝交流ノ場合ニ在リテハ周波數ヲ表示スヘシ

第八條　電氣計器ハ鉛ヲ以テ封印シ得ル構造ヲ有スル外函ヲ具備シ且封印ヲ剝離セスシテ電路ニ接續シ得ル樣裝置シタルモノタルヘシ

運搬ニ際シ可動部分ノ緊束ヲ必要トスル計器ニ在リテハ封印ヲ剝離セスシテ外部ヨリ之ヲ緊束シ得ル樣裝置シタルモノタルヘシ

第九條　檢定ニ合格セル電氣計器ニ施スヘキ封印及附屬金屬片ノ雛形ハ左ノ如シ

一　封印　遞信省　表面

直徑約三分四厘

〒　裏面

二　附屬金屬片　15372　表面　45. 3　裏面

長サ約八分七厘幅約三分五厘

（輪廓內ノ數字ハ各計器ノ檢定番號ヲ表ハス）

（輪廓內ノ數字ハ左方ハ年、右方ハ月ヲ表ハス）

檢定合格證書ハ第五號書式ニ依リ調製ス

電氣計器ノ檢定ノ有效期間內ニ於テ再封印ヲ爲シタルトキハ遞信省ニ於テ其ノ檢定合格證書ノ裏面ニ其ノ旨ヲ記載ス

第十條　檢定合格證書ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲ス者ハ手數料トシテ證書一通ニ付金二十五錢ヲ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ

第十一條　電氣計器ノ所有者ハ現ニ電氣ノ取引ニ使用スル計器ノ檢定番號、檢定年月日、製造者名、番號及其ノ種類、格定竝使用場所ヲ記載セル帳簿ヲ備フヘシ

第十二條　電氣計器ノ所有者ハ每年三月三十一日現在電氣ノ取引ニ使用スル計器ノ箇數ヲ第六號書式ニ依リ四月三十日迄ニ遞信大臣ニ屆出ツヘシ

第十三條　電氣計器ノ檢定ハ申請ニ依リ計器所在地ニ於テ行フコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ申請者ハ第五條及第六條ノ試驗ヲ行フニ必要ナル設備ヲ爲シ且檢定ニ要スル費用ヲ負擔スヘシ

第十四條　第十一條又ハ第十二條ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ明治四十四年勅令第二百九十六號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式（用紙美濃紙）

収入印紙

電氣計器型式承認申請書

貼附シタル收入印紙ノ額　金何圓

一　計器ノ種類　積算電力計、積算電量計、最大負荷表示器等ノ區別

二　製造者名

三　番號

四　型式番號　誘導型、電動機型等ノ區別竝製造者ノ型ノ記號

五　格定　直流交流ノ區別、單相式二相式三相式等ノ區別、二線式三線式等ノ區別、電壓、容量（又ハ電流）、周波數、負荷ノ性質

六　係數

七　箇數

八　附屬器具

右電氣計器檢定規則第一條ニ依リ電氣計器型式ノ承認ヲ申請候也

住所

年月日　申請者名印

遞信大臣宛

第二號書式（用紙美濃紙）

収入印紙

電氣計器型式繼續承認申請書

貼附シタル收入印紙ノ額　金何圓

一　計器ノ種類　積算電力計、積算電量計、最大負荷表示器等ノ區別

二　製造者名

三　番號

四　型式番號　誘導型電動機型等ノ區別竝製造者ノ型ノ記號

五　型式ノ承認セラレタル番號

六　格定　直流交流ノ區別、單相式二相式三相式等ノ區別、二線式三線式等ノ區別、電壓、容量（又ハ電流）、周波數、負荷ノ性質

七　係數

八　箇數

九　附屬器具

十　變更事項

右電氣計器檢定規則第二條ニ依リ電氣計器型式ノ繼續承認ヲ申請候也

年月日　住所　申請者名印

遞信大臣宛

第三號書式（用紙美濃紙）

収入印紙

電氣計器檢定申請書

貼附シタル收入印紙ノ額　金何圓何十錢

一　計器ノ種類　積算電力計、積算電量計、最大負荷表示器等ノ區別

二　製造者名

三　番號

四　型式番號　誘導型、電動機型等ノ區別竝製造者ノ型ノ記號

五　型式ノ承認セラレタル番號

六　格定　直流交流ノ區別、單相式二相式三相式等ノ區別、二線式三線式等ノ區別、電壓、容量（又ハ電流）、周波數、負荷ノ性質

七　係數

八　箇數

九　附屬器具

右電氣計器檢定規則第四條第一項ニ依リ電氣計器ノ檢定ヲ申請候也

年月日　住所　申請者名印

遞信大臣宛

第四號書式（用紙美濃紙）

収入印紙

電氣計器特殊試驗檢定申請書

貼附シタル收入印紙ノ額　金何圓何十錢

一　計器ノ種類　積算電力計、積算電量計、最大負荷表示器等ノ區別

二　製造者名

三　番號

四　型式番號　誘導型、電動機型等ノ區別竝製造者ノ型ノ記號

五　型式ノ承認ヲ受クルコト能ハサル事由

六　格定　直流交流ノ區別、單相式二相式三相式等ノ區別、二線式三線式等ノ區別、電壓、容量（又ハ電流）、周波數、負荷ノ性質

七　係數

八　箇數

九　附屬器具

右電氣計器檢定規則第四條第二項ニ依リ電氣計器ノ特殊試驗檢定ヲ申請候也

年月日　住所　申請者名印

遞信大臣宛

第五號書式

検第　號

電氣計器檢定合格證書

檢定申請者	
計器ノ種類	
計器製造者	
計器番號型式番號	第　號 第　號
計器ノ型	型
計器ノ格定	電氣方式　流相線式 電壓　「ヴオルト」乃至「ヴオルト」 電流　「アムペア」 周波數　「サイクル」 負荷ノ性質
附屬器具	
本證有效期間	自明治　年　月　日 至明治　年　月　日

本計器ハ電氣測定法第七條ノ檢定ニ合格シタルコトヲ證ス

明治　年　月　日

遞信省印

第六號書式

電氣計器箇數調

明治　年十二月三十一日末現在

住所……　計器所有者（氏名）印

計器種類				
製造者名				
番號	第　號			
型式番號	第　號			
型	型			
格定 電氣方式	流相線式			
格定 電壓	「ヴオルト」乃至「ヴオルト」			
格定 電流	「アムペア」			
格定 周波數	「サイクル」			
格定 負荷ノ性質	負荷			
附屬器具				
有效期間	自明治　年　月　日 至明治　年　月　日			
檢定番號	號			
備考				

○電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱其他ニ關スル件

明治四十三年十二月二十七日
遞信省令第一一七號

第一條　電氣單位ノ倍數及分數ノ名稱左ノ如シ

「メグオーム」	「オーム」ノ百萬倍
「マイクロオーム」	「オーム」ノ百萬分ノ一
「キロアムペア」	「アムペア」ノ千倍
「ミリアムペア」	「アムペア」ノ千分ノ一
「マイクロアムペア」	「アムペア」ノ百萬分ノ一
「キロヴオルト」	「ヴオルト」ノ千倍
「ミリヴオルト」	「ヴオルト」ノ千分ノ一
「マイクロヴオルト」	「ヴオルト」ノ百萬分ノ一
「キロワット」	「ワット」ノ千倍
「マイクロクーロム」	「クーロム」ノ百萬分ノ一
「マイクロファラッド」	「ファラッド」ノ百萬分ノ一
「ミリヘンリー」	「ヘンリー」ノ千分ノ一
「マイクロヘンリー」	「ヘンリー」ノ百萬分ノ一
「ワット」時	「ジユール」ノ三千六百倍
「キロワット」時	「ワット」時ノ千倍

第二條　不變電流以外ノ場合ニ於ケル電流電壓及電力ノ計算方法左ノ如シ

一　不變電流以外ノ場合ニ於ケル實效電流ノ不變電流ニ及實效電壓ノ不變電壓ニ對スル等價ハ其ノ瞬時値ノ自乘ノ平均ノ平方根ヲ以テ定ム

二　不變電流ニ「アムペア」ニ相當スル實效電流ヲ一實效「アムペア」ト稱シ不變電壓ニ「ヴオルト」ニ相當ス

ル實效電壓ヲ一實效「ヴオルト」ト稱ス

三　電力ハ其ノ瞬時値ノ平均ヲ以テ定ム

第三條　電氣測定法第二條ニ揭ケタル以外ノ電氣單位左ノ如シ

一　電量ハ「クーロム」ヲ以テ單位トス

「クーロム」ハ一「アムペア」ノ電流ニ依リ一秒間ニ輸送サルル電量ヲ謂フ

二　電氣容量ハ「フアラッド」ヲ以テ單位トス

「フアラッド」ハ一「クーロム」ノ電量ニ依リ一「ヴオルト」ノ電位ニ充電サルル蓄電器ノ電氣容量ヲ謂フ

三　電氣仕事ハ「ジユール」ヲ以テ單位トス

「ジユール」ハ一「アムペア」ノ電流ニ「オーム」ノ電氣抵抗ヲ有スル導體ヲ通過スルトキ一秒間ニ爲ス仕事ヲ謂フ

四　電氣誘導ハ「ヘンリー」ヲ以テ單位トス

「ヘンリー」ハ毎秒一「アムペア」ノ割合ヲ以テ變化スル電流ニヨリ一「ヴオルト」ノ電壓ヲ發生スル電路ノ電氣誘導ヲ謂フ

附　則

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○電氣事業法施行規則ニ依リ使用スル標旗及標燈

（明治四十四年九月二十八日遞信省告示第一〇五〇號）

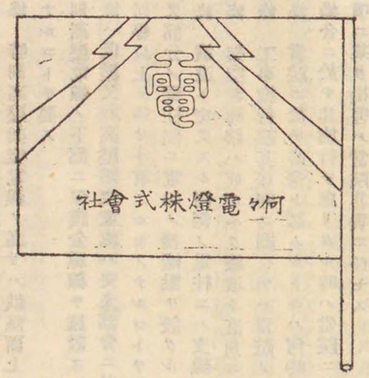
電氣事業法施行規則第六十一條及第六十二條ニ依リ使用スル標旗及標燈ハ從前電氣事業取締規則ニ依リ定メタル樣式ニ依ル

電氣事業取締規則ニ依ル標旗及標燈制式（明治三十五年九月二十二日遞信省告示第四一二號）

明治三十五年八月遞信省令第三十六號電氣事業取締規則第六十六條及第六十七條ニ依リ使用スル標旗及標燈ハ左ノ制式ニ依リ調製スヘシ

第一　標旗ノ制式

一　第六十六條ニ依リ使用スルモノ



地色　白
縱　一尺五寸
橫　二尺
標章色　赤
電氣事業者ノ商號又ハ名稱ヲ標章ノ下ニ黑書ス

二　第六十七條ニ依リ使用スルモノハ縱二尺橫三尺トシ其ノ他ノ制限ハ總テ前項ニ準ス

第二　標燈ノ制式

一　第六十六條ニ依リ使用スルモノ

地色　白
形狀　丸形弓張提燈
標章色　赤
電氣事業者ノ商號又ハ名稱ヲ標章ノ下ニ黑書ス

二　第六十七條ニ依リ使用スルモノハ通常高張提燈ノ形狀トシ其ノ他ノ制限ハ總テ前項ニ準ス

○遞信省管理ニ屬スル通信事業用工作物ニ關シ承諾又ハ立會請求方ノ件

明治四十四年九月二十八日
遞信省告示第一〇五一號

電氣工事規程ニ依リ遞信省ノ管理ニ屬スル通信事業用工作物ニ關シ承諾又ハ立會ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ其ノ所轄遞信管理局長ニ之ヲ爲スヘシ

○電氣事業者カ其架空電線路ヲ當院鐵道線路ト交叉シテ施設スル場合ノ條件ニ關スル件

大正元年十月九日
鐵電第二〇一一號電氣課長通牒

電氣事業者カ當院鐵道線路ト交叉シテ其架空電線路ヲ施設セントスル場合ニ於テハ從來區々ニ渉リ居候ニ付別紙爲參考及送付候條大體ニ於テ右ニ據リ御處理相成候樣致度

電氣事業者カ當院鐵道ト交叉シテ其架空電線路ヲ施設セントスルトキハ電氣工事規程ニ據ルノ外尙左ノ條項ニ準據スルコトヲ要ス

第一條　特別高壓架空電線ノ高サハ軌條面上二十二尺以上、他ノ架空電線（特別高壓架空電線路添架電話線ヲモ含ム）ノ高サハ軌條面上二十尺以上ナルコトヲ要ス

特別高壓電線ノ下部ニ保護金屬線ヲ施設スヘキ場合ニハ其金屬線ノ高サハ軌條面上二十尺以上ナルコトヲ要ス

第二條　低壓又ハ高壓架空電線ハ交叉部分ニ於テハ切斷面積一平方寸ニ付六千貫以上ノ拉斷力ヲ有スル直徑一分六厘以上ノ圓形ノ銅線若クハ之ト同等以上ノ強サヲ有スルモノナルコトヲ要ス

交叉部分ノ電柱間ニ電線ノ接續點ヲ設クルコトヲ得ス

第三條　鐵道ト交叉スル兩側ノ電柱ニハ支線又ハ支柱及根枷ヲ施設シ鐵道線路ノ方向ニ倒レサラシムルコトヲ要ス

第四條　架空電線路ハ成ルヘク鐵道ト直角ニ交叉スルコトヲ要ス

第五條　工事施行竝其保守ニ關シテハ當院ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第六條　當院ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ電氣事業者ノ負擔ヲ以テ本件工作物ヲ移轉又ハ改築セシムルコトアルヘシ

此場合ニ於テ其施行ヲ怠リタル時ハ當院ニ於テ施行シ其費用ハ總テ電氣事業者ノ負擔トス

前項ニ基ク損害ハ當院其責ニ任セス

第七條　天災事變其他不可抗力ニ因ル場合ト雖モ總テ本件工作物存在ノ爲ニ生シタル當院ノ損害ハ電氣事業者ニ於テ賠償スルノ責アルモノトス

○臨時電燈施設ニ關スル件

明治四十一年九月十五日
通電甲第四四二三號遞信省通信局長依命通牒
（運輸部長照會）明治四十一年八月十二日
鐵運戊第九九〇號

當廳營業線內常設又ハ假設停車場ニ祭典其他乘客群集混雜ニ際シ危險ニ備フルタメ臨時電灯點火ノ必要有之候處是等ノ場合ハ孰レモ急速設備ヲ要シ候條其都度貴局竝ニ關係地方廳ヘ通牒シ別紙記載ノ方法ニ依リ施設シ落成次第直チニ使用致度候間右豫メ御承諾相成度

（別紙）

一　事業ノ目的

停車場構內臨時點燈ノ爲メ

二　使用區域

帝國鐵道廳營業線用地內

三　發電所ノ位置及其位置ヨリ使用區域ニ達スル電線路ノ經過地

帝國鐵道廳營業線用地內

四　工事設計明細書

第一　發電所內機械器具裝置法

發電機使用ノ場合

發電機汽機ハ機關車ニ積載シ其汽鑵ノ蒸氣ヲ使用シ運轉セシメ配電盤ハ車上適當ノ箇所ニ裝置ス

蓄電池使用ノ場合

蓄電池ハ蓄電車ニ積載シ車內ニ配電盤ヲ裝置ス

電線接續圖別紙ノ通リ

第二　發電機ノ種類、箇數及其「ワット」數又ハ蓄電池ノ種類箇數及其放電容量

發電機使用ノ場合

種類　直流分卷
最大電壓　百「ボルト」
「ワット數」　拾五「キロワット」
箇數　壹　箇
蓄電池使用ノ場合
種類　「フオーレ」型
最大電壓　百「ボルト」
放電容量　貳百（アベヤアワー）
箇數　五拾箇

第三　電氣方式
低壓直流二線式

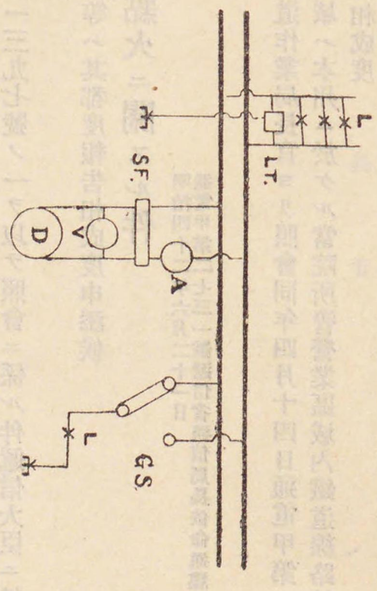
第四　電線路ノ種類及其構造法
架空線ニシテ其場所ニヨリ「ゴム」被覆線又ハ東京線ヲ使用シ屋外ハ地表面上十六呎以上ノ高サニ二重碍子ヲ以テ電線ヲ架渉シ屋内ハ凡テ露出工事トス

第五　保安裝置法
開閉器、自働遮斷器、檢漏器及避雷器ヲ用フ

五、發電機使用ノ場合ニ於ケル原動機明細書
汽機
種類　横置不凝式「カーチスタービン」
箇數　壹　箇
馬力數　貳拾馬力

汽罐
種類　「ロコモチーブ」
加熱面積　八百四平方吋
火爐面積　拾參平方吋貳
常用汽壓　百四拾五封度

SWITCH BOARD CONNECTION



（通信局長回答）明治四十一年八月三十一日通電乙第一九四一號

八月十二日付鐵運戊第九九〇號ヲ以テ停車場臨時電燈施設ノ義ニ付照會相成候處右工作物施設ニ關シテハ官廳施設電氣事業取締規程第一條第一項ニ依リ工事施行前單ニ屆出ヲ以テ足ル義ニ有之候得共工作物使用ニ際シ第二條ニ依ル使用ノ承認ヲ待ツコト能ハサル事由不明ニ有之候ニ付更ニ詳細回報相成度候也

追テ本件ノ臨時電燈ハ何レノ停車場ニモ之ヲ施設セラルヘキ義ニ候哉又ハ或ル地方ニ限ラルル義ニ候哉併テ回報相成度候也

（運輸部長再照會）明治四十一年九月四日鐵電第一三九七號ノ一

停車場等ニ臨時電燈施設ノ義ニ付通電乙第一九四一號ヲ以テ御回答ノ次第モ有之候處本案ハ乘客群集其他荷客ノ取扱ニ非常ノ混雜ヲ來スカ如キ一時的急遽ノ場合ニ臨機施設セントスルモノニシテ東京ヲ距ル遠隔ノ場所ニ在テハ工作物使用ノ御承認ヲ仰ク暇ナキ場合多ク且工事設計明細書ニモ記載致置候通軌道上ニ假留スル列車電灯用發電裝置ヨリ一時停車場内ニ引入レ點火スルニ過キス候ニ付官廳施設電氣事業取締規程第二條ノ手續省略方特ニ御配意相成度尚追書御申越ノ件ハ右ノ次第ニテ豫メ停車場名ヲ限定難致モ施行區域ハ本州内ニ限ル義ニ候

（通信局長依命通牒）明治四十一年九月十五日　通電甲第四四二三號

八月十二日附鐵運戊第九九〇號及九月四日附鐵電第一三九七號ノ一ヲ以テ照會ニ係ル件遞信大臣ニ於テ承認相成候

追テ電燈施設停車場名及使用開始年月日竝ニ期間等ハ其都度報告相成度

○應急工事ニ際シ臨時電燈點火ニ關スル件

（運輸部長照會）明治四十二年六月十四日　鐵運戊第五六六號

明治三十五年三月二十七日鐵作工乙第一八二號元鐵道作業局長官ヨリ照會同年四月十四日通電甲第一三一〇號ヲ以テ承諾相成候應急工事用臨時電燈點火使用區域ハ本州ニ於ケル當院所管營業區域ヲ鐵道線路竝停車場トシ從前ノ工事設計ニ據リ施設使用致度候條承諾置相成度

追テ電燈施設ノ個所及使用開始ノ年月日竝期間等ハ其都度報告可致候

（通信局長依命通牒）明治四十二年六月二十一日　通電甲第二七三一號

本月十四日附鐵運戊第五六六號ヲ以テ照會ニ係ル件ハ遞信大臣ニ於テ承認相成候

（備考）明治三十五年三月二十七日　鐵作工乙第一八二號（長官決定）

鐵道線路及停車場修繕又ハ改築等ニ際シ特ニ急施又ハ速成ヲ要スル爲晝夜ヲ分タス工事ヲ施行スル場合ニハ之ニ伴ヒ臨時電燈點火ノ必要有之候處是等ノ場合ハ孰モ急速設備ヲ要スルモノニシテ寸時モ猶豫シ難キモノニ有之付テハ豫テ發電機ヲ常備シ必要ニ際會スル毎ニ毎燈點火ヲ要シ之ヲ應用スル樣致度候間一應左案通信局長ヘ照會相成可然哉此段相伺候也

當局所管鐵道線路停車場修繕又ハ改築等ニ際シ特ニ急施又ハ速成ヲ要スル爲晝夜ヲ分タス工事ヲ施行スル場合ニハ之ニ伴ヒ臨時電燈點火ノ必要有之候處是等ノ場合ハ孰モ急速設備ヲ要スルモノニシテ寸時モ猶豫シ難キモノニ有之付テハ別紙記載ノ方法ニ依リ豫テ發電機ヲ常備シ必要ニ際シ毎ニ電燈點火ヲ應用スルコトニ致度候間御承諾置相成度此段及照會候

㊞　年　月　日　　通信局長

（別紙）

一、直流式分電卷發電機　一箇

電壓百二十五「ボルト」電流八十「アンペヤ」

原動機公稱十馬力「ポーテブルエンジン」

但調革ヲ以テ右發電機ヘ連結ス

一、直流式分電卷發電機　一箇

電壓百二十五「ボルト」電流六十「アンペヤ」

原動機公稱十馬力「ポーテブルエンジン」

但調革ヲ以テ右發電機ヘ連結ス

一、直流式分電卷發電機　一箇

電壓百十「ボルト」電流三十五「アンペヤ」

原動機九、五馬力「オイルエンジン」

但調革ヲ以テ右發電機ヘ連結ス

一、使用區域　當局所管營業線路内其停車場構内

一、電氣方式　直流低壓　二線式

一、電線及布設　架空線ニシテ其場所ニヨリ「ゴム」被覆及木綿被覆線取混セ使用ス

一、保安裝置　各發電機ニハ把電盤ヲ備ヘ兩極開閉器、安全器、漏電計、電流計、電壓計、案内燈ヲ取附ク

但亘長貳丁以上ノ屋外線路ヲ有スル場合ニハ右ノ外尚避雷器ヲ設ク

（通信局長回答）明治三十五年四月十四日　通電甲第一三一〇號

客月二十七日附鐵作工乙第一八二號ヲ以テ貴局御所管鐵道線路及停車場ノ修繕改築工事用ノ爲臨時電燈施設ノ義ニ關シ御照會ノ趣了承右ハ別段支障無之候條此段及回答候也

○列車内電燈燭力標準制定ノ件

明治四十四年五月十五日　鐵電第一〇六〇號工作、電氣課長通牒

列車内電灯ハ從來其數竝ニ燭力一定セス爲ニ統一ヲ缺キ不都合ノ場合モ有之且目下經費節約ヲ要シ候時期ニモ有之候ニ就テハ當分左記標準ニ據リ施設相成候樣致度

追テ列車電灯ハ規定ノ電壓ヲ出サス爲ニ光力不充分ノモノ往々有之候條爾今規定ノ電壓ヲ保持スル樣注意相成度尚灯數標準ヨリ著シク差異アルモノハ修繕ノ際相當改修相成度

一、寢室　　床四疊（上下左右）ニ付
　　貳灯用（グローブ付シーリングフイクステユーア）壹　個
一、食堂　　テーブル二脚（左右）ニ付
　　貳灯用（同上）
一、壹等室　　床面積一平方呎ニ付　　壹　個
一、貳等室　　同　　約〇、三燭光
一、參等室　　同　　同　〇、二五燭光
一、郵便室　　同　　同　〇、二燭光
一、手荷物室　　同　　同　〇、三燭光
　　附　記　　同　〇、一五燭光
四輪ボギー車ニハ一灯用（グローブ付シーリングフイクステユーア）
六輪ボギー車ニハ二灯用（グローブ付シーリングフイクステユーア）
（六輪ボギー車ニ一灯用ヲ使用セハ其數餘リニ多クナルヲ以テ二灯用トス）

一、二、三等室ニハ特別ノ場合ノ外十二燭光（四十五年五月二日鐵電第九五一號照會追書ニ依リ一、二、緩急室、手荷物室、食堂、寢室等ニハ八燭光使用ノコト　三等室及郵便室ニハ十二燭光ノ代リニ十六燭光ヲ使用）昇降臺、廊下、便所、化粧室、

以　上

第三章　雜　則

○遞信省所管電線路ヲ當院用地又ハ造營物ニ建設スルニ付協定ノ件

明治四十二年二月二十四日　鐵運丙第四一二號運輸部長通牒

本院所管用地内竝同造營物ニ遞信省所管電線路建設及移轉等ハ從來ノ通リ同省通信局長ト元作業局長官トノ間ニ協定セシ事項ニ據リ引續キ處理相成度別紙關係書類寫送付致候

（別紙）

明治三十四年五月九日長官押印

鐵道作業局長官
通信局長

鐵道作業局鐵道用地竝其造營物ニ公衆通信用電信電話線建設移轉ニ關スル件

公衆通信ノ用ニ供スル電信電話線ノ建設移轉等ニ就テハ明治二十三年法律第五十八號ヲ以テ規定スル處アルモ電信電話及鐵道ノ業務ハ均シク同一省内ノ公益事業ナルノミナラス兩者共目下工事擴張ノ際ニ付相互ノ間ニ支障抔格スル處ナカラシメンカ爲メニ左ノ如ク協定セリ

一　電信電話線ヲ建設スル爲メ鐵道作業局鐵道用土地又ハ其造營物ヲ使用セントスルトキハ所轄建築事務兼掌一等郵便電信局長若クハ電話交換局長ヨリ其都度鐵道作業局長官ト豫メ協議スヘシ
　但小工事ニシテ本文ノ手續ヲ履行スルコト却テ双方ノ手數ヲ重ヌルニ過キサルモノハ豫メ建築事務兼掌一等郵便電信局長若クハ電話交換局長ト鐵道作業局出張所長若クハ保線事務所長トノ協議ニ依リ適宜ノ方法ヲ採ラシムヘシ

一　鐵道作業局ニ於テハ作業上確定シタル鐵道工事ニ差支アル場合ノ外ハ第一項ノ協議ニ應スヘシ若シ已ムヲ得スシテ右等ノ差支アル土地又ハ造營物ヲ使用シテ一時電信電話線ヲ建設スルコトアルトキハ鐵

道作業局長官ノ通牒ニ依リ支障ノ發生前他ノ場所ニ電信電話線ヲ移轉シ其移轉費用ハ之ヲ鐵道作業局ニ請求セサルモノトス

一　電信電話線ノ移轉ヲ要スル區域長距離ニ亘リ又ハ一時ニ多額ノ移轉費用ヲ要スル工事ハ前以テ鐵道作業局長官ノ通牒ニ依リ通信局長ニ於テ翌年度豫算中ニ其移轉費用ヲ要求シ豫算成立後之ヲ施行スルモノトス

一　移轉ヲ要スル區域大ナラス隨テ工費モ多額ニ上ラサルモノ及急速移轉ノ必要ヲ生シタルモノハ臨時其施行方ヲ鐵道作業局長官ヨリ通信局長ニ請求スルモノトス若シ此場合ニ於テ通信局ニ經費ナキトキハ鐵道作業局ニ於テ電柱人夫其他物品ノ幾分若クハ全部ヲ供給スルモノトス

但些少ノ工事ニ付テハ鐵道作業局出張所長若クハ保線事務所長ヨリ建築事務兼掌一等郵便電信局長若クハ電話交換局長ニ請求スルモノトス

一　鐵道作業局ニ對シ移轉費用ヲ請求スヘキヤ否ハ總テ其電信電話線架設ノ條件付ナルヤ否ニ依リテ之ヲ決定ス

一　已ニ架設シタル電信電話線ノ處分ニ關シテハ鐵道改良工事計畫ノトキヲ以テ區分シ其以前ノ分ニ付テハ鐵道作業局ヨリ移轉費用ヲ支辨シ其以後ノ分ニシテ改良工事ノ關係上移轉ヲ要スルモノニ付テハ之ヲ支辨セサルモノトス

○鐵道用電柱敷地使用方ノ件

明治三十四年二月十六日
鐵作第一〇六號遞信大臣決裁

客年四月鐵作第二一五號認可ヲ得テ施行スル當局鐵道用電柱ハ出來得ル限リ鐵道用地内ニ建植スル設計ニ有之候得共實地已ムヲ得サル場合ニ在リテハ官有地御料地及民有地内ニ建設スル必要有之候ニ付民有地ニ在リテハ所有者ト協議ノ上使用シ官有地御料地ハ各其主管官廳ニ商議ノ上使用スルコトトシ孰モ〔工務部長〕限リ處理致可然哉此段仰高裁候也

○鐵道電信柱敷地手當支給ノ件

明治三十年五月二十日
鐵第六一四號遞信大臣決裁

鐵道電信柱敷地手當ノ義ハ明治二十三年八月法律第五十八號電信電話線條例第六條ニヨリ支給スヘキモノト存候處曾テ長官ヨリ別紙伺出ニ對シ乙號ノ通リ内務大臣ヨリ指令相成候ニ付テハ所管内鐵道電信ニ限リ該法律ニ據ラス尚元工部省第二號布達ヲ適用スヘキモノト相心得可然哉聊カ疑義相生シ候ニ付此段相伺候也

（別紙）

（甲號）鐵道廳長官伺　明治二十四年五月一日　鐵第二三三號

當廳電信柱敷地手當ノ義ハ明治七年九月舊工部省達第二號ニ據リ一箇年一本ニ付金八錢以内ヲ以テ給與致來候處客年八月法律第五十八號電信線電話線建設條例公布相成候ニ就テハ勿論該條例ニヨリ敷地手當ヲ支給可致義ト存候得共爲念此段相伺候也

（乙號）内務大臣指令　明治二十四年五月十六日　甲第十一號

本月一日鐵第二三三號伺鐵道電信柱敷地手當ノ件ハ明治七年舊工部省達第二號ニヨル義ト心得ヘシ

（備考）

明治七年九月二十三日
工部省第二號布達

各府縣管下電信線路ノ内私有地ヘ電信柱建置ノ分ハ地位ニ應シ地方官ノ見込ニ任セ一箇所ニ付二坪ト看做シ一箇年金八錢ヨリ多カラサル手當金下渡候最モ一年ニ滿タサル分ハ六箇月以上全數六箇月未滿半數ノ積ヲ以テ別紙雛形ニ照準シ詳細取調當省ヘ可申出此旨相達候事

但シ東海道長崎迄ノ線路ハ明治五年ヨリ可下渡候條本年迄毎一年ニ區別シ調書差出明治八年ヨリハ年々十一月限リ可差出事

（別紙省略）

○電線路亘長計算方ノ件

明治四十三年二月九日
公報注意

電線路ノ亘長ハ左記各項ニ依リ計算スルヲ要ス

一、架空線路（隧道又ハ橋梁ニ取附タル線路ヲ除ク）ハ柱間距離（「スパンホール」ヲ用ヒタル個所ニ在テハ本柱相互ノ距離、隧道又ハ橋梁ニ取附タル個所ハ隧道又ハ橋梁トノ距離、隧道ト他ノ隧道、橋梁ト他ノ橋梁、若クハ隧道ト橋梁トノ間ニ柱ヲ用ヒスシテ直接取附タル個所ハ各其距離ヲ云フ以下總テ同シ）ニ依ル

二、隧道又ハ橋梁ニ取附タル架空線路ハ隧道又ハ橋梁ノ各實長ニ依ル
三、地下線路、水底線路、及導電軌條ハ「ケーブル」ノ鎧裝又ハ軌條ノ各實長ニ依ル
四、柱間距離ハ地際ニ於ル柱心（隧道又ハ橋梁ハ其端）ヨリ直線距離ニ依ル
五、前各項ニ依ル計算ノ單位ハ尺ニ止メ其以下ハ四捨五入ス
六、電線路臺帳ノ一口座ヨリ短キ區間ノ亘長ハ第一項第二項ノ長サノ累計ニ依ル
七、電線路臺帳ノ一口座ノ亘長ニ尺位ヲ有スル場合ハ三尺以上ハ間ニ切上ケ二尺以下ハ切捨ツ
八、電線路臺帳ノ一口座ヨリ長キ區間ノ亘長ハ第六項第七項ノ長サノ累計ニ依ル

○電氣報告例

明治四十一年十二月二十二日　改正明治四十二年五月　同四十三年五月
逓第六一號　逓第四五一號　逓第四三二號

第一條　電氣ニ關スル成績、狀況竝ニ事故ハ別ニ定ムルモノノ外本例ニ依リ報告スヘシ
第二條　報告ハ一事項毎ニ調製シ上部又ハ右傍餘白ニ報告名、差出年月日、差出局所長名及宛名ヲ記入シ發送スヘシ
第三條　例目中特ニ樣式ヲ示ササルモノハ適宜之ヲ調製スヘシ
第四條　例目中特ニ提出ノ時日ヲ示ササルモノハ左ノ期日内ニ發送スヘシ

一　卽報　卽日（電報ヲ用ユルモノハ卽時）
二　日報　翌日
三　旬報　翌旬三ノ日
四　月報　翌月十日
五　季報　一、四、七、十月ノ各十五日
六　半年報　曆年ニ依ルモノハ次ノ半年ノ初月末日
　　年度ニ依ルモノハ次ノ半年度ノ初月末日
七　年報　曆年ニ依ルモノハ翌年初月末日
　　年度ニ依ルモノハ翌年度初月末日

第五條　前條第二號乃至第七號ノ報告ハ該當ノ事實ナキ場合ニ在テモ尙其旨ヲ報告スヘシ
第六條　管理局又ハ出張所、建設事務所以外ヨリ提出スル報告ハ卽報ニ在テハ同時ニ所管局所ニモ提出シ其他ハ之ヲ經由スヘシ

附　則

第七條　本例ハ卽報ヲ除クノ外明治四十一年十二月四日以降現存又ハ發生ノ事實ニ適用ス但左ニ記載スルモノハ特ニ各其項ノ定ムル所ニ依ルヘシ

一月報（毎月一回線別通信數報告ヲ除ク）十二月一日以降ノ數ヲ調査記入スヘシ
一半年報　十二月末日現況ヲ調査スヘキモノハ此際特ニ四十二年三月末日ノ現況ヲ調査記入シ又半年度ノ成績ヲ調査スヘキモノハ特ニ四十一年度下半季ノ事實ヲ調査記入スヘシ
一年報　通信機修理數報告ニ限リ特ニ四十一年度ノ數ヲ調査記入スヘシ
第八條　從來提出セル報告ニシテ例目ニ該當スルモノハ當分從來ノ樣式ニ依ルヘシ

電氣報告例目

報告種別	報告名	差出局所名	樣式記事
卽報	通信又ハ送電障碍（管理局所）	電報局	（通信信號又ハ送電回線ニ故障ヲ生シ同時ニ多數ノ通信信號不能トナルカ又ハ大部ノ送電ヲ停止スルカ若クハ長時間恢復ノ見込ナキトキ及其故障ノ恢復シタルトキ若シ被害アレハ大要ヲ附記スヘシ本報告ハ東部中部ニ限リ書面ヲ用フヘシ）
同	恢復報告（管理局所）	電報局	（開廢、設定、變更ノ部度（但總裁ノ承認ヲ得タルモノハ其承認番號ヲ記入ノコト）
同	電信取扱所開廢及取扱事項設定變更報告（管理局所）	電報局	
月報	發電變壓成績報告（管理局所）	電報局	
同	電車成績報告（管理局所）	二號所	
同	取扱電報數報告（管理局所）	三號所	
		四號所	

同	報	繼送驛相互間電報數報告	（出張）	管理局五號所
同	同	通信送電障碍度數報告	（管理出張）	管理局六號所
季	報	電氣設備概況報告	管理	管理局七號所
年	報	電線路現況報告（年度末現在）	（管理出張）	管理局八號所
同	同	通信回線現況報告（年度末現在）	（管理出張）	管理局十號所
同	同	電燈及電動機設備現況報告（年度末現在）	（管理出張）	管理局十一號所
同	同	電車現況報告（年度末現在）	（管理出張）	管理局所
同	同	列車電燈現況報告（年度末現在）	（管理出張）	管理局十二號所
同	同	列車電燈成績報告（年度）	（出張）	管理局十三號所
同	同	通信信號機竝電池數現在報告（年度末現在）	（管理出張）	管理局十四號所
同	同	通信信號機修理數報告（年度）	（管理出張）	管理局十五號所

七月末ヲ第一季十月末ヲ第二季十二月末ヲ第三季トシ調査スヘシ三月末第四季ハ提出ヲ要セス

運轉車數
豫備車數

月中發電所成績報告

（樣式第二號）

發電（變壓）所（工場）名	發電總量 K.W.H.	最大發電（變壓）量 K.W.H.	一日平均變壓所へ送電總量 K.W.H.	一日平均汽罐使用延時間	石炭	瓦斯用汽量	遊動員	所要シタル費用			修繕費	合計	一ツリキロ時當用	備考
								發電又ハ變壓ニ要シタル費用						
								燃料費	油脂費	其他				
					斤	ポンド	回數							

三 製 替川鉄

第　　號　　明治　年　月　日

鐵道院總裁殿　　管理局(出張所)長

明治　年　月中電車成績報告

(樣式第三號)

電車庫名	走行延哩數	所要電量 自營供給 K.W.H.	所要電量 購入 K.W.H.	所要電量 計 K.W.H.	走行延哩當リ電量	電機修理破損件數	所要費額 電車ノ運轉ニ要シタル費用 電力ニ要シタル費用 自營電力費用	購入電力料	計	其他	合計	修繕費	總計	當走行延哩費用	使用車數一日平均

(美濃全紙大、紙質適宜)

(電機破損修理明細表)

電車番號	摘要	電車番號	摘要

調製差立心得

自營供給電量ニ對スル發電變壓費用ハ相當欄ニ朱書シ計及合計ニハ之ヲ加算墨書スヘシ
電機破損修理件數及其明細表ニハ輕易ナル小修理ヲ揭記スルニ及ハス
電力ニ要シタル費用ハ當月分所要電量ニ對スル費額ヲ記入スヘシ
走行延哩當費用ハ合計金額ニテ算出スヘシ
修繕費ハ電線路其他一切ノ修繕ニ要シタル費用(發電變壓成績報告ニ計上シタルモノハ除ク)ヲ揭ケ電線路ニ要シタル費用ハ更ニ之ヲ同欄內ニ朱書再揭スヘシ
電機破損修理件數及其明細表ハ九月分及三月分ノ報告書ニ中ニ半ケ年分ヲ取纏メ揭載シ每月ノ揭載ヲ省略スルコトヲ得此場合ニハ其旨ヲ備考トシテ附記スヘシ
走行延哩數ハ換算車輛走行哩數ヲ揭ケ試運轉其他營業以外ニ走行シタル哩數ヲ朱書再揭スヘシ

第　　號　　明治　年　月　日

鐵道院總裁殿　　管理局(出張所)長

明治　年　月日中取扱電報數報告

(樣式第四號)

區間	電報取扱所數 總數	電報取扱所數 取扱驛所數	電報送受機械 總數	電報送受機械 內公衆電報	用受送報機械座數 內公衆電報		鐵道電報通數 發信	著信	中繼信	合計	公衆電報通數 發信	著信	中繼信	合計	總計
			電信	電話	電信	電話									
計															

(美濃半截大、紙質適宜)

調製差立心得

區間ニ據ルヘシ區間ノ稱名ハ鐵道線路名稱ノ區間ニ準スヘシ
電報取扱驛所數及電報送受用機械座數ハ月末現在ヲ記入スヘシ
中繼信ノ通數ハ送信受信各壹通トシテ計算スヘシ

三 製 替川鉄

第三章 雜 則　　二百六十六

第　　號　　明治　　年　　月　　日

鐵道院總裁殿　　管理局(出張所)長

明治　　年　　月十五日取扱繼送驛相互間電報數報告

(樣式第五號)　(美濃半截大、紙質適宜)

繼送驛名	對手繼送驛名	使用機械數		電報通數		繼送驛名	對手繼送驛名	使用機械數		電報通數	
		單信	二重	送信	受信			單信	二重	送信	受信

調製差立心得　本報告ハ毎月第十五日　　ニ取扱タル直通繼送驛相互間ニ於ケル電報數ヲ調査記入スヘシ
使用機械數ノ欄ニハ當該繼送驛カ當日對手繼送驛ニ對シ使用シタル機械ノ座數ヲ掲クヘシ
發著中繼ニ拘ハラス送信シタルモノハ送信ノ部ニ受信シタルモノハ受信ノ部ニ掲クヘシ
公衆電報通數ハ相當欄ニ朱書再掲スヘシ

第　　號　　明治　　年　　月　　日

鐵道院總裁殿　　管理局(出張所)長

明治　　年　　月中通信/送電障碍度數報告

(樣式第六號)　(美濃半截大、紙質適宜)

區間	電信回線(送電線)				電話回線(高壓配電線又ハ饋電線)				信號回線(低壓配電線又ハ電車線)			
	斷線	混線	地氣	其他	斷線	混線	地氣	其他	斷線	混線	地氣	其他

調製差立心得　本報告ニハ一ケ月中發生シタル各障碍ヲ無漏掲クヘシ
通信、送電ノ障碍ハ各別ニ調製スヘシ
區間ハ通信區又ハ各電力供給區域毎ニ之ヲ區別スヘシ

縦四寸 横二寸 別紙書留

第　　號　　明治　年　月　日

鐵道院總裁殿　　管理局長

明治　年　月末電氣設備概況報告

（様式第七號）　（美濃全紙大、紙質適宜）

電報取扱驛所數		電氣通信線路		通信信號機裝置個數			
總數	同上公衆電報取扱驛所數	亘長	線條延長	電信機	電話機 總數	電話機 同上中電報取扱機數	閉塞機

電力供給機器								電力使用機器					
發電機		電動機		變流機		變壓器		電動機		電燈 白熱燈		弧光燈	
個數	總容量	個數	總容量	個數	總容量	個數	總容量	個數	總容量	實個數	十燭光換算個數	實個數	總アムペア數
	K.W.		H.P.		K.W.		K.V.A.		H.P.				

列車電燈裝置車輛數				列車電燈用發電機數				列車電燈用蓄電池數					
發電機式		蓄電池式		ストーン式		其他		ストーン式		蓄電池式		其他	
總數	定時列車用	總數	定時列車用	總數	定時列車用	總數	定時列車用	總數	定時列車用	總數	定時列車用	總數	定時列車用

第　　號　　明治　年　月　日

鐵道院總裁殿　　管理局（所）長（出張）

明治　年末日電線路現況報告

（様式第八號ノ一）　（美濃全紙大、紙質適宜）

區間	電柱 電柱 本柱	電柱 電柱 副柱	電柱 支持物 柱	電柱 支持物 線	線條 亘長	線條 延長	線條 分岐點	線條 引込	腕木（金）	碍子	記事
	本	本	本	本	間	間	ケ所	ケ所	本	個	

調製差立心得

橋脚ニ取附タル鐵、木柱ノ如キモノモ總テ本柱トシテ掲ケ且其數ヲ朱書再掲スヘシ

副柱ノ欄ニハ「スパンポール」ヲ掲クヘシ

「ブラケツト」ハ腕木（金）ノ欄ニ合算記入シ且其數ヲ朱書再掲スヘシ

本報告ニハ柱種柱齢別木柱數、線種別延長ノ二調書及線路圖ヲ添付スヘシ

通信線路（電信、電話、信號ヲ含ム）ト電力線路（電燈、電力、電車ヲ含ム）トハ各別ニ調製シ通信線路ノ區間ハ鐵道線路ノ名稱區間毎ニ電力線路ノ區間ハ一電力供給區域毎ニ區別掲載スヘシ

本報告ニ於テ線條ト稱スルハ地下線（地中板ヲ接續スル線ヲ除ク）水底線及兩電柱間ニ架渉セル架空線ニ限ル

縦四寸 横二寸 別紙書留

區間

柱種柱齡別木柱數

（樣式第八號ノ二）

（美濃半截大、紙質適宜）

建柱年別	電柱				支柱		合計	記事
	本柱		副柱					
	注入	不注入	注入	不注入	注入	不注入		

調製差立心得　本表ハ一區間毎ニ一葉調製スヘシ

既往建植ニ係ル電柱ニシテ建柱年ノ不明ナルモノハ建柱年別ノ欄ニ不明ト記シ其數ヲ揭クヘシ

線種別延長

（樣式第八號ノ三）

（美濃半截大、紙質適宜）

線條種別	區間別延長						
							計

調製差立心得　「ケーブル」ノ外裝ノ種類ニ依リ各其長ヲ朱書シ且心線延長ヲ墨書スヘシ

電力線ノ線條區別ニハ特別高壓、高壓、低壓ノ區別ヲ爲シ及被覆並「ワイヤゲージ」ヲモ區別スヘシ

第　　號　　明治　年　月　日

鐵道院總裁殿　　管理局(出張所)長

明治　年末日通信回線現況報告

(樣式第十號)

		單用回線								併用回線								合計	
		電信回線		電話回線		信號回線		計		電信回線		電話回線		信號回線		計			
		回線數	總延長	回線數	總延長	回線數	總延長	回線數	總延長	回線數	總延長	回線數	總延長	回線數	總延長	回線數	總延長	回線數	總延長
開電路式	單線									—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	複線									—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計																		
閉電路式	單線									—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	複線									—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計																		
合計																			

備考

(美濃全紙大、紙質適宜)

調製差立心得　本報告ニ第一種ニ別尙シ添附ヲ要スル圖面其各ヶ所ノ區別ヲ(ス)ル單線複線ノ線回數(併用)ノ數ヲ第五種ニ告ヘシ

第四種乃至第十種ニ別尙シ添附ヲ要スル圖面ニ線回種別ヲ揭ケヘシ

第　　號　　明治　年　月　日

鐵道院總裁殿　　管理局長

明治　年度末日電燈及電動機設備現況報告

(樣式第十一號)

設備場所	燭(馬)力	燈(機)數							料金		供給者
		終夜	半夜	晝夜	晝間	從量		計	一燈(機)ニ對スル月額	一「キロワット」時ニ對スル單價	

(美濃半截大、紙質適宜)

調製差立心得　設備場所一個所毎ニ小計ヲ爲スヘシ

電動機ハ發電又ハ變電ノ目的ニ使用スルモノノ外總テ之ヲ揭クヘシ

「カーボンヒラメントランプ」以外ノ「ランプ」ハ燭力欄ニ其種類ヲ肩書シ各別ニ之ヲ揭クヘシ

第　　號　　明治　　年　　月　　日

鐵道院總裁殿　　管理局(出張所)長

明治　　年　　末日列車電燈現況報告

(樣式第十二號)　(美濃半截大、紙質適宜)

	車輛數 電燈取附	電燈數 車內取附	電扇數 車內取附	發電機種別 芝浦製舊型	ストン製舊型	同 CR型	同 D型			計	蓄電池種別 三百ヤンペ時	一百ヤンペ時	七十五ヤンペ時				計	蓄電車
現用																		
豫備																		
計																		

(上欄中車輛數、燈數、扇數、車種別再揭)

車種別	車輛數	電燈數	電扇數	車種別	車輛數	電燈數	電扇數	車種別	車輛數	電燈數	電扇數

調製差立心得　車輛數、燈數、扇數、車種別再揭ハ取附電燈數又ハ電扇數ノ異ル毎ニ之ヲ區別シ其車輛數ヲ揭載スヘシ

第　　號　　明治　　年　　月　　日

鐵道院總裁殿　　管理局(出張所)長

明治　　年度列車電燈成績報告

(樣式第十三號)　(美濃半截大、紙質適宜)

破損個所種別件數								計	所要費額 充電用電力費 自營	購入	計	其他	合計	使用延燭光時數	一燭光一時間ニ對スル費用

調製差立心得　充電用電力ヲ購入シタルモノハ其價格ヲ相當欄ニ墨書シ自營發電所ニテ充電シタルモノハ其充電量ニ對スル發電費ヲ相當欄ニ朱書シ計及合計ノ欄ニハ朱書ノ金額ヲモ合算墨書シ一燭光一時間當費用ハ合計ノ金額ニ依リ算出スヘシ

第　　號

明治　年　月　日

鐵道院總裁殿

管理局(出張所)長

明治　年度末日通信、信號機竝電池數現在報告

(様式第十四號ノ一)

機械器具竝電池名	用途別個數									
	通信信號用		試驗用		養成用		合計			
	現用	豫備	現用	豫備	現用	豫備	現用	豫備		

(美濃半截大、紙質適宜)

調製差立心得

機械器竝電池ハ(蓄電池ヲ含ム)各種類ノ名稱ニ依リ細別掲載スヘシ

組立ヲ爲シタルモノハ式又ハ型ノ稱呼ヲ冠シ(異リタル式又ハ型ノ部分品ヲ組合セタルモノハ雜トスルコト)各別ニ之ヲ掲載シ組立ヲ爲ササルモノハ部分品トシ各別ニ(式又ハ型ノ稱呼アルモノハ其稱呼ヲ冠シ細別スルコト)之ヲ掲載スヘシ

本報告ニハ通信信號用電池數ノ內譯調表ヲ添附スヘシ

通信、信號用電池數內譯

(様式第十四號ノ二)

電池名	電信用	電話用	信號用	計

(美濃半截大、紙質適宜)

調製差立心得

スヘシ

式又ハ型ノ稱呼ヲ冠シ各別ニ之ヲ掲載シ同シ一ノ式又ハ型ニシテ容量ヲ異ニスルモノハ各容量毎ニ細別ヲ要ス

（様式第十五號）

明治　年度通信、信號機械修理數報告

明治　年　月　日
管理局（出張所）長

機械名	破損ヲ生シタル原因別修理個數												計	調製差立心得
	落雷		取扱上ノ不注意		自然破損									
														本報告ニハ修理工場ニ回附シ修理ヲ加ヘタルモノノミヲ掲グヘシ 機械名ハ部分品毎ニ區別シ（式又ハ型ノ稱呼アルモノハ其稱呼ヲ冠シ細別スルコト）之ヲ掲記スヘシ

（摘要ニハ事故ノ大小、緩急適宜ヲ記ス）

○電氣報告例ニ依ル報告調製方ノ件

明治四十三年一月十日
公報注意

一　様式第三號
走行延哩數ハ鐵道線路名稱ノ區間毎ニ區別シ所要電量以下ハ合算掲載スルコト

一　様式第四號
調製差立心得中ノ鐵道線路毎トアルハ鐵道線路名稱ノ區間毎ト解釋スルコト

一　様式第八號
通信線路ノ區間ハ總テ鐵道線路名稱ノ區間ニ依ルコト
線條種別欄ニハ被覆竝「ワイヤーゲージ」ヲモ種別記入スルコト

一　様式第十一號
車輛數、燈數、扇數車種別再掲ハ取付電燈數又ハ電扇數ノ異ル毎ニ之ヲ區別シ其車輛數ヲ掲載スルコト

一　様式第十四號
機械器具竝電池名ハ組立ヲナシタルモノハ式又ハ型ノ稱呼ヲ冠シ（異リタル式又ハ型ノ部分品ヲ組合セタルモノハ雜トスルコト）各別ニ之ヲ掲載シ組立ヲナササルモノハ部分品トシテ各別ニ（式又ハ型ノ稱呼アルモノハ其稱呼ヲ冠シ細別スルコト）之ヲ掲載スルコト

一　様式第十五號
機械名ハ部分品名毎ニ區別シ（式又ハ型ノ稱呼アルモノハ其稱呼ヲ冠シ細別スルコト）之ヲ掲載スルコト

○電氣報告例其他ニ據ル報告調製竝省略方ノ件

明治四十三年十一月十九日
公報注意

一　電信取扱所開廢及取扱事項設定變更報告
一　試驗驛及試驗區域設定變更報告
右二報告ハ其報告スヘキ事項ヲ局報ニ掲載シタル場合ニ限リ提出ヲ要セス
一　電氣ニ關スル工事成績報告
様式第七號ノ調製差立心得末項ニ據ル工程調表ニハ設計豫算ノ決裁ヲ經テ施行スル工事ニ限リ工事件名別ニ之ヲ掲載シ其他ハ總テ記入ニ及ハス
一　電線路現況報告
前年度末ノ現況ニ比シ全然異動ナキ區間ニ限リ其旨ヲ記事欄ニ記入シテ掲載ヲ省略スルコトヲ得添附ニ調書竝線路圖亦同シ

尙前年度末ニ於テ一區間ヲ數葉ニ分割シタル線路圖ヲ調製提出セル局所ニ在テハ其分割圖中全然異動ヲ生セサリシ部分ニ對スル分ヲモ省略スルコトヲ得

○電線路現況報告調製方ノ件　明治四十四年三月二十日　公報注意

本年達第一一二號ノ結果電力線路ノ屋內幹線ヲ線條數量ニ加算スル事トナリタルニ付テハ現況報告ノ數量ニモ亦之ヲ加算スルヲ要ス

○電線路臺帳其他整理保存ノ件　明治四十二年七月二十八日　達第六六一號　改正　明治四十四年二月　達第一一二號

管理局、鐵道院出張所ハ電線路臺帳、電機竝附屬機械臺帳及電線路圖ヲ設備シ左記各項ニ依リ整理保存スヘシ

本達ニ牴觸スル從前ノ達示ハ廢止ス

電線路臺帳

一　電線路臺帳ニハ左ノ事項ヲ登記スヘシ但必要アルトキハ適宜登記事項ヲ增加スルコトヲ得

電柱　（本柱數「本」、副柱數「本」）
支柱　「本」
支線　「本」
線條　（屋內ハ延長「間」其他ハ亘長「間」、延長「間」）
導電軌條　（亘長「間」、延長「間」）
腕木　「本」
ブラケット　「本」
ボンド　「本」
碍子　「個」

二　電線路臺帳ハ通信線路（電信、電話、信號ヲ含ム）ト電力線路（電燈、電力、電車ヲ含ム）トヲ別冊ニ調製スヘシ

三　通信線路ノ臺帳ハ二驛間（分岐點ニ於テ新ニ電柱番號ヲ附シタル場所ハ其番號ノ改マル每ニ）ヲ一口座トシ地下線水底線ニ限リ一個所每ニ別ノ口座ヲ設クヘシ

四　電力線路ノ臺帳ハ一電力供給區域每ニ一口座ヲ設クヘシ但其線路長距離ニ亘ル場所ニ在テハ通信線路ノ例ニ倣ヒ之ヲ細分シテ口座ヲ設クルコトヲ得

五　電柱、支柱、支線ノ記帳方ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　電柱、支柱ハ木柱ト鐵柱トヲ區別スヘシ

一　「スパンポール」ノ一方ニ饋電線ヲ架シタルモノハ之ヲ本柱トシ他ヲ副柱トス双方共ニ饋電線ヲ架セサルモノハ適宜其一方ヲ本柱他ヲ副柱ト定メテ計算スヘシ

一　A柱、H柱及、ケーブルヘット」變壓器等ヲ載スル組合セ柱ノ類ハ總テ電柱一本トシテ計算スヘシ

一　電柱ノ代用トシテ橋脚又ハ家屋ニ取付ケタル電線支持物（引込線ヲ支持スル爲ニ家屋ニ取附タル「ブラツケット」ノ類ハ除ク）ハ鐵製木製ノ區別ニ從ヒ各之ヲ電柱ニ通算スヘシ但其數ハ之ヲ內譯再揭スルヲ要ス

一　「ホリゾンタルステー」「マーチンゲール」ハ支線一本トシテ計算スヘシ

六　線條ノ記帳方ハ左ノ各號ニ依ルヘシ

一　地中板ヲ接續スル地下線竝兩電柱（電柱代用物ヲ含ム）間ニ架渉セサル架空線（引込線ノ類）若クハ屋內線ニシテ電力線路ノ幹線ニアラサルモノハ之ヲ線條中ヨリ除外スヘシ

一　「ケーブル」ノ延長ハ心線ノ長サニ據ル但鎧裝延長ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ區別スヘシ

七　專用導電軌條ト普通軌條ヲ兼用セル導電軌條トハ之ヲ內譯再揭スルヲ要ス

八　金屬製腕木ハ之ヲ腕木ニ通算スヘシ但其數ハ之ヲ內譯再揭スルヲ要ス

九　通信線路ニ添架シタル電力線又ハ電力線路ニ添架シタル通信線ハ別ニ口座ヲ設ケテ電柱支柱支線ノ外各事項ヲ登記スヘシ此場合ニ於テハ添架ヲ爲サシメタル線路ノ臺帳ニハ單ニ異種類線ノ添架アルコトヲ備考トシテ附記スヘシ

院用線ヲ院外ノ線路ニ添架シタルモノモ亦本項ノ例ニ依ル

十　院用線路ニ添架セシメタル院外線ハ別ニ一口座ヲ設ケテ必要ノ事項ヲ登記シ添架ノ區間ニ對スル本線路ノ口座ニハ單ニ院外線ノ添架アルコトヲ備考トシテ附記スヘシ

十一　線路ニ異動ヲ生シタルトキハ減ヲ朱書シ增ヲ墨書シ一異動毎ニ現在ヲ示シ尙記事欄ニ其摘要ヲ記スヘシ

電機竝附屬機械臺帳

十二　電機竝附屬機械臺帳ハ一種類毎ニ一口座ヲ設ケ機械（工場專屬ノモノヲ除ク）一基毎ニ左ノ事項ヲ登記スヘシ但必要アルトキハ適宜登記事項ヲ增加スルコトヲ得

一　發電機

電流ノ區別、（交流式ニ在テハ周波度數、相ノ區別、多相式ニ在テハ結線法）電壓、容量、勵磁法、磁極數、回轉數、製造者名、運轉開始年月日（勵磁用ノ分ハ其旨ヲ附記スヘシ）

一　變流機

交流ノ電壓、相ノ區別、周波度數、結線法、容量、勵磁法、磁極數、回轉數、製造者名、運轉開始年月日

一　電動機

發電機ニ倣フ

一　變壓機

容量、一次及二次回線ノ電壓、相ノ區別、周波度數、結線法及構造ノ大要、製造者名、使用開始年月日（柱上用ノ分ハ其旨ヲ附記スヘシ）

一　汽機（瓦斯發動機、石油發動機）

種類、規定馬力數、同回轉數、速度調整器ノ種類、發電機連結法、製造者名、運轉開始年月日

一　汽鑵

種類、加熱面積、火爐面積、常用汽壓、製造者名、使用開始年月日

一　水車

種類、規定馬力數、同一分時間流水量、同回轉數、同落差、速度調整器ノ種類、發電機連結法、製造者名、運轉開始年月日

一　配電盤

附屬器具ノ名稱

十三　各機械ニハ其据付場所竝現用若クハ豫備タルコトヲ示スヘシ

電線路圖

十四　電線路圖ハ左記各號ニ依リ電線路臺帳ノ一口座毎ニ調製シ參照番號ヲ附スヘシ

一　鐵道線路ニ沿フ電線路ハ軌道ノ位置ヲ示シテ其關係ヲ明カナラシムヘシ

一　架空線、地下線、水底線、補助線、第三軌條、第四軌條ハ各異ナル記號ヲ用ヒテ示シ且架空線路ノ幹線ト枝線トハ太サニ依リテ之ヲ區別シ凡例ヲ示スヘシ

一　左記ノ電柱ハ圖上ニ其所在ヲ示シ且各其柱番號ヲ附スヘシ

極　柱
分　線　柱
引　込　柱
架空線ト地下線又ハ水底線トノ接續スル柱
橋脚ニ取付タル電線支持物ニ架線シ若クハ電線路隧道内ヲ通過セル場所ニ在テハ橋梁又ハ隧道ノ掛リ口ト離レ口トノ柱
電車線路ニ在テハ「センターポール」ヨリ「サイドポール」ニ移ル接續ノ各柱
電車線路以外ノ線路（引込分線ヲ除ク）ニ在テハ軌道ヲ跨リテ架線シタル柱

一　極柱、分線柱、「サイドポール」、「センターポール」其他一般ノ柱及橋脚取附電線支持物ヲ圖示スルニハ各異リタル記號ヲ用ヒ凡例ヲ示スヘシ

一「ケーブル、ヘッド」、「マンホール」、「ジョイントボックス」ノ位置ハ記號ヲ以テ之ヲ圖示シ凡例ヲ設クヘシ

一　圖示セラレタル架空線路ノ柱ト柱トノ間又ハ地下線水底線ニハ其線條ノ一傍ニ亘長ヲ他ノ一傍ニ架設埋設又ハ沈設ノ線條數（「ケーブル」ハ何心入何條）ヲ示シ引込線ニハ單ニ條數ノミヲ示スヘシ

十五　電線路圖ニハ餘白ニ亘長延長ノ各合計ヲ幹線枝線ニ區別シテ記載スヘシ

十六　第十項及第十一項ニ依リ電線路臺帳ニ備考ヲ附記シタルモノハ該當線路圖ノ餘白ニモ亦備考トシテ之ヲ附記スヘシ

十七　電線路ニ異動ヲ生シタルトキハ電線路臺帳ヲ訂正スルト同時ニ線路圖ヲ訂正スヘシ

○電氣通信回線票設備竝回線登記ニ關スル件　明治四十三年五月十七日逢第四一六號

管理局、出張所、建設事務所ハ電氣通信回線票（以下回線票ト稱ス）ヲ設備シ左記各項ニ據リ其所管ノ電氣通信回線（以下回線ト稱ス）ヲ登記スヘシ

但シ（消滅）

一　回線票ハ一回線毎ニ一葉トシ別紙樣式ニ據リ調製シ左記區別ニ從ヒ各整理番號ヲ附スヘシ

但シ一交換機ニ屬スル各回線ノ回線票ニハ同一ノ整理番號ヲ附シ更ニ順序番號ヲ加ヘ（例ヘハ「何號ノ一」「何號ノ二」ノ如シ）兩交換機ヲ接續スル中繼回線ノ回線票ニハ各單獨ニ整理番號ヲ附スヘシ

第一種　記號「信」（私設電信規則第四條ノ許可又ハ同第八條ノ屆出ヲ要スル電信回線但シ第三種ニ屬スルモノヲ除ク）

第二種　同「話」　同上電話回線但シ第三種ニ屬スルモノヲ除ク

第三種　同「交」　同上交換機ニ屬スル回線及兩交換機ヲ接續スル中繼回線

第四種　同「號」　同上信號回線

第五種　同「雜」　前記以外ノ各回線

二　回線票ハ回線ニ關スル工事竣成ノ都度遲滯ナク之ヲ加除訂正スヘシ

三　併用回線ノ各回線票ニハ孰レモ記事欄内ニ其關係回線名竝併用ニ係ル區間ヲ附記シ且其亘長延長ハ之ヲ單立セル回線ト看做シテ計算シ而シテ其併用ニ係ル部分ヲ相當欄ニ朱書再揭スヘシ

四　他管内ニ跨ル回線ノ回線票中所管外ニ屬スル事項ヲ登記スル場合ハ都テ之ヲ朱書スヘシ

五　第一種乃至第四種ノ回線票ヲ調製シ若クハ之ヲ訂正シタルトキハ左ニ該當スル場合ヲ除クノ外同時ニ副本ヲ作製シテ之ヲ本院電氣課ニ送付シ尚私設電信規則第八條ノ屆出ヲ要スルモノニ在テハ之ニ回線圖ヲ添付スヘシ

一　電池ノミノ異動ニ止マル場合

二　朱書シタル所管外ノ事項ノミノ異動ニ止マル場合

六　前項ノ副本ヲ送付スル場合ハ左記樣式ニ據ル送付書ヲ添附スヘシ

（樣　式）

第　　號、、、、適宜ノ記號ヲ附シ特殊ノ番號ヲ追フヘシ

明治　　年　　月　　日　　局　所　名

新調票番號	引換票番號	廢除票番號	記事
信　一六二			
	信　三五		
	信　三七		
		信　五六	
		話　二七	新橋國府津線、國府津沼津線ヲ併合シテ新橋沼津線トス
			金谷大井川砂取場間電話回線ヲ撤廢ス
			新橋橫須賀線ヲ大船ニテ切斷シ新橋大船線トナシ大船橫須賀間ノ線ヲ藤澤ニ延長シ藤澤橫須賀線トス

備考　前記ノ結果トシテ信五六號話二七號ハ缺號トナル

回線票様式ハ關係局所ニノミ別ニ之ヲ頒ツ

本達ハ明治四十三年七月一日ヨリ施行ス現在回線ニ對スル回線票ハ同日迄ニ之ヲ調製シ且其副本ヲ本院電氣課ニ送付スヘシ但シ第六項ニ依ル送付書ノ添付ヲ要セス

（回線票様式）

（表）

| 整理番號 | | 回線名 | | 線 | | 線 | | 線

○電氣通信回線票記入方ノ件　明治四十三年六月八日　鐵電第七一三號電氣課長通牒

電氣通信回線票記入方ニ關シテハ客月達第四一六號ノ外左記各項御參酌相成度

一表面（回線名ヲ記ス面ヲ云フ）上部欄外左傍整理番號ノ處ニハ「信」「話」等ノ信號及番號ヲ記入シ其下ノ所管ノ處ニハ「中部」「九州」等局所名ヲ略記スルコト

二同上右傍線ノ處ニハ「架空線」若ハ「地下線」等ノ區別ヲ又其下ノ線電路式ノ處ニハ「單線閉電路式」若ハ「複線開電路式」等ノ區別ヲ記入スルコト

三表面左傍欄外承認番號ノ處ニハ當課ヨリ遞信大臣承認ノ通牒ヲ爲シタル月日及番號ヲ記入スルコト

但シ建設事務所所管ノ回線ニハ本項記入ヲ要セス

四表面機械種別裝置場所ノ欄中太キ線ニテ劃シタル三個ノ空欄ニハ「音響」「現字」等機械ノ種別ヲ記入シ其種別ニ從ヒ機械裝置驛所名ヲ順序ニ列記シ他所管ニ跨ル回線ニシテ所管別ノ驛所名ヲ記入スル必要アル場合ハ之ヲ朱記スルコト（但シ本院ニ提出スル副本ニハ所管外ノ驛所ヲ記入セサルコト）尚私設電信規則第八條但書ニ該當ノ回線ナルトキハ該回線ニ於テ公衆報ヲ送受スヘキ驛所名ノ肩ニ小サク「〒」ノ記入ヲ朱記スルコト

五同上所管別ノ欄ニハ其左端ノ一廓内ニ自局所名ヲ略記シテ夫々亘長延長ヲ記入シ他所管ニ跨ル回線ニシテ所管別ノ驛所名ヲ記入スル必要アル場合ハ之ヲ朱記スルコト（但シ本院ニ提出スル副本ニハ所管外ノ驛所ヲ記入セサルコト）尚私設電信規則第八條但書ニ該當ノ回線ナルトキハ該回線ニ於テ公衆報ヲ送受スヘキ驛所名ノ肩ニ小サク「〒」ノ記入ヲ朱記スルコト

六同上線條種別延長ノ欄中太キ線ニテ劃シタル三個ノ空欄ニハ「鐵八番」「銅十六番」等ノ如ク線條種別ヲ記入シ其種別ニ從ヒ夫々延長ヲ摘記スルコト

七同上試驗引込驛所名ノ處ニハ當該回線ノ引込（機械ヲ裝置セサル）驛所名ヲ順序ニ記入シ他所管ニ跨ル回線ニシテ所管外ノ驛所名ヲ記入スル必要アル場合ハ之ヲ朱書スルコト

但シ本院ニ提出スル副本ニハ所管外驛所名ヲ記入セサルコト

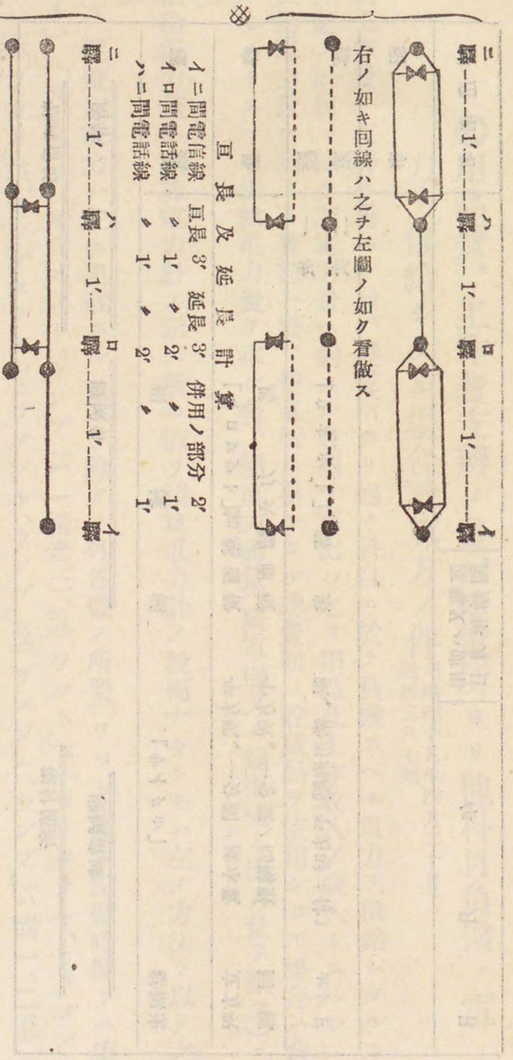
八裏面ニハ必要ニ應シ適宜ノ記入ヲ爲スコト

但シ本院ニ提出スル副本ニハ達第四一六號第三項ニ據ル併用線ノ記事ノ外一切記入セサルコト

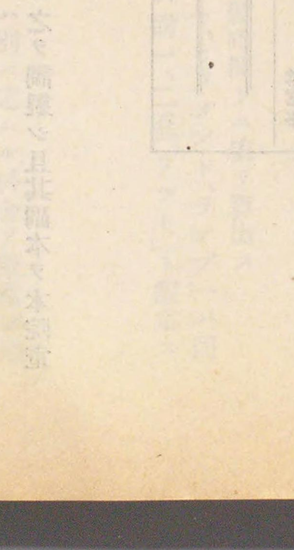
○併用回線ノ回線票記入方ノ件　明治四十三年五月二十日　公報注意

併用回線ノ各回線票ニ於ケル亘長、延長ニ關シ達第四一六號ノ第三項ニ單立セル回線ト看做シテ計算シ云々トアルハ左ノ例ニ據ルモノトス

例一



例二



イニ間電信線　亘長 3′　延長 3′　併用ノ部分 1′
ロハ間電話線　〃 1′　〃 2′　〃 2′
ロニ間電信線　〃 2′　〃 2′　〃 1′

○電機竝附屬機械臺帳整理ニ關スル件　明治四十三年五月十七日　達第四一七號

明治四十二年七月達第六六一號ノ電機竝附屬機械臺帳ハ別紙樣式ノ「カード」ヲ用ヒ左記各項ニ據リ之ヲ整理

スヘシ

一　「カード」ハ機械一臺毎ニ一葉トシ各種ノ機械ヲ通シテ整理番號ヲ附スヘシ

二　機械ノ据附、撤去又ハ變更ニ關スル工事竣成シタルトキハ遲滯ナク「カード」ヲ加除訂正スヘシ

三　「カード」ヲ調製シ若クハ之ヲ訂正シタルトキハ同時ニ副本ヲ作製シテ之ヲ本院電氣課ニ送付スヘシ

四　前項ノ副本ヲ送付スル場合ハ電氣通信回線票ノ例ニ倣ヒ送付書ヲ添附スヘシ

「カード」樣式ハ關係局所ニノミ別ニ之ヲ頒ツ

本達ハ明治四十三年七月一日ヨリ施行ス現在機械ニ對スル「カード」ハ同日迄ニ之ヲ調製シ且其副本ヲ本院電氣課ニ送付スヘシ但シ第四項ニ依ル送付書ノ添附ヲ要セス

（樣　式）

整理番號				据付箇所	
所管		機械名		機械番號	
種類		相流極		「サイクル」	結線法
容量		「キロワット」加熱面積	平方呎、一分間ノ流水量		立方呎
		馬力火爐面積	平方呎、一分間ノ回轉數		回轉
落差	一次	「ウオルト」落差	呎、常用汽壓（平方吋ニ付）		ポンド
	二次				
記事					
製造者名			運轉又ハ使用開始年月日	年　月　日	

○用品費、工作費支辨ノ發、變電所ヨリ他科目負擔ノ電力ヲ供給シタル場合計算方ノ件 明治四十五年四月二十日達第三八七號

用品及工作費ノ支辨ニ屬スル發、變電所ヨリ他ノ科目ニ於テ負擔スヘキ電力ヲ供給シタルトキハ發、變電所毎ニ左記ノ計算ニ依リ該電力量ニ對スル費額ヲ算出シ之ヲ用品及工作收入ノ歲入トスヘシ

一、供給電力量ニ對スル費額ハ發、變電所ニ要シタル總費額（貯藏品ヲ使用シタル場合ハ倉庫割掛ヲ加算シタルモノトス）ニ供給電力量ヲ乘シ發、變電力總量（發電機又ハ變電機ノ出力量ヲ謂フ）ニテ除シタルモノトス

二、供給電力量ハ積算電力計ノ示ス所ニ依リ積算電力計ノ設備ナキトキハ左ノ方法ヲ以テ之ヲ算定スルモノトス

（一）電燈用電力ハ左ニ記載スルモノヲ除クノ外各燈ノ所要「ワット」數ト點燈時間トニ依リ算出ス

（イ）「カーボン、ヒラメント、ランプ」ハ一燭光三、五「ワット」、「タンタラム、ヒラメント、ランプ」ハ同二、「ワット」、「タングステン、ヒラメント、ランプ」及「ヲスラム、ランプ」ハ同一、二五「ワット」ト假定ス

（ロ）定時燈ノ點燈時間ハ半夜燈ヲ六時間、終夜燈ヲ十二時間ト假定ス

（二）蓄電池ニ充電スル電力ハ充電電流ト充電時間トニ依リ算出ス

（三）動力用電力ハ電動機ノ平均負荷電流ト送電時間トニ依リ算出ス

官舍居住者竝鐵道構內營業人ノ賣店及箱番所等ニ供給シタル電燈電力ニ對シテハ別ニ定ムル料金ヲ徵收シ用品及工作費ノ支辨ニ屬スル發、變電所ヨリ供給シタルモノハ用品及工作收入、事業費ノ支辨ニ屬スル發、變電所ヨリ供給シタルモノハ鐵道作業收入ノ歲入トスヘシ

○電力計算方ノ件 明治四十五年九月十七日公報注意

四十五年四月二十日達第三八七號電力料計算方ニ就テ

一　發、變電力總量ハ積算電力計ノ示ス所ニ依リ算定シ若シ積算電力計ノ設備ナキトキハ平均ノ電流及電壓ト運轉時間トニ依リ之ヲ算定スヘシ

二　供給電力量ハ發電所ヨリ供給スルモノハ發電所又變電所ヨリ供給スルモノハ變電所ノ各出口ニ於テ算定スルヲ本則トス故ニ發、變電所ノ出口ニ積算電力計ノ設備ナクシテ供給先ノ積算電力計ニ依リ計算スル場合ニアツテモ長距離線上ノ損失顯著ナルモノニ對シテハ平素豫メ其損失ノ割合ヲ調査シ置キ相當ノ加算ヲナスヘシ但シ達第三八八號（官舍其他ノ分）ニ依ル從量計算ハ此限ニアラス

三　發、變電力總量ト供給電力總量トノ間ニ生シタル差額ニ對スル金額ハ毎月之ヲ第九項受拂簿ニ登記（利益ノ場合ハ受入ニ損失ノ場合ハ拂ニ記入スルモノトス）スヘシ

四　發電及變電ニ要スル物品ハ工作用品請求券ヲ以テ請求スヘシ

五　工場ニ供給ノ電力ニ要シタル貯藏品ニ對シテハ倉庫割掛ヲ賦加セス

六　工場以外ノ箇所ニ於テ負擔スヘキ電力料ニ對スル倉庫割掛ハ供給電力量ニ基キテ算出シタル材料（貯藏品使用高）ノ原價ニ賦加スヘシ

七　發、變電所ノ受拂ハ一ケ月毎ニ計算スヘシ

八　毎月算出ノ總費額ハ俸給及給料等ハ其月仕出シノ高ニ依リ又物品代ハ實際使用シタル高ニ依ルヘシ

九　發、變電所ニハ受拂簿ヲ備ヘ受入ノ欄ニハ現金受入高（貯藏品ヨリ受入ノ分）ヲ拂ノ欄ニハ變壓所、工場及作業其他ヘ供給シタル高竝規定又ハ契約ニ依リ徵收スヘキ電燈料等ヲ各區分記入スヘシ

十　年度末ニ於テ前項受拂簿ノ殘高ニ過不足ヲ生シタルトキハ之ヲ損益ニ組替整理スヘシ但シ使用殘品ハ翌年度ニ繰越スヘキモノトス

十一　發、變電所受拂報告書ハ明治四十三年十月達第八五三號工場經理規程第十四號樣式ニ準シ當該主務者之ヲ調製シ所管局長ニ提出スヘシ其原簿題號及記載例左ノ如シ

（イ）　現金受入ノ場合及受拂簿ノ殘高不足（利益）竝第三項利益ノ場合

貸方　用品工作受拂過不足
借方　何々發、變電所

（ロ）　貯藏品ヨリ受入タル場合
貸方　何々發、變電所轉換物品
借方　何々發、變電所

（ハ）　變電所ヘ送電ノ場合
貸方　何々發電所
借方　何々變電所

（ニ）　工場ヘ供給シタル場合
貸方　何々發、變電所
借方　何々工場勘定

（ホ）　作業其他ヘ供給シタル場合
貸方　何々發、變電所
貸方　用品工作受拂過不足
借方　收入未濟

（ヘ）　規定又ハ契約ニ依リ電燈料徵收ノ場合
貸方　何々發、變電所
借方　收入未濟

（ト）　受拂簿ノ殘高過剩（損失）及第三項損失ノ場合
貸方　何々發、變電所
借方　用品工作受拂過不足

十二　本報告ハ局長ヨリ會計課ニ提出ノ際發、變電所轉換物品ハ工場轉換物品ニ發、變電所ハ工場勘定ニ併

算スヘシ

○自營發、變電所ヨリ供給セル電燈電力料金ノ件 明治四十五年四月二十日達第三八八號 改正明治四十五年六月達第五九一號

自營發、變電所ヨリ供給セル電燈又ハ電力ニ對シ官舍居住者及鐵道構內營業人等ヨリ徵收スル料金額左ノ通定ム（代ヲ含ム）

一、定額電燈料　一箇月一燈ニ付（「ランプ」代ヲ含ム）

五燭光以下　金參拾錢
十燭光以下　金四拾五錢
十六燭光以下　金六拾錢
二十四燭光以下　金八拾五錢
三十二燭光以下　金壹圓拾錢
五十燭光以下　金壹圓七拾錢

五十一燭光以上ハ十燭光ヲ增ス毎ニ金參拾八錢ヲ增ス

但シ月ノ中途ニ於テ點燈ヲ開廢シタル場合ハ十五日以前ニ開始シ又ハ十六日以後ニ廢止シタル燈ニ對シテハ全額ヲ、十五日以前ニ廢止シ又ハ十六日以後ニ開始シタル燈ニ對シテハ半額ヲ徵收スルモノトス天災事變其他當院ノ都合ニ因リ月ノ中途ニ於テ點燈ヲ停止シ若ハ復舊シタル場合亦同シ

二、從量計算ニ依ル電燈電力料

所要電力量一「キロワット」時ニ付　金參錢五厘

但シ積算電力計及「カーボン、ヒラメント、ランプ」以外ノ「ランプ」ハ需要者ノ自辨トシ若シ積算電力計ニ不用ノモノアリテ之ヲ貸與シタル場合ハ左ノ金額ヲ本項ノ料金ニ加算徵收ス

所要電力最大限　五「キロワット」未滿　一箇月一箇ニ付　金三十錢
拾「キロワット」未滿　同　一箇月一箇ニ付　金四十錢
同　拾「キロワット」以上　同　金六十錢

本達ハ明治四十五年度ヨリ施行ス但シ現ニ特別ノ契約アルモノニハ其有效期間中本達ヲ適用セス

○積算電力計ノ共用及電燈電力料徵收方ノ件 明治四十五年六月十三日公報注意

本達ニ牴觸スル從前ノ達示ハ之ヲ廢止ス

同一ノ配電線ニ依リ當院ノ自營ニ係ル電燈又ハ電力ノ供給ヲ受クル官舍居住者ハ特ニ電線ノ增設又ハ變更ヲ要セサル場合ニ限リ數名共同シテ積算電力計ヲ使用スルコトヲ得ルモノトス

前項ノ場合ニ於テハ豫メ代表者ヲ定メテ届出ヲ爲サシメ且金ハ代表者ヨリ之ヲ徵收スルモノトス

○改良費電氣費ノ工事設計豫算具申書ニ添付ノ書類及圖表 標準ノ件 明治四十三年八月二日達第六七七號

改良費電氣費支辨ノ工事設計豫算具申書ニ添付スヘキ書類及圖表ノ標準左ノ通定ム

一　設計書
　工事設計ノ概要ヲ記載スルモノトス
二　建物設計圖
　發電所、變電所、配電所、電車庫、電機工場等ノ建物ノ平面竝竪面圖及其位置ノ略圖ヲ作成スルモノトス
三　電機裝置竝電線接續圖
　屋內ニ据付ルモノハ家屋ニ對スル位置ノ關係及鄰接又ハ關聯セル機械トノ關係ヲ示ス平面圖ヲ作成スルモノトス
四　電線路圖
　線路ノ經過スル地形、概要ヲ示シ架空線、地下線、水底線、導電軌條ヲ區別シタル平面圖ヲ作成スルモノトス
五　電線路表　第一號表ニ據ル

六 電氣機械表 第二號表ニ據ル
七 設計豫算內譯書 第三號表ニ據ル

電線路表（第一號）

線種及其番號別	線條延長概數	線路亘長概數	記事
	里 丁	里 丁	
八番裸鐵線	9′ 18″		
十二番裸銅線	6′ 12″	3′ 06″	某所某所間通信線
十一番裸鐵線	3′ 06″		
護謨被覆十番線	1′ 12″		
東京六番線	24″	24″	某所某所間電力線
六番裸銅線	24″		

注意　本表ハ一電線路毎ニ其架渉又ハ埋設、沈設セル各線條ノ種別延長ヲ掲ケ括弧ニ依リ綜合シテ其線路ノ亘長ヲ示スヘシ
「ケーブル」ハ銅何番何心入向「ケーブル」トシテ掲クヘシ

電氣機械表（第二號）

據附場所	機械名	種類	容量	個數	記事

注意　本表ノ記載方ハ電機竝附屬機械「カード」ノ例ニ依ルヘシ

設計豫算內譯書（第三號）

節	細節	數量	價格	合計	摘要
			円	円	
電氣費					
	通信機費				
	通信信號機械	座			
	屋內設備諸費				
	電車費				
	車內裝置電機	組			
	同上裝置諸費				
	電燈電力費				
	電燈電力用機械	基			
	同上据附費				
	屋內(車內)設備諸費				
	何發電所	坪			
	何變電所	坪			
	何配電所	坪			
	何電車庫	坪			
	何電機工場	坪			
	通信線路費				
	架空線	間			
	地下線	間			
	水底線	間			
	電力線路費				
	架空線	間			
	地下線	間			
	水底線	間			
	導電軌條	間			

注意　通信信號機械ノ數量中ニ異リタル種類ノモノヲ合記シタル場合ハ更ニ摘要欄ニ之ヲ內譯再掲スヘシ
價格ノ欄ニハ所掲ノ數量ニ對スル總價格ヲ記入シ一細節毎ニ合計欄ニ其計ヲ示スヘシ

○工務電氣關係工事費決算區間ノ件

大正元年九月二十五日
工丙第一四五號工務、工作課長通牒

工務關係ニ屬スル停車場（信號所及聯絡所ヲ含ム）又ハ線路ノ新設、改良ニ伴ヒ電氣工事ノ施行ヲ要スル場合之カ設計ヲ區別シ其費用ヲ通信設備又ハ電燈電力設備等電氣關係ノ決算區間ニ整理セラルル向往々有之候處右ハ電線路ノ移轉及信號機又ハ聯動機ニ要スル電氣設備ハ勿論電信器、電話器、閉塞器ノ新設、增設等一切停車場改良又ハ線路改良其他工務關係ニ屬スル相當決算區間ニ整理スヘキモノニ有之候尚右設計又ハ施行竝ニ決算ハ必ス之ヲ合併シ稟申相成度候

追テ工務關係ノ工事ト同時ニ施行スルモ電氣設備（信號機、聯動機ニ屬スルモノヲ除ク）自體ノ改良ヲ目的トスルモノハ之ヲ區別シ電氣關係ノ決算區間ニ整理ヲ要スルハ當然ノ義ニ有之爲念申添候

○電氣工事費支辨方ノ件

明治四十二年十一月十七日
公報注意

改良費ヨリ支辨スヘキ電氣ニ關スル工事ノ支出費目竝財產ノ整理方ニ關シ計理部ノ會議ヲ經テ左記ノ通九州管理局ヘ回答セリ

一、信號裝置中電氣ニ關スル部分即電氣機械器具竝其線路ニ關スル費用ハ改良費（目）電氣費（節）ノ支辨トシテ其他ノ部分ハ停車場（節）ノ支辨）

二、電線路移轉ノ費用ハ院設線路ノ移轉ナレハ全部電氣費ノ支辨、遞信省ノ線路ノ移轉ナレハ障碍物ノ取除ケト看做シ主タル工事ノ支出費目ヨリ支辨

三、前二項ニ依リ電氣費ヨリ支辨シタル工事ノ結果財產價格ニ異動ヲ生シタル場合ハ電線路ノ財產（供用品ニ屬スルモノハ除外ス）ヲ增減ス

○電氣ニ關スル官有財產處理方ノ件

明治四十四年一月十二日
公報注意

電氣ニ關スル官有財產ノ處理方ニ就キ九州鐵道管理局營業課長ノ照會ニ對シ會計倉庫兩課長ノ合議ヲ經テ左記ノ通回答セリ

一　官有財產處理規程（四十三年七月二日逓第五九九號以下單ニ規程ト稱ス）第三條第二十項電氣機械ノ部ニ變壓機ヲ編入セリ變壓機ヲ財產ニ編入スルハ何等疑義ナキモ物品稱呼鑑ニハ供用品ノ內ニ編入シアリ豫備トシテ保管シアルモノノ如キハ或ハ供用品トシテ整理スル方妥當ト認メラルル廉アリ依テ據附（電柱ニ取附タルモノヲ除ク）タルモノノ外供用品扱トシテ差支ナキヤ

二　變壓機ノ物品稱呼鑑編入替ニ付テハ目下取調中ニテ扱方ハ基礎工事ヲ施シ據附ヲ爲シタル物ノミ財產扱其他ハ總テ供用品扱ト爲ス見込

電線路增設（添架）工事ニ於テハ規程第七條第二項ニヨリ工事竣功高全部ヲ財產價格（見積額）ヲ減額スヘキモノト認ム如何

爲メ建替ヲナシタルトキハ舊電柱ノ價格ニ編入スルコトナレリ此場合ニ於テ電柱長尺變更等ノ御來意ノ通

三　改良費補充費支辨電線路移轉工事（規程第七條第三項參照）ノ中電線路亘長ノ增減アリ從テ電柱及電線ノ數量ニ增減ヲ來スカ又ハ電柱長尺末口ノ變更ヲ要スル場合ニ於テハ前項同樣新設線ノ工事竣功高ヲ增額シ舊線ノ價格ヲ減額スルコトトシタシ如何

御來意ノ通

四　電信電話電氣信號機等ノ位置變更ハ電柱ノ增設及電線延長ノ增加ヲ來ス場合アリ此場合ニ於テハ移轉ノ分ハ電氣費增設ノ分ハ補充費支辨トナスヲ相當ト認ムルモ小工事ニ於テ兩科目ヲ用フルハ整理上手數ヲ要スルコト大ナレハ斯ノ如キ場合ハ補充費ニテ新設シ舊線ハ撤去スルコトトシ差支ナキヤ

兩科目ヨリ支出スルコト整理上困難ナル場合ハ其重ナル（大部分ヲ占ムル）科目ヨリ支辨相成度

五　規程第二十二條ニ財產ヲ撤去又ハ廢棄セントスルトキハ之ヲ稟申スヘシトアリ「レピーター」電話電燈等ニ關スル些細ナル財產撤去ノ場合ニ於テモ一々稟申ヲ要スヘキヤ殊ニ前項ノ如キ場合ニ於テ一々稟申スルハ徒ラニ事ヲ煩雜ニスル嫌アリト信ス

寧決施行工事ノ結果自然不用ニ歸シタルカ如キ場合ハ稟申ヲ要セサルモ單ニ既設物ノ廢棄又ハ撤去ヲ爲サントスル場合ハ稟申相成度

六　電線路修築工事ニ際シ電柱長尺變更ノ爲建替ヲ要シ柱間距離短縮ノ爲メ增設ヲ要スルトキハ嚴格ニ解釋スレハ右ハ双方共補充費支辨ヲ相當ト認メラルルモ是等ハ便宜全部電氣費ヲ以テ支辨シ財產價格ヲ增加セサルコトトシ差支ナキヤ但臺帳ハ變更スルモノトス

電線路臺帳ノ一口座ニ於テ其兩端地點又ハ引込地點ニ變更ナク且特ニ其遺營物ヲ改良スル場合ハ例令柱數柱尺線條ノ長サ太サ等ニ多少ノ增減變更ヲ生スルモ總テ電氣費支辨トシ財產價格ヲ增減スルノ必要無之

七　規程第五條ニ依レハ財產簿ハ國有鐵道線路名稱ニ依リ區間別ニ登記スルコトトナレリ當局鹿兒島本線ノ內ニ含マシムルコトトシタシ如何

ノ過半ナリ大隅線ニ限リ鹿兒島本線ニ通スル通信線ハ大隅線ヲ經由セルモ規定ノ通御處理相成度

八　兩區間ニ跨ル電線路ノ新設工事施行ノ際ヨリ二工事トシテ整理スレハ竣功高ハ區間別ニ明瞭ナルモ右ハ實際ニ於テ多大ノ手數ヲ要スル放竣功後見積區分シ差支ナキヤ

差支無之

九　線種線番號ヲ變更スル場合ハ價格增加ノ場合ハ全部補充費增加セサルトキハ電氣費支辨トシ財產價格ハ新設ノ部ヲ增加シ撤去ノ部ヲ減額シ差支ナキヤ

第六ニ據リ類推相成度

○電氣用品類取扱方ニ關スル件

明治四十四年三月二十五日
公報注意

電氣課長照會（鐵電第三九二號）

電氣用物品類ノ處理方ニ關シ左記各項ニ對スル御意見承知致度

一、現行「物品竝數量稱呼鑑」ノ物品類別中作業場備品竝機械器具ニシテ基礎工事ヲ施シ据附ヲ爲シタルモノ（柱、壁、棚、又ハ床上等ニ捻釘ヲ以テ取付ケ容易ニ取外シテ其位置ヲ變換シ得ルモノハ含マス）ハ財産扱是等ノ物ノ据附ヲ爲ス以前若クハ取外シタル後保管中ニ係ル場合ハ工事材料扱ト爲シ其以外ノ物品ハ總テ供用品扱ト爲ス事

二、同上雜品中屋内ニ使用セル電線及其附屬品ハ規定上特ニ財産ニ編入スヘキモノヲ除ク外總テ消耗品扱ト爲ス事但白熱電燈用具ハ次項ニ據ルコト

三、白熱電燈用具ニシテ「シヤンデリヤ」「パイプペンダント」「シーリングフヰツチングス」ノ如ク最初ヨリ一個ノ物品ヲ構成シ捻釘又ハ懸金物等ニ依リ懸吊セラレ容易ニ取外シテ其位置ヲ變換シ得ルノミナラス取外シタル儘保管スル場合ニモ尚一個ノ物品トシテ其形體ヲ存スルモノハ供用品扱ト爲シ「コードペンダント」ノ如ク數種ノ破損シ易キ雜品ノ集合ヨリ成リ一旦取外ストキハ殆ント其儘再用シ難キモノハ消耗品扱ト爲ス事

倉庫課長回答　明治四十四年三月十一日　倉乙第三一一二號

鐵電第三九二號照會ニ係ル電氣用品類ノ取扱方ニ關シテハ何レモ貴見ノ通ニ有之候條了知相成度尚物品竝數量稱呼鑑中右ニ據リ難キ箇所ハ追テ訂正ノ手續可致候

○發電所、變電所、電車庫名稱　明治四十三年五月十八日　達第四二二號

改正
- 明治四十三年六月　達第五四三號
- 同年七月　達第六一三號
- 同年十月　達第八五二號
- 同年十月　達第八七七號
- 同年十二月　達第一〇四七號
- 同四十四年九月　達第六四四號
- 同年九月　達第六五八號
- 同年九月　達第七二九號
- 同年十一月　達第九二四號
- 同年十二月　達第九七八號
- 同年十二月　達第一〇一一號
- 同四十五年五月　達第四六六號
- 同年五月　達第五五六號
- 大正元年九月　達第一五二號

發電所、變電所、電車庫名稱左ノ通改ム

名稱

東部鐵道管理局管内
- 三内川發電所
- 土崎變電所
- 横川發電所
- 丸山變電所
- 天ケ崎變電所
- 輕井澤電車庫
- 横川電車庫

中部鐵道管理局管内
- 新橋發電所
- 池袋變電所
- 新宿電車庫
- 柏木發電所
- 程ケ谷變電所
- 品川電車庫

西部鐵道管理局管内
- 鷹取發電所
- 姫路發電所
- 廣島發電所
- 神戸變電所
- 大阪發電所
- 岡山發電所
- 下關發電所
- 京都變電所

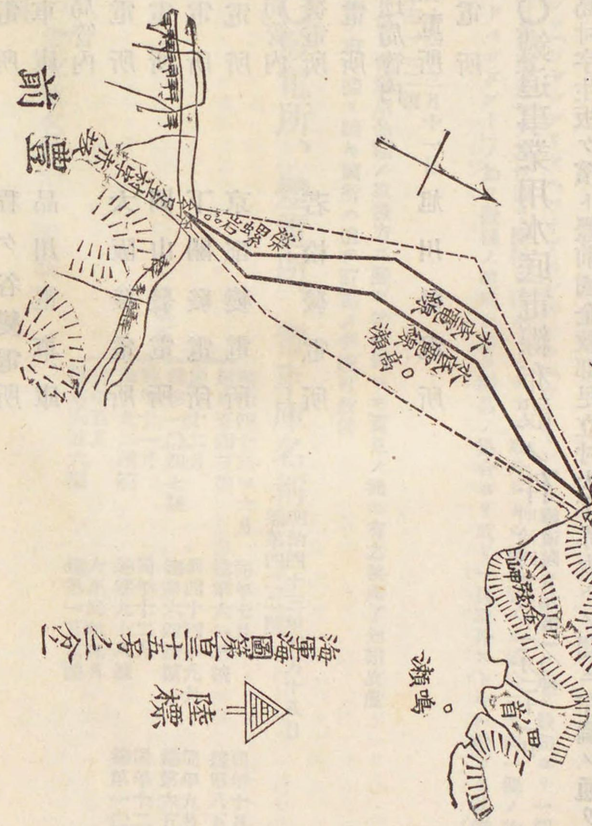
九州鐵道管理局管内
- 門司交流發電所
- 戸畑發電所
- 若松發電所

北海道鐵道管理局管内
- 岩見澤發電所
- 追分發電所
- 旭川發電所

○鐵道事業用水底電線布設ノ件　明治四十三年二月二十一日　鐵道院告示第一〇號

長門國豐浦郡彦島村字生板ケ濱ト豐前國企救郡足立村大字赤坂トノ間ニ左圖ノ通リ鐵道事業用水底電線二條ヲ布設シ兩陸揚地ノ左右ニ建設セル陸標ニ依リ指示スル二條ノ直線區域内ヲ以テ該線路トス

但直線ノ延長區域ハ相互ノ交叉點ヲ以テ限リトス



○水底電線管理ニ關スル件

明治四十三年五月二十一日
逓第四二八號

山口縣豐浦郡彦島村字生板ヶ濱ト福岡縣企救郡足立村字赤坂トノ間ニ敷設シタル水底電線ハ九州鐵道管理局ヲシテ之ヲ管理セシム

○電氣事業主任技術者資格檢定規則

明治四十四年九月五日
遞信省令第二七號

改正　明治四十五年
遞信省令第三六號

電氣事業主任技術者資格檢定規則左ノ通定ム

電氣事業主任技術者資格檢定規則

第一條　電氣事業主任技術者ノ資格ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ檢定ス

等級	電氣事業ノ種類
第一級	電氣供給事業及電氣鐵道事業
第二級	一萬五千「ヴオルト」以下ノ電氣供給事業及電氣鐵道事業
第三級	低壓又ハ高壓ノ電氣供給事業及電氣鐵道事業
第四級	低壓又ハ高壓ノ電氣供給事業
第五級	低壓ノ電氣供給事業

第二條　檢定ハ遞信大臣ノ命シタル檢定委員之ヲ行フ

第三條　檢定ハ左ノ試驗科目ニ付試驗ヲ行ヒ合格シタル者ニハ合格證書（第一號樣式）ヲ付與ス

一　電氣理論（第四級及第五級ニハ之ヲ除ク）
二　電氣機械及變壓器竝ニ附屬器具（第五級ニハ電力輸送ヲ除ク）
三　電力輸送竝配電（第四級及第五級ニハ之ヲ除ク）
四　電燈（第五級ニハ之ヲ除ク）
五　電氣鐵道
六　蓄電池
七　電氣及磁氣測定
八　發電所設計附原動機

第四條　元工部大學校又ハ帝國大學ニ於テ電氣工學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者又ハ電氣工學ニ關シ工

學博士ノ學位ヲ有スル者ハ第一級ノ資格ヲ有スルモノトス
元東京工業學校、高等工業學校又ハ早稻田大學大學部ニ於テ電氣機械工學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者ハ第三級ノ資格ヲ有スルモノトス

第五條　第三級以上ノ資格ヲ有スル者ニシテ滿二年以上電氣技術ノ實務ニ從事シ責任アル地位ニ在リタル者ハ檢定委員ノ銓衡ヲ經試驗ニ依ラスシテ上級ノ合格證書ヲ受クルコトヲ得

第六條　試驗檢定ハ每年一回之ヲ行ヒ其ノ期日及場所ハ豫メ之ヲ官報ニ公告ス但シ遞信大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時ニ之ヲ行フコトアルヘシ
銓衡檢定ハ隨時之ヲ行フモノトス

第七條　試驗檢定ヲ受ケムトスル者ハ指定ノ期日マテニ履歷書（第三號樣式）、戶籍ノ謄本又ハ抄本及寫眞ヲ添ヘ檢定申請書（第二號樣式）ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ
銓衡檢定ヲ受ケムトスル者ハ隨時ニ履歷書（第三號樣式）、戶籍ノ謄本又ハ抄本竝資格ノ證明書ヲ添ヘ檢定申請書（第二號樣式）ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ
外國人ニ在リテハ身分ニ關シ本國領事ノ證明アル書面ヲ以テ戶籍ノ謄本ニ代フルコトヲ得

第八條　檢定ヲ申請スル者ハ左ノ區別ニ從ヒ檢定手數料ヲ納ムヘシ

等級	檢定手數料
第一級	十圓
第二級又ハ第三級	五圓
第四級又ハ第五級	二圓

第九條　前條ノ手數料ハ收入印紙ヲ檢定申請書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ
既納ノ手數料ハ檢定ヲ受ケサル場合ト雖之ヲ還付セス

第十條　檢定委員ニ於テ檢定申請者カ其ノ資格又ハ履歷ヲ僞リ若ハ試驗ニ際シテ不正ノ行爲アリタリト認メタルトキハ其ノ檢定ヲ無效トス

合格證書付與ノ後ニ於テ前項ノ事實アリタルコトヲ認メタルトキハ其ノ合格證書ヲ無效トス

第十一條　合格者ハ之ヲ官報ニ公告ス

附　則

第十二條　本令ハ明治四十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條　本令發布ノ際電氣事業取締規則ニ依ル主任技術者タル者ハ本令施行ノ日ヨリ一年六箇月內ヲ限リ現ニ從事スル電氣事業又ハ第一條ノ區別ニ依リ之ニ相當スル等級ノ電氣事業主任技術者タルコトヲ得
本令發布前三年內ニ於テ電氣事業取締規則ニ依ル主任技術者タリシ者ニシテ同期間內ニ於テ滿二年以上電氣技術ノ實務ニ從事シタル經驗ヲ有スル者ハ檢定委員ノ銓衡檢定ヲ經テ合格證書ヲ受クルコトヲ得

（第一號樣式）

第　號

電氣事業主任技術者檢定合格證書

道府縣族籍
氏　名　生年月日

檢定ノ等級　第（何）級
右電氣事業主任技術者檢定規則ニ依リ（或規ノ試驗ヲ經テ前記等級ノ資格ニ合格シタルコトヲ證ス）（檢定委員ノ銓衡ヲ經テ前記等級ノ資格ヲ有スル者ト檢定ス仍テ之ヲ證ス）

年　月　日　電氣事業主任技術者資格檢定委員長　氏　名　印
電氣事業主任技術者資格檢定委員長ノ證明ヲ認了シ茲ニ合格證書ヲ付與ス

年　月　日　遞信大臣　氏　名　印

（第二號樣式）（用紙美濃紙）

收入印紙

電氣事業主任技術者資格檢定申請書

族籍
申請人　氏　名
生年月日

檢定ノ等級　第（何）級

私儀電氣事業主任技術者資格檢定規則（ニ依リ前記等級ノ試驗）（第五條ニ依リ前記等級ノ銓衡）（第十三條ニ依リ前記等級ノ銓衡）檢定相受度同規則第七條ニ依ル書類ヲ添ヘ此段申請候也

現住所
年　月　日　右　氏　名㊞

遞信大臣宛

（第三號樣式）（用紙美濃紙）

履　歷　書

族籍
氏　名
生年月日

學　業

一　何年何月何日　何學校何科ニ入學
一　何年何月何日　何學校何科修業又ハ卒業又ハ退校
一　〃　〃　〃　（卒業證書ノ謄本別紙ノ通）

職　務

一　何年何月何日　何官廳（官職名記載）何會社又ハ何商店ニ於テ何々ノ職務ニ從事
一　〃　〃　〃
賞　罰
一　何年何月何日　何々
右ノ通相違無之候也

年　月　日

現住所
氏　名㊞

大正元年十二月十日印刷
大正元年十二月十二日發行

鐵道院總裁官房文書課編纂

電氣與附
定價金貳拾七錢

發行者 大谷仁兵衛
東京市京橋區南鍋町一丁目十番地

印刷者 井田耕治
東京市京橋區南鍋町一丁目十番地

22371